

平成 29 年度言語研修

ハンガリー語研修テキスト

Magyar kis nyelvkönyv

ハンガリー語の会話と文法

大島 一 著

ビリック・エヴァ 著

東京外国語大学

アジア・アフリカ言語文化研究所

2017



まえがき

ハンガリー語は語順をはじめ言葉の構造が日本語によく似ていますので日本人にとって比較的学びやすい言語といえるでしょう。ただ発音の面ではかなり異なる点が多くあります。ネイティブの発音をよく聞き取り正しい発音を身につけるようにしてください。

ハンガリー語は動詞と名詞が文の中で大きな役割を担っています。つまり文法的には名詞の格の使い方や動詞の活用が大きなポイントとなります。名詞には豊富な場所の格接尾辞があり、空間把握に大変敏感な言語であることが分かります。そして、動詞には、他動詞がとる対格目的語が定まったものかそうでないかで二通りの活用が備わっています。このことは、動詞の活用のなかに、主語の人称だけではなく、目的語の定・不定（および会話参与者かどうか）といった情報までも組み込まれていることを意味します。

本書は「発音と文字」および第1課～第20課からなり、各課ごとに会話テキスト、文法解説、そこに現われる単語のリスト、そして、文法内容や語彙習得を深めるための練習問題を加えています。基本的なハンガリー語の会話の運用力とともに読解力を身につけるため、ビリック・エヴァ先生（東京外国語大学語学講師）と綿密に準備したものです。このテキストを終える頃には、覚えた語彙と文法によって、会話力および文章読解力が養われるよう、切に願っています。

2017年8月9日

大島 一

（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 ジュニア・フェロー）

目次

まえがき	2
文字と発音	5
1. アルファベット	5
2. 母音(magánhangzó)	8
3. 子音(mássalhangzó)	11
4. 母音調和	17
5. アクセント	18
első lecke	
第1課 あいさつ (Köszönés)	19
második lecke	
第2課 これは何? (Mi ez?)	25
harmadik lecke	
第3課 何を頼む? (Mit kérsz?)	35
negyedik lecke	
第4課 ハンガリー語を勉強しています (Magyarul tanulok)	44
ötödik lecke	
第5課 りんごが好きです (Szeretem az almát)	53
hatodik lecke	
第6課 どこで勉強していますか? (Hol tanul?)	63
hetedik lecke	
第7課 夏はどこへ行くの? (Hova mész nyáron?)	73
nyolcadik lecke	
第8課 バスはどこから来ますか? (Honnan jön a busz?)	81
kilencedik lecke	
第9課 熱がありますか? (Láza van?)	90
tizedik lecke	
第10課 妻の名前の日です (A feleségem névnapja van)	100
tizenegyedik lecke	
第11課 切符をどうすればいいの? (Mit kell csinálni a jeggyel?)	107

tizenkettedik lecke		
第 12 課	昨夜は何をした？ (Mit csináltál tegnap este?)	118
tizenharmadik lecke		
第 13 課	過去のこと (Múlt mesék)	129
tizennegyedik lecke		
第 14 課	民話『塩』 (Népmese „Só”)	136
tizenötödik lecke		
第 15 課	まっすぐ行ってください (Menjen egyenesen!)	143
tizenhatodik lecke		
第 16 課	それを見ましょう！ (Nézzük meg azt!)	152
tizenhetedik lecke		
第 17 課	ハンガリーのクリスマス (Karácsony Magyarországon)	162
tizennyolcadik lecke		
第 18 課	ケーセグ城を見るために (Azért, hogy megnézzük a kőszegi várat)	166
tizenkilencedik lecke		
第 19 課	もしお金持ちなら... (Ha gazdag lennél...)	174
huszadik lecke		
第 20 課	髪を切って染めてほしい (Vágatni és festetni szeretnék)	184
参考文献 192		

文字と発音

1. アルファベット

文字	名称	発音	IPA
Aa	ア	[ɒ]	[ɒ]
Áa	アー	[ɑ:]	[ɑ:]
Bb	ベー	[b]	[b]
Cc	ツェー	[tse:]	[ts]
Cs cs	チェー	[tʃe:]	[tʃ]
Dd	デー	[de:]	[d]
Dz dz	ヅェー	[dze:]	[dz]
Dzs dzs	ジェー	[dʒe:]	[dʒ]
Ee	エ	[ɛ]	[ɛ]
Éé	エー	[e:]	[e]
Ff	エフ	[ɛf]	[f]
Gg	ゲー	[ge:]	[g]
Gy gy	ヂェー	[ʒe:]	[ʒ]
Hh	ハー	[hɑ:]	[h]

Ii	イ	[i]	[i]
Íí	イー	[i:]	[i:]
Jj	イエ	[je]	[j]
Kk	カー	[ka:]	[k]
Ll	エル	[ɛl:]	[l]
Lyly	エリプシロン	[ɛlipsilon]	[j]
Mm	エム	[ɛm:]	[m]
Nn	エヌ	[ɛn:]	[n]
Nyny	エニユ	[ɛɲ:]	[ɲ]
Oo	オ	[o]	[o]
Óó	オー	[o:]	[o:]
Öö	エ	[ø]	[ø]
Ö'ö'	エー	[ø:]	[ø:]
Pp	ペー	[pe:]	[p]
Qq	クー	[ku:]	[k]
Rr	エッル	[ɛr:]	[r]
Ss	エシユ	[ɛʃ:]	[ʃ]

Sz sz	エス	[ɛs:]	[s]
Tt	テー	[te:]	[t]
Ty ty	チェー	[ce:]	[c]
Uu	ウ	[u]	[u]
Úú	ウー	[u:]	[u:]
Üü	ユ	[y]	[y]
Űű	ユー	[y:]	[y:]
Vv	ヴェー	[ve:]	[v]
Ww	ドゥプラヴェー	[duplɒve:]	[v]
Xx	イクス	[iks]	[ks]
Yy	イプシロン	[ipsilon]	[i]
Zz	ゼー	[ze:]	[z]
Zs zs	ジェー	[ʒe:]	[ʒ]

ハンガリー語の文字¹体系は概して（形態）音素的表記と言える。しかし、これは文字と発音が常に一致しているということではない。以下、例外：

¹ 現存するハンガリー語最古の文字列は、1055年のティハニユ (Tihany) 修道院の建立礼状 (Atihanyi alapítólevél, オリジナルはパンノンハルマ修道院に保管) の中に、ラテン語にまみれてみられる以下のハンガリー語の節である：

fēheruuaru rea meneh hodu utu rea

azt [ˈɒst] 「あれを」, cseh [ˈtʃɛ] 「チェコ (の)」, merre [ˈmɛ:rɛ] 「どちらへ」, Attila [ˈɒtilla], elmentetek [ˈɛlmentetek] 「君たちは行ってしまった」²など。

2. 母音 (magánhangzó)

a [ɒ] 後舌・広・円唇・短母音。日本人には一見「オ」のように聞こえるが、平唇母音の「ア」を円唇で発音したものと思えば良い。方言によっては、[ɑ] (後舌非円唇) になったり [a] (前舌非円唇) のものもあるので、あくまで á の短母音である。最もハンガリー語らしい母音のひとつ。例, alma [ˈɒlma] 「りんご」。³

á [ɑː] 後舌・(大) 広・平唇・長母音。日本語の「アー」に良く似ているが、日本語の「ア」及び短母音の a [ɒ] より少々広く発音する。方言によっては [ɒː] になったり, [aː] になったりもする。ハンガリー人も主観的には á と a は別の音だと思っている。例, ár [ɑːr] 「値段」, altaji [ˈɒltɑːji] 「アルタイの」, Gaál [ˈgɑːl] 「ガール (姓)」, Gaal [ˈgɑːl] 「ガール (姓)」。

o [ɔ] 後舌・中狭・円唇・短母音。日本語の「オ」[ɔ] よりも心持ち狭い ([u] に近い)。例, osztály [ˈɒstɑːj] 「課」。

ó [oː] [ɔ] の長母音。[ɔ] よりも狭いので日本語の「オー」とは違って聞こえる。例, óváros

[ˈoːvaːroʃ] 「元町」, Soó [ˈʃoː] 「ショー (姓)」。

u [u] 後舌・狭・円唇・短母音。日本語の「ウ」[u] (非円唇) とは異なる。はっきりと唇を丸めて前方に突き出し「ウ」と発

(Fehérvárra menő hadi útra)

「フェヘールヴァールに至る軍道へ」

かように、当時の音を模写したと思われるハンガリー語であるが、語末に母音が目立つ開音節であったことが伺える。

²ハンガリー標準口語 (köznyelv) では区別していないが、厳密にいうと、「e」には「狭い e [e]」と「広い e [ɛ]」が存在する。ハンガリーの「国語辞典 (洪・洪辞典) である Magyar Értelmező Szótár や、作曲家コダーイ (Kodály) も採集したハンガリー民謡の歌詞において、この2つの e を区別して、狭いほうを ë と表記している。たとえば、上の例にある elmentetek も、これに従えば, elménteték となる。

ただし、標準口語の有力な方言である首都のブダペスト方言ではこの2つを区別していないため、実際に我々が手に取る文法書などでも区別表記はされていない (標準語とブダペスト方言は厳密に区別されるべきだとは思いますが...)

³この音の長母音である a [ɒː] は例外的に以下の環境で現れる。例, arra [ˈɒː rɒ] 「あちらに」, arról [ˈɒː rɒl]。なお, ara [ˈɒ rɒ] 「許嫁」, ára [ˈɑ rɒ] 「(～の) 値段」。

音する。日本語の「ウ」はハンガリー人には「y」（前舌円唇，ハンガリー語でいえば ü）に聞こえる。例，*után* ['uta:n]。

ú[u:] [u]の長母音。[u]よりも狭く発音する。例，*úr* ['u:r]「殿方」，*kun* ['ku:n]「クマン人」，*Kuun* ['ku:n]「クーン（姓）」。

e[e] 前舌・中狭・平唇・短母音。日本語の「エ」[e]よりも狭い。文法的には o, ö と対を成す（例，*-hoz/-hez/-höz*「～のところへ」，*-ok/-ek/-ök*「（複数マーカー）」）。例，*mentek* ['mentek]「行く（2人称複数現在）」，*mentek* ['mentek]「助ける（1人称単数現在不定活用）」⁴，*szem* ['sem]「目」。

e[ɛ] 前舌・広・平唇・短母音。日本語の「エ」に近い。文法的には a と対を成す（例，*-ban/-ben*「～の中に」，*-nál/-nél*「～のところに」）。例，*ez* ['ez]「これ」。

é[e:] 前舌・（小）狭・平唇・長母音。[e]の長母音。ただし，[e]よりも少し狭く，日本人の耳には「イー」と聞こえるので発音には注意が必要である。「イー」に似せるつもりで「エー」と発音すること。ただし，é を[i:]と発音する方言もある。例，*kéz* ['ke:z]「手」，*ég* ['e:g]「燃える」「空」⁵，*Veér* ['ve:r]「ヴェール（姓）」⁶。

i[i] 前舌・狭・平唇・短母音。日本語の「イ」と大体同じ。例，*itt* ['it:]「ここで」，*díjas* ['di:jɔʃ]「賞の」，*Esterházy* ['ester.ha:zi]「エステルハージ（姓）」。

í[i:] [i]の長母音。耳で聞いただけではほとんど感じられないが，実際には長母音中，短母音に対する舌の狭まり方が最も激しい母音。[i], [i:]も[e], [e:]と並んで後舌母音の語に出現する（例，*híd* ['hi:d]「橋」～*hidat* ['hidɔt]「橋を」）が，歴史的にはそれらの[i], [i:]は[u], [u:]（後舌非円唇）であった可能性が高い⁷。例，*íz* ['i:z]「味」，*Ybl* ['i:bl(:)]「イーブル（姓）」。

⁴mentek には以下の四通りの意味が考えられる：

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1. [mentek] men-tek | 「行く」の2人称複数現在 |
| 2. [mentɛ k] men-t-ek | 「行く」の3人称複数過去 |
| 3. [mɛ ntek] ment-ek | 「助ける」の1人称単数現在不定活用 |
| 4. [mɛ ntɛ k] ment-ek | 「免れた」(ment (古語))の複数形 |

⁵「空」の意味のégは，egek [ɛ gek]（複数形），eget [ɛ ge t]（対格形）と語頭のéが短母音のeに変化する。

⁶例外として，erre [ɛ rɛ]「こちらへ」，erről [ɛ rɔl]「こちらから」のように，異音としてe[ɛ]が現れることもある。

⁷セーケイ地方（現ルーマニア）の地名Csík [tʃ ik]「チーク」も，Csíkot [tʃ iko]「チークを」の

ö[ø] 前舌・中狭・円唇・短母音。[e]を出しながら、舌が[o]の時のように後ろに下がってしまわないように注意しながら唇だけを丸めていくと自然に[ø]の音が出る。日本人には「ウ」と聞こえるかもしれない。例, öreg[ˈøɾɛɡ]「年老いた」, Weöres[ˈvøɾøʃ]「ヴェレシュ(姓)」, Thewrewk[ˈtøɾøk]「テレク(姓)」⁸。

ő[øː] [ø]の長母音。例, ősz[ˈøːs]「秋」, Beöthy[ˈbøːti]「ベーティ(姓)」, Dessewffy[ˈdɛʒøːfi]「デジェーフィ(姓)」。

ü[y] 前舌・狭・円唇・短母音。[i]を発音してからハンガリー語の円唇の[u]を発音してみるとよい。または[ø]の調音をしてから舌の位置を上にあけても[y]の音となる。例, füst[ˈfʏʃt]「煙」。

ű[yː] [y]の長母音。例, űz[ˈyːz]「追う」。

§ハンガリーのタイプライターにはú, í, üの活字が無く、それぞれ, u, i, üで代用される⁹。タイプ原稿を印刷するときにはもともにもどさなくてははいけない。また、ハンガリーで電報を打つと, á, é, í, ó, ú, ö, ő, ü, űはaa, ee, i, oo, u, oe, oe, ue, ueとして印字される。

※母音の発音練習：

i [i] → (舌をさげる) → é [eː] → (舌を下げる) → e [ɛ] →
(舌を下げる) → á [ɑː] → (唇を丸める) → a [ɒ] →
(舌を上げる) → o [o] → (舌を上げる) → u [u] →
(舌の調音点を前に) → ü [y] → (舌を下げる) → ö [ø]

ように後舌母音として振舞うが、後にこの地名を聞いたルーマニア人は, Ciuc[ˈtʃ uk]と後舌母音表記にした。これはルーマニア人が南から尾根づたいにエルデーイ(トランシルヴァニア)地方に進出して来た当時13世紀頃のCsíkの実際の発音が[ˈtʃ uːk]であった蓋然性を極めて高くするものであろう。

⁸török[ˈtøɾøk]「トルコの」の苗字化による過去の異表記。

⁹現在でも、Windowsでのハンガリー語版キーボードにはíに割り当てのキーがない(Altキーを使ったコンビネーションで打たなければならない)。また、こうした上段(狭)母音に長母音のキーがないということが、ハンガリー語話者に対して長短の弁別を減じさせているという社会言語学的研究も存在する。現に, kíván「願う」は[kívaːn]のように短母音のiで発音されるし, fiú「少年」は[fiu]として短母音のuで発音されるのが普通である。

3. 子音 (mássalhangzó)

それぞれの子音の発音は、おおよそ次のとおり。

p [p] 無声・両唇・破裂子音。日本語のパ行の子音とほぼ同じ。例, piros [piro] 「赤い」, Papp [pɒp] 「パプ (姓)」, Zágrábhhoz [za:gra:phoz] 「ザグレブへ」

b [b] [p]の有声音。日本語のバ行とほぼ同じ。例, bor [bor] 「ワイン」, szépben [se:b:ɛn] 「美しさにおいて」

t [t] 無声・歯茎・破裂子音。日本語のタの子音と似ているが、帯気音を伴わないように発音すべきである（無教養とされる）。例, toll [tol:] 「羽根毛, ペン」, Kossuth [koʃu:t] 「コシュート (姓)」, Attila [ɒtilla] 「アティッラ (名)」, adtam [ɒt:ɒm] 「私はそれを与えた (1人称単数過去)」

d [d] [t]の有声音。日本語のダ行とほぼ同じ。例, dollár [dolla:r] 「ドル」, testben [teʒdben] 「体の中に」, add még [ɒdme:g] 「それにそれを足せ」, Tóthból [to:ɒbo:l] 「トート (姓) から」

ty [c] 無声・硬口蓋・破裂子音。対応する無声音[tʃ]と並んで最もハンガリー語らしい子音のひとつ。チャ行の子音のように発音するのではなく、キャ行の子音を発音するつもりで舌の背面の中央部と硬口蓋で閉鎖をつくる。最初は意識的に舌の先端を下歯茎に押しつけたまま「テャ」というつもりで練習する。例, tyúk [cu:k] 「めん鳥」, barátja [bora:c:ɒ] 「彼 (女) の友人」, vágyhoz [va:choz] 「欲求に」, Batthyány [bɒc:a:ɲi] 「バッチャーニ (姓)」, Guthja [gu:c:ɒ] 「彼 (女) のグート (姓)」

gy [j] [c]の有声音。例, gyomor [jomor] 「胃」, maradj [mɒrɒj:] 「残れ (命令法 2人称単数)」, rétybeli [re:jbeli] 「レーチ (村) 所属の」

k [k] 無声・軟口蓋・破裂子音。日本語のカ行に似ているが、[t]と同様に帯気音を伴わないようにしなければならない。例, kaka [kɒkɒ] 「うんこ」 (「うんち」は kaki という), vígság [vi:kɒsɒ:g] 「祝い」, Casanova [kɒsɒno:vo] 「カサノヴァ」, aggkor [ɒk:or] 「老年」, quint [kvint] 「五度音程」

g [g] [k]の有声音。 /g/は語頭だけでなく語中でも[g]のままである。日本語やフィンランド語のように[n] (軟口蓋鼻音) になることはない。例, engem [engem] 「私を」, agár [pɒɟa:r] 「アガール犬」¹⁰, gomb [gomb] 「ボタン」, Balogh [bɒlog] 「バログ (姓)」, zsákban [zɒ:ɡ ban] 「袋の中に」, makkban [mɒɡban] 「(ハンガリートランプの札の記号) どんぐりに」

m [m] 有聲・両唇・鼻音。 だいたい日本語の[m]。例, bomba [bomba] 「爆弾」, bánmenesztés [ba:m.enɛste:j] 「太守解任」, Grimmhez [grimhez] 「グリムに」

n [n] 有聲・歯茎・鼻音。 だいたい日本語のナの子音。音節を閉じる時に日本語のように [N]になるのは稀で、歯茎閉鎖音のまま。例, japán [jɒpɒ:n] 「日本の」 ([jɒpɒ:N]ではない)。また, ni [ni]は日本語の「ニ」 ([ni]ではない)。

ny [ɲ] 有聲・硬口蓋・鼻音。 日本語のニヤ行の子音に近い。日本語の「ニ」はハンガリー語の niではなく nyiの方に近いので注意。例, nyúl [ɲu:l] 「うさぎ」, bánja [ba:ɲɒ] 「彼(女)はそれを後悔している」

r [r] 有聲・歯茎・ふるえ音。 英語の[r] (歯茎・摩擦音), フランス語の[R] (口蓋垂・ふるえ音) などとは違う。江戸弁の「べらんめえ調」のラ行の子音がこれに近い。日本語の語中のラ行の子音[r]は[r]に近いので、普通のラ行で発音しても理解可能である。例, rózsá [ro:ʒɒ] 「バラ (の花)」, szélrózsá [se:ro:ʒɒ] 「十六方位図」

f [f] 無聲・唇歯・摩擦音。 下唇の上に上歯を軽くのせて、そのまま息を吹き出す摩擦音。例, forint [forint] 「フォリント (ハンガリーの通貨)」, Pálffy [pa:lfi] 「パールフィ (姓)」, Szophoklész [sofokle:s] 「ソフォクレース (人名)」, savfok [ʃɒf:ok] 「酸度」, Bukowhoz [bukofhoz] 「ブコヴ (将軍名) に」

v [v] [f]の有声音。 なお、ハンガリー人には日本語の/w/は/v/に聞こえる。例, vonó [vono:] 「(楽器の) 弓」, quota [kvo:to] 「量」, Wacha [vɒfɒ] 「ヴァハ (姓)」, Düsseldorfban [dys:ɛldɒrvɒn] 「デュッセルドルフで」

¹⁰ハンガリアン・グレイハウンド。9世紀にハンガリー人が持ち込んだグレイハウンドタイプの犬が土着化したものらしい。

sz [s] 無声・歯茎・摩擦音。だいたい日本語のサの子音。ただし、sz[i]は日本語の「シ」とは違うので注意。[s]の発音ができずに[θ]の発音をする者を pösze[pøse, pøθe]と呼び、また[j]の発音をするを selypít[sejpi:t]するという。[s]の代わりに[t]を発音するものもいる。例, szép [se:p]「美しい」, Esterházy [esterha:zi]「エステルハージ (姓)」, százforintos [sa:sforintos]「百フォリント札」, Alice [plis, pli(:)z]「アリス, アリ (一ズ (女の名))」

z [z] [s]の有声音。日本人は[z]を摩擦音ではなく、破裂音[dz]で発音してしまいがちなので要注意。「サ」と発音してみると、舌の先は下あごにはりついたままで上の歯茎にはふれないが、「ザ」と発音してみると、舌の先が上の歯茎にさわる。この時、「サ」と発音するつもりで意識的に舌を下におしつけたまま有声音を発する時に得られる音が[za]である。例, zongora [zɔŋgorɒ]「グランドピアノ」, jászbarát [ja:zborɒ:t]「親ヤジグ人の」

s [ʃ] 無声・歯茎・硬口蓋・摩擦音。日本語のシャ行の子音[ɕ]とは大分違う。ポーランド語の硬い sz[ʃ]と柔らかいśのほぼ中間の音。だいたい、英・独・仏・伊語の[j]音に近い。例, só [ʃo:]「塩」, darázsfaszek [ˈdɒrɒ:ʃfɛ:sek]「クマンバチの巣」, Sass [ʃɒ]「シャシュ (姓)」

zs [ʒ] [j]の有声音。日本人は[z]を[dz]と発音しがちなように、[ʒ]も[dz]と破擦音的に発音しがちであるので注意が必要。コツは[z]と同じで、[s]を[j]と交換すれば良い。例, zsargon [ʒɔrgɔn]「俗語」, Dósa [do:ʒɒ]「ドージャ (人名)」, Sombori [ʒombori]「ジョンボリ (姓)」, jury [ʒyri]「審査委員会」

j/ly [j] 有聲・硬口蓋・摩擦音。日本語のヤの子音に近い。日本語のヤ行の子音がどちらかというと「イ」[i]の無声化した半母音であるのに対し、ハンガリー語のj/lはより子音的で、舌が日本語のものよりも持ち上がっている。

なお、lyの音価は共通語においては[j]であるが、歴史的にいても、また現に一部の方言でも[ʎ](ɽ)であり、別の方言では[lj]として実現する。(例, jó [jo:]「良い」〈全国〉: folyik「流れる」[folik]〈西ハンガリー〉～[foʎik]〈北ハンガリー〉～[fojik]〈その他の地域〉) これを書記素 lyを jに統一

しない理由である。例, juh [juh] 「羊」, lyuk [juk] 「穴」, kiabáljon [kiɒba:j.on] 「叫べ (命令法 3 人称単数不定活用)」, yen [jɛn] 「円」

h [h] 無声・声門・摩擦音¹¹。日本語の「ハ」の子音に近いが、日本語の方が少々前の方で調音され心持ち[x]に近いようだ。例, hon [hon] 「国」, chanti [honti] 「ハンティ (人) の」

c [ts] 無声・歯茎・破擦音。日本語の「つ」の子音に近い。caは東京下町方言の「おとつつあん」の「つあ」に近い。例, cápa [tsa:pa] 「鮫」, Koncz [konts] 「コンツ (姓)」, látsz [la:ts:] 「君は見える」, Zigány [tsiga:n] 「ツイガーニ (姓)」, Lipóty [lipo:tsi:] 「リポーツィ (姓)」

dz [dz] [ts]の有声音。日本語の「ザ」の子音に似ている。本来のハンガリー語の音素ではないため、二重子音的性格が強く、語頭を除いてはdとzの間に音節境界が入り、長めに発音される。例, dzigol [dzigol] 「はめる」 (=baszik)¹², edző [ɛdzø:] 「コーチ」, zaciban [zɔdzɒn] 「コーヒーのかすの中に」, étzebra [e:dzɛbrɔ] 「食用縞馬」, játszd [ja:dzd] 「それを弾け! (命令法 2 人称単数定活用)」

cs [tʃ] 無声・歯茎・破擦音。日本語のチャの子音に似ている。ポーランド語のcz[tʃ]よりも軟らかく, c[tɕ]よりも硬い。例, csók [tʃo:k] 「口づけ」, ments [mentʃ] 「私を助けて!」, Madách [mɔda:tʃ] 「マダーチ (姓)」, bridzsparti [britʃparti] 「(トランプの) ブリッジ・パーティー」

dzs [dʒ] [tʃ]の有声音。日本語の「ジ」の子音[dʒ]に似ている。[dʒ]も二重子音的性格が強く、語頭を除いてはdとzsとの間に音節境界が入り、長めに発音される。例, dzsungel [dʒuŋgel] 「ジャングル」, étzsömlé [e:dʒømlɛ] 「食用ロールパン」, Bécsben [be:dʒben] 「ウィーンにて」, ejtsd [ejdʒd] 「発音せよ!」, joker [dʒo:ker] 「ジョーカー」, gentry [dʒɛntri] 「ジェントリー」

¹¹ h [h] [h]の有声音。[h]音が両側とも母音に挟まれている時にのみ出現。音素ではない。例, mohó [moh o] 「食い意地が汚い」

¹² この隠語が dz が語頭にくる唯一の例であるという。

1 [] 有声・歯茎・側音。日本語の語頭にくるラ, レ, ロの子音。及び「あつれ, まあ!」の「れ」の子音などが[]に近い。例, cola [ko:ɫɔ] 「コーラ」, líra [li:ɾɔ] 「叙情文学」

§ハンガリーにおいてはhの文字は黙字の場合がある。

例, cseh [tʃɛ] 「チェコの」 ~ Csehország [tʃɛɔrsɑ:g] 「チェコ」,

しかし, csehek [tʃɛhek] 「チェコ人たち」 ~ csehet [tʃɛhet] 「チェコ人を」 ~ csehül [tʃɛhɯl] 「チェコ語で」

! 語末のhは発音されない傾向にあるが (他に méh [me:] 「ミツバチ」, だが juh [juh] 「羊」),

このように接尾辞等を取ると発音されることに注意。

※子音の同化現象

子音のペア:

無声子音 p t k f sz s c cs ty h

有声子音 b d g v z zs dz dzs gy j ly m n ny l r

・有声化

有声子音 (b, d, g, z, zs, dz, dzs, gy) の前の無声子音は対応する有声音に変わる。

例, népdal (→nébdal) 「民謡」, kútból (→kúdból) 「泉から」, lásd (→lázd) 「見よ!」, gyermekgyógyász (→gyeregggyógyász) 「小児科医」

→有声子音 v の前の無声子音は変わらないことに注意! 例, Kaposvár 「カポシュヴァール (地名)」 (Kapozsvár にはならない)

・無声化

無声子音 (h も含む) の前で有声子音 (b, d, g, v, z, zs, dz, dzs, gy) は対応する無声子音に変わる。

例, sebkötés (→sepkötés) 「傷縫い合わせ」, világháború (→vilákháború) 「世界大戦」, nyelvtan (→nyelftan) 「文法」, vízcsap (→vízcsap) 「蛇口」, nagyszülő (→natyszülő) 「祖父母」, rizsföld (→risföld) 「水田」

※発音に慣れる: 早口言葉 (nyelvtörő)

1. Mit sütsz, kis szúcs? Tán sós húst sütsz, kis szúcs?

「君は何を焼く, 小さな毛皮職人? たぶん塩漬け肉を焼くじゃないか, 小さな毛皮職人?」

2. Jobb egy lúdnyak tíz tyúknyaknál.

「一羽のガチョウの首は10羽のニワトリの首よりも良い」

3. Egy meggymag meg még egy meggymag.

「サワーチェリーの実ひとつ、もうひとつサワーチェリーの実」

4. Sárga bögre görbe bögre.

「黄色のマグカップは曲がったマグカップ」

5. Az ipafai papnak fapipája van, tehát az ipafai fapipa papi fapipa.

「イパファ¹³の僧侶には木のパイプあり、したがってイパファの木のパイプは僧侶の木のパイプだ」

6. Nem minden fajta szarka farka tarka, csak a tarka fajta szarka farka tarka.

「すべての種類のカササギの尾がまだらではない、まだらの種類のカササギの尾のみがまだらだ」

7. Öt török öt görögöt dögönyöz.

「5人のトルコ人が5人のギリシア人を殴る」

8. Répa, retek, mogoró, korán reggel hármat rikkant a rigó.¹⁴

「蕪、大根、ヘーゼルナッツ、朝早く三度ツグミ鳴く」

9. Kerekes kerekét kerekíti kereken kerekre.

「車輪の付いた車輪を平らに丸く丸める」

ハンガリーの民謡 (népdal) : Tavaszi szél vizet áraszt 「春の風は水を溢れさす」¹⁵

Tavaszi szél vizet áraszt,	春の風は水を溢れさす,
virágom, virágom.	私の花よ, 私の花よ。
Minden madár társat választ,	すべての鳥はつがいを選ぶ,
virágom, virágom.	私の花よ, 私の花よ。
Hát én immár kit válasszak,	さあ私はいま誰を選ぼうか,
virágom, virágom	私の花よ, 私の花よ。
Te engemet s én tégedet,	お前は私を, 私はお前を,
virágom, virágom. [...]	私の花よ, 私の花よ。(略)

※以上、「母音」および「子音」は、深谷志寿、深谷ベルタ 1982 『昭和57年度言語研修 ハンガリー語テキスト2 ハンガリー語 II』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 から適宜引用した。

¹³ ipafai 「イパファ-の」, よって, Ipafa だが, Ibafa (ハンガリー, バラニャ県 (Baranya megye)にある村) のこと。

¹⁴ Répa, retek, mogoró, korán reggel hármat rikkant a rigó. 「蕪, 大根, ヘーゼルナッツ, 朝早く稀にツグミ鳴く」とも。

¹⁵ 動画は <http://youtu.be/dCB66y5haBU> で視聴可能。なお, Queen が 1986 年のブダペスト公演でこの曲を歌ったのは大変有名である (<http://youtu.be/C2O4dZgAicU>)。

4. 母音調和

母音がいくつかのグループに分かれ、一つの語の中には異なったグループの母音が入らない現象を母音調和という。ハンガリー語の母音調和では、まず、後舌母音グループと前舌母音グループに分かれ、さらに、前舌母音グループが、非円唇母音と、円唇母音（俗に言うウムラウト母音）の下位グループに分類される。

後舌母音		a, á, o, ó, u, ú
前舌母音	非円唇母音	i, í, e, é
	円唇母音	ö, ő, ü, ú

例,

後舌母音系：asztal 「机」， unoka 「孫」

前舌母音系：szekrény 「ダンス」， ismerős 「知人」

混合系：virág 「花」， kávé 「コーヒー」， sofőr 「運転手」

なお、最大3つのグループに分けられることから、便宜上、「後舌系 (a, á, o, ó, u, ú)」，「前舌系 (i, í, e, é)」，「円唇系 (ウムラウト母音, ü, ú, ö, ő)」と呼ぶこともある。

ハンガリー語は語の後ろにさまざまな接辞を付けることができる、いわゆる「膠着言語」である。母音調和がこれと関わることで、上記の母音グループに応じた接辞の異形態を選択しなければならないという規則がある。接辞の異形態は3つあるもの、2つあるもの、そして1つしかないものがあり、2つ以上の場合、上記の母音調和の各グループに対応する接辞が選択される。以下、その例を示す。

①接辞の異形態が2つの例：

- ・内格接辞 -ban/-ben 「～の中に」

後舌系：asztal-ban 「机の中に」

前舌系および円唇系： szekrény-ben 「ダンスの中に」，

bőrönd-ben 「スーツケースの中に」

②接辞の異形態が3つの例：

- ・向格接辞 -hoz/-hez/-höz 「～の方へ」

後舌系：asztal-hoz 「机の方へ」

前舌系：szekrény-hez 「ダンスの方へ」

円唇系：ismerős-höz 「知人の方へ」

上記、円唇系とされる ismerős 「知人」は語の中に前舌系の i, e と、円唇系の ö を持つ。こうした複数の異なるグループの母音を持つ語における母音グループの決め方は、その語の最後の音節の母音による。ここでは、ö が最後の音節の母音であるため、円唇系となり、上記、 ismerős-höz と円唇系用の -höz が選択される。

複合語においても、最後の音節の母音が母音グループの決め手となることは変わらない。以下は、tanár が後舌系で、それに nő という円唇系による複合語 tanárnő だが、最後の音節の母音は ö d であるから、円唇系用の -höz が付かないといけない。

tanárnő-höz 「女先生の方へ」 (←tanár 「先生」 +nő 「女」)

また、前舌系の i は、時に、中立母音として見られることもある。以下では、最後の音節の母音はともに i だが、そこで母音グループを判断するのではなく、前に遡って、kocsi なら o で後舌系、április はさらに遡って語頭の á で後舌系として判断、それぞれ、kocsi-ban, április-ban となる。

kocsi-ban 「車の中に」

április-ban 「4月に」

この i, í という前舌母音を持つ語は、歴史的な経緯により、後舌系とされ、後舌系の接辞を取らなければならないので注意が必要である。

híd 「橋」 : híd-hoz 「橋の方へ」 (*híd-hez ではない)

5. アクセント

ハンガリー語の単語のアクセントは第一音節にある。例、japán [ˈjɒpɑːn] (「[ヤ]パーン」であって、[jɒˈpaːn] 「ヤ[パーン]」としないように注意)。

会話

- Jó reggelt kívánok!

- Jó napot kívánok!

- Jó estét kívánok!

- Jó éjszakát kívánok!

- Szervusz!

- Szervusztok!

- Szia!

- Sziasztok!

- A viszontlátásra!

- Csókolom!

- Halló!

- Csaó!

- Hogy van?

- Hogy vagy?

- Köszönöm.

- Jól vagyok. / Nem vagyok jól.

単語リスト

a	定冠詞 (母音ではじまる名詞につくときは az となる)
csaó	チャオー
csókol	キスする
éjszaka	夜
este	晩
halló	ハロー
hogy	どのように
jó	よい
jól	よく
kíván	望む
köszön	感謝する
nap	日
nem	ではない (否定辞)
reggel	朝
szervusz	やあ
szervusztok	やあ (相手が複数人のとき)
szia	やあ (szervusz のよりくだけたかたち)
sziasztok	やあ (相手が複数人のとき)
vagy	ある／いる (2人称単数)
vagyok	ある／いる (1人称単数)
van	ある／いる (3人称)
viszontlátásra	さようなら

文法解説

【出会い頭】

〈親しくない人と〉¹⁶

Jó reggelt kívánok! 「おはようございます」

Jó napot kívánok! 「こんにちは」

Jó estét kívánok! 「こんばんは」

〈親しくなってしまった人と〉¹⁷

Szervusz!/Szervusztok! 「やあ」 (以下、ほぼ同じく親しい挨拶)

Szevasz!/Szevasztok!

Szia!/Sziaztok!

Halló!

Csaó!

Jó reggelt! 「おはよ！」¹⁸

【次の一言：ご機嫌伺い】

〈親しくない人と〉

Hogy van? 「ご機嫌いかがですか？」

¹⁶ 〈親しくない人〉とは、見知らぬ人、お店の人、初対面、社会的上位関係にある、などといった人を指す。これが〈親しくなってしまった人〉に変われば、以下の〈親しくなってしまった人と〉での表現を用いなければならない。一般に、学生同士では初対面でも〈親しくなってしまった人と〉の表現を使うのが普通である。

なお、〈親しくない人と〉に使う表現を *magázás* 「*maga* で呼び合うこと」といい、一方、〈親しくなってしまった人と〉に使う、いわゆる「君僕」の表現を *tegezés* (*te* で呼び合うこと) という。かつて、この切り替えの儀式は *pertut iszik* 「ペルトウを飲む」と言い、ある程度親しくなったものが、互いに腕を絡ませ酒を一気飲みした後、杯を地面に叩きつけ割り、「TE! (おまえ!）」と呼び合うといったものだった。

¹⁷ *Kezét csókolom!/Csókolom!* 直訳は「御手に (*kezét*) キス (*csók*) をします」は男性が (特に年上の) 女性にする挨拶。もしくは子どもたち (性別問わず) が大人にする挨拶。

ちなみに、親しい仲の二人があった時に「左頬、次に右頬と2回キスします」のことは、*puszi* という (男女年齢問わず親しければする)。

¹⁸ 親しい間柄で朝起きて挨拶するときに。

〈親しくなってしまった人と〉

Hogy vagy? 「で、どうよ？」

【その答え】

Jól vagyok. 「良いです」

Köszönöm (szépen)¹⁹, jól. 「(どうも) ありがとう, 良いです」

Nem vagyok jól. 「よくありません」

Megvagyok. 「なんとかやっています」²⁰

Elvagyok. 「気が抜けてます」²¹

【切り返し】

〈親しくない人と〉

És Ön? 「ところで, あなたは？」

〈親しくなってしまった人と〉

És te? 「で, 君は？」

【お別れ】

〈親しくない人と〉

A viszontlátásra! 「さようなら (またお会いする日まで)」²²

Viszlát! 「さいなら」

¹⁹ Köszönöm! → Köszönöm szépen! → Nagyon szépen köszönöm! の順で感謝の気持ちを大きくすることができる。ちなみにこれ以外の語順 (Szépen köszönöm! / Nagyon köszönöm szépen! / Köszönöm szépen nagyon! / Köszönöm nagyon szépen!) は非文法的なので注意すること (Nagyon köszönöm. は可)。なお, 親しい間柄では, Kösz (szépen)! がよく使われる。

²⁰ megvan 「存在する」の1人称単数形。接頭辞 meg が付いたことにより, van よりも存在の意味が強い。

²¹ 接頭辞 el 「～から離れて」が van に付いたスラング表現 (辞書に elvan という見出しはない)。el が今あるところから離れる (≡ 気持ちが抜ける) という意味からか。

いずれにせよ, 接頭辞は動詞の人称活用変化には関与しない。逆にいえば, 動詞には様々な接頭辞が付加することで派生語を生み出すが, その人称活用変化は接頭辞が付く動詞のものとは変わらない。

²² 正しくは A viszontlátásra! のように定冠詞 a を付ける (「また会う“その”日まで！」なのだから)。

Jóéjszákát kívánok! 「おやすみなさい」²³

〈親しくなってしまった人と〉

Szervusz!/Szervusztok! 「やあ！」

Szevasz!/Szevasztok!

Szia!/Sziasztok!

Halló! 「ハロー！」

Csaó! 「チャオー！」

Jóéjt! 「おやすみ」²⁴

※存在動詞 (van 「いる・ある」) の活用

	単数		複数	
1 人称	én (私は)	vagyok	mi (私たちは)	vagyunk
2 人称(親称)	te (君は)	vagy	ti (君たちは)	vagytok
2 人称(敬称)	Ön / Maga (あなたは)	van	Önök / Maguk (あなたがたは)	vannak
3 人称	ő (彼・彼女は)	van	ők (彼らは)	vannak

※敬称 2 人称 Ön と Maga について

→よく言われること：ÖnのほうがMagaよりも敬意が高い。よって、Önを使うが無難である²⁵。

Ön 「あなた」...通常の敬意表現。上位の立場、親しくない、見知らぬ相手に対する「あなた」

²³夜にお別れする時。親しくなってしまった人と別れる時には次の〈親しくなってしまった人と〉の表現を。

²⁴Jóéjszákát (kívánok!)の省略形。親しい間柄で「おやすみ」という時に使える。

²⁵実際に、小学生くらいの子どもの学校の先生に「Maga!」と言うことは考えられない。

Maga 「アナタ」 ...発話者による丁寧表現。すなわち、発話者より同等および下の立場のものに対し、本来、te 「きみ、おまえ」 で呼ぶはずのところ、自身の表現を上品にするために使われる「アナタ」。

練習問題

※例を参考にあいさつを試みましょう。

(例) A : Kovács úr : Jó napot kívánok, Kovács úr!

B : Nagy úr : Jó napot kívánok, Nagy úr!

(朝のあいさつ)

A : Balog tanár úr

B : Kálmán tanárnő

(晩のあいさつ)

A : Szabó úr

B : Tanaka úr

(夜別れる時)

A : Doktor úr

B : Kisasszony

(別れる時)

A : Professzor úr

B : Éva

(親しい仲)

A : Péter

B : Kati

(親しい仲 : 複数人)

A : fiúk 「男の子たち」 / B : lányok 「女の子たち」

第 2 課 これは何？ (Mi ez?)

会話

- Bocsánat, ez a Gellért szálloda?

- Igen, az.

- Milyen szálloda? Olcsó?

- Nem. Elég drága.

- Akkor jó, ugye?

- Igen, nagyon jó. Tiszta és kényelmes.

- Jó napot kívánok! Tanaka Taro vagyok.

- Jó napot kívánok! Üdvözlöm Magyarországon. Ön japán,
ugye?

- Igen, japán vagyok.

- Tessék a kulcs.

- Köszönöm.

- Szívesen.

- Tessék ez a szoba.

- Elnézést, mi ez?

- Ez? Ez a szekrény.

単語リスト

akkor	それでは
az	あれ
bocsánat	すみません
drága	高い
elég	かなり
ez	これ
igen	はい
japán	日本の, 日本人, 日本語
kényelmes	快適な
kulcs	鍵
mi	なに
milyen	どのような
olcsó	安い
szálloda	ホテル
szekrény	タンス
szívesen	どういたしまして, 心より

szoba	部屋
tessék	どうぞ
tiszta	きれいな
üdvözl	挨拶する (ようこそ)
ugye	~でしょう?
vagyok	私は~です (1人称単数)

文法解説

1. コピュラ動詞

前回の存在動詞 van 「～がある・いる」が、こうしてコピュラ「～は…です」としても使われる。

[1人称単数] Diák vagyok. 「私は学生です」

[2人称単数] Magyar vagy? 「君はハンガリー人ですか?」

[1人称複数] Magyarok vagyunk. 「私たちはハンガリー人です」

[2人称複数] Kedvesek vagytok. 「君たちは優しい」

※複数形の作り方については、また別の箇所で詳しく説明する。

ただし、ハンガリー語では、(現在時制の) 3人称ではコピュラを必要としない²⁶。くれぐれも存在動詞の3人称単数/複数形 van/vannak と混同しないこと。

【存在動詞】

Péter jól van. 「ペーテルは良い (=良く・ある)」

Itt magyarok vannak. 「ここにハンガリー人たちがいる」

【コピュラ】

Péter diák (φ). 「ペーテルは学生です」

Magyarok kedvesek (φ). 「ハンガリー人たちは優しいです」

コピュラとしての “van” の活用

	単数			複数		
1人称	én	hat éves	vagyok	mi	japánok	vagyunk
2人称(親称)	te	ószakai	vagy	ti	magyarok	vagytok
敬称2人称	ön / maga	diák	φ	önök / maguk	tanárok	φ
3人称	ő	Péter		ők	kedvesek	

²⁶ 叙述文の3人称においてコピュラが必要ないのは現在時制のみ。過去時制では以下のとおり (よって、現在時制の3人称コピュラはゼロ形態素(φ)であるといえる):

i) Ön diák (φ). 「あなたは学生です」

ii) Ön diák volt. 「あなたは学生だった」 (volt は van の過去時制3人称単数形)

複数形は数の一致により、述部名詞相当語句も複数形となる (japán-ok, magyar-ok, tanár-ok, kedves-ek)。なお、否定文は以下のとおり。否定語 **nem** は否定するものの前、すなわちコピュラの前に置く。現在時制において3人称ではコピュラが明示されないが、実際にはゼロ形態素の直前に **nem** があると考え (そうすることにより、次の対比表現との区別の可能となる)。

なお、以下にあるとおり、地名に **i** をつけると、「～ (出身) の」という意味の形容詞になる (語頭は小文字にする)。Tokió 「東京」 **i** → **tokiói** 「東京出身の」、Ószaka 「大阪」 **i** → **ószakai** 「大阪の」、Budapest 「ブダペスト」 **i** → **budapesti** 「ブダペストの」、Debrecen 「デブレツェン」 → **debreceni** 「デブレツェンの」。

Nem vagyok tokiói.

「私は東京人ではありません」

Nem vagy debreceni.

「君は日本人ではない」

Ön nem (φ) budapesti.

「あなたはブダペスト出身ではありません」²⁷

Nem vagyunk tokióiak.

「私たちは東京人ではない」

Nem vagytok budapestiek.

「君たちはブダペスト出身ではない」

Ők nem (φ) kedvesek.

「彼らは優しくない」

²⁷ ちなみに、ハンガリー国内でブダペスト出身のことをいう場合、普通は **pesti** 「ペシュトっ子」という (**Pesti vagyok**. 「私はペシュトっ子だ」)。これは首都ブダペストが **Buda** 「ブダ (ドナウ川右岸)」と **Pest** 「ペシュト (ドナウ川左岸)」が合併して出来た都市であり、歴史上、長らくブダ側はオーストリア・ハプスブルクの支配下にあり、ペシュト側がハンガリー人たちのいわゆる下町にあたる場所からの愛着心の現れであろう (実際に、合併以前は **Pest-Buda** という呼称もよくなされていた)。

否定語句の *nem* の位置に注意。場所が変わると対比表現となり、以下のとおり、括弧内の内容の発言を期待されてしまう（すなわち括弧内を言わずに発話をやめると、相手に *Hanem?* 「で？」と問い返される）²⁸。

Nem tokiói vagyok (, hanem ószakai).

「私は東京人ではない (, 大阪人だ) 」

Nem diák vagy (, hanem tanár).

「君は学生ではない (, 先生だ) 」

Ő nem Péter (φ)(, hanem Gábor).

「彼はペーテルではない (, ガーボルだ) 」

2. 冠詞 (névelő²⁹)

		単数	複数
定冠詞	a, az (母音の前)	Ez a szék.	Ezek a székek.
不定冠詞	egy, φ	Ez egy szék.	Ezek φ székek.
部分冠詞	φ	Ez φ szék.	Ezek φ székek

※冠詞の特徴

- ・アクセントが置かれない。egy [ej]
- ・定冠詞の発達：指示代名詞 *az* 「あれ」 → 定冠詞 *az* → 子音の前では *a*
- ・不定冠詞：数詞 *egy* [ˈej] 「1」 → 不定冠詞 *egy* [ej]

※定冠詞と不定冠詞と無冠詞

定冠詞の目的語：A könyvet olvasom.

「私はその本を読んでいる」 → 個体である特定の本

²⁸ この *nem A, hanem B* は「Aではなく B」という頻出重要構文。

²⁹ *név* 「名詞」 + *elő* 「前 (のもの)」の意。

不定冠詞の目的語：Egy könyvet olvasok.

「私はある本を読んでいる」→個体であるが不特定の本

無冠詞目的語：Könyvet olvasok.

「私は読書している」→個体でなく不特定。olvas と一体化。

※定冠詞の具体的な用法³⁰

- ・定冠詞が付く：山名（a Gellért-hegy 「ゲッレールト山」, az Aszó 「阿蘇山」），丘陵名，山地名（a Kárpátok 「カルパチア産地」, a Japán Alpok 「日本アルプス」），河川名（a Duna 「ドナウ川」, a Tisza 「ティサ川」, a Nyitra 「ニトラ川」, a Tama 「多摩川」），街名（a Váci utca 「ヴァーツィ街」, a Ginza 「銀座」），広場名（a Deák tér 「デアーク広場」），市内の区名（az V. kerület 「第五区」, a Szuginami 「杉並区」），地方名（az Alföld 「大平原」, a Dunántúl 「トランスダヌビア」, a Kantó 「関東地方」），湖名（a Balaton 「バラトン湖」, a Biva 「琵琶湖」），海洋名（a Japán-tenger 「日本海」），天体名（a Nap 「太陽」, a Hold 「月」, a Vénusz 「金星」），形容詞を伴った国名（a Magyar Népköztársaság 「ハンガリー人民共和国」, az Amerikai Egyesült Államok 「アメリカ合衆国」），動物の固有名詞（a Bodri 「ボドリ」, a Vizsra 「ヴィジュラ」）など。
- ・定冠詞が付かない：市町村名（Nyitra 「ニトラ市」, Ószaka 「大阪市」），市町村に準ずる市内の町名（Sasad 「シャシャド」, Angyalföld 「アンジャルフエルド」），県名（Pest megye 「ペシュト県」 Ibaraki megye 「茨城県」），州名（Burgenland 「ブルゲンラント州」, Illinois állam 「イリノイ州」），国名（Magyarország 「ハンガリー（国）」, Japán 「日本」, Tündérország 「フェアリーランド」, しかし, a Mennyország 「天国」!），国名に準ずる地名（Erdély

³⁰ 深谷志寿, 深谷ベルタ 1982 『昭和 57 年度言語研修ハンガリー語テキスト 2 ハンガリー語 II』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 から引用。

「トランシルヴァニア」), 五大州名 (Európa 「ヨーロッパ」, Ázsia 「アジア」) など。

→使い分け:

Ez az út visz a Nyitrára. 「この道はニトラ川の方に行っている」

Ez az út visz Nyitrára. 「この道はニトラ市の方に行っている」

3. 指示代名詞

ez 「これ」

az 「あれ」

Ez könyv. 「これは本です」

Az is könyv. 「あれも本です」

Mi ez? Ez szótár. 「何これ? これは辞書です」

Mi az? Az térkép. 「何あれ? あれは地図です」

※指示代名詞が付くと、必ず定冠詞 (a/az) も付される。

Ez a diák japán. 「この学生は日本人です」

Az az orvos magyar. 「あの医者ハンガリー人です」

4. 疑問文のイントネーション

ハンガリー語のイントネーションは最初が高く、文末に行くに従って、下降調となる。

~~Ez a diák magyar.~~ → 「この学生はハンガリー人です」

【Yes/No 疑問文】

疑問詞がない、俗に言う Yes/No 疑問文では、単語からはそれが疑問文か肯定文が区別がつかないために、以下のように、最後から2音節目で上げて、最終音節で下げるといったイントネーションをとる。

Ez a diák magyar.

「この学生はハンガリー人ですか？」

【疑問詞がある疑問文】

疑問詞があるので、疑問文とわかる。イントネーションは肯定文と同じく、疑問詞がある最初が高く、文末に行くに従って下降調となる。

Mi ez?

「これは何ですか？」

5. tessék 「どうぞ」の使い方

tessék 「どうぞ」は大変よく使われることばである³¹。以下のとおり、様々なケースで使用される。

①何かを差し出して（この課で見た表現）：

Tessék! 「どうぞ」

②誰かがドアをノックして、中から答える：

Tessék! 「どうぞ」

③電話がかかってきて受けるとき：

Halló, tessék! 「もしもし（どうぞ）」

Tessék! Bilik Éva. 「はい、（どうぞこちら）ビリック・エーヴァ」

練習問題

(1) 次の語を使って、「あなたは～ですか？」 「君は～かい？」
「私は～です」と言ってみましょう。

³¹文法的にいうと、tetszik 「(～が) 気に入る」の命令形3人称単数 (ik 動詞用語尾)。tessék ~ni (動詞不定形) で敬語用法ともなる。

(例) magyar: Ön magyar? 「あなたはハンガリー人ですか？」

(Te) magyar vagy? 「君はハンガリー人かい？」

(Én) magyar vagyok. 「私はハンガリー人です」

japán 「日本の」, kínai 「中国の」, koreai 「韓国の」, vietnami 「ヴェトナムの」, indiai 「インドの」, mongol 「モンゴルの」, amerikai 「アメリカの」, angol 「イギリスの」, francia 「フランスの」, holland 「オランダの」, spanyol 「スペインの」, svéd 「スウェーデンの」, osztrák 「オーストリアの」, orosz 「ロシアの」, lengyel 「ポーランドの」, cseh 「チェコの」, szlovák 「スロヴァキアの」, német 「ドイツの」

(2) 「AではなくBだ」の練習をしましょう。

én diák 「学生」 / tanár 「先生」

→ Nem diák vagyok, hanem tanár.

「私は学生ではなく、先生です」

én író 「作家」 / riporter 「リポーター」

→

te óvónő 「保母」 / tanárnő 「女教師」

→

Péter politikus 「政治家」 / művész 「芸術家」

→

Lukács úr 「ルカーチさん」 sofőr 「運転手」 / szakács 「料理人」

→

第 3 課 何を頼む？ (Mit kérsz?)

会話

- Elnézést, hol van a büfé?

- Ott a második sarkon.

- Köszönöm szépen.

- Kérem.

- Mit kérsz, Taro?

- Egy kólát kérek.

- Én pedig egy kávét. Akkor egy kólát és egy kávét kérünk.

- Még valamit?

- Két pogácsát is.

- Tessék.

- Köszönöm. Mennyibe kerül?

- Egy kóla, egy kávé és két pogácsa, 450 forint.

- Tessék.

- Köszönöm szépen.

単語リスト

büfé	ビュッフェ, 軽食スタンド
egy	1つの
elnézést	すみません
forint	フォリント
hol	どこに
kávé	コーヒー
kér	(～を) 願います
kérem	どういたしまして
kerül	～に達する, かかる
két	2つの
kóla	コーラ
második	第二の
még	まだ
mennyi	どのくらい
mit	なにを
ott	そこに
pedig	～は (一方で) 【対比を表わす】
pogácsa	ポガーチャ (ハンガリー風スコーン)
sarkon	角に
szépen	とても, どうも
valamit	なにかを

文法解説

1. レストラン, 喫茶店での表現

【テーブルについて】

Kérem	az	étlapot. ³²
お願いする-1 単定活用	定冠詞	メニュー, お品書きを

「メニューをください」

Azonnal	hozom	(az étlapot).
ただちに	持ってくる-1 人称単数定活用	(メニュー, お品書きを)

「ただちにお持ちします」

【注文する】

Kérek	egy	eszpresszót	és
お願いする-1 単不定活用	一つ	エスプレッソを	そして

egy ásványviz-et.

一つミネラルウォーターを³³

「エスプレッソ一杯とミネラルウォーター一杯をお願いします」

【品物が運ばれてきた／食べ終わって食器を持っていかれる】

Kedves	egészség-ére!
親切的な, 敬愛する, よい	健康あなたのために

「お召し上がり下さい」

Jó étvágy-at!

よい 食欲を

「よい食欲を！」

【お支払い時】

Elnézést, kérem	a	számlát!
-----------------	---	----------

³² 昨今の嫌煙・健康ブームを受けて、ハンガリーでも2012年より禁煙法が發布され、閉鎖空間や公共施設での喫煙は禁止 (TILOS DOHÁNYOZNI) となった (違反した場合は罰金)。よって、喫茶店とはいえ、Hamutartót kérek! 「灰皿くださいな」ということはもはやあり得ない。煙草 (cigaretta) は店外所定の位置に置かれた喫煙スペースで喫煙する (cigarettazik) ほかない。

³³ víz 「水」の対格形はこのとおり、vizet 「水を」。長母音 í から短母音 i になることに注意。ちなみに、水道水でもいいという場合は、sima víz, すなわち, sima vizet 「ただの水を」と言う (水道水を飲むことはお勧めしない)。

すみません お願いする-1 単低活用 定冠詞 勘定書を

「すみません、お勘定をお願いします」 (または)

Fizet-ni szeret-n-ék!

支払う-不定詞 好きである-仮定法1 人称単数不定活用

「支払いたいのですが」³⁴

Az négyszázkilencven forint (Ø) .

それは 四百九十 フォリント です

「490 フォリントです」

Tessék³⁵, ötszázötven (Ø).

どうぞ 五百五十 です

「では、550 フォリントです」³⁶

※学食, セルフサービスの店で知らない人と相席になる場合

Bocsánat, ez itt szabad hely?

すみません これは ここは 空いている 場所

「すみません、こちらは空いていますか？」

Persze, tessék!

「もちろん、どうぞ！」

Jó étvágyat kívánok!

「よい食欲を！」

Köszönöm, viszont!

「ありがとう、(あなたにも) お返しです」

³⁴ファストフード店でもないかぎり、普通はテーブルで支払うことになる。ここで注意したいのは勘定をお願いするウェイター(pincér)は注文をとってくれた人であること。それ以外のウェイターに勘定をお願いしても気づいてくれない。

³⁵tessékは日本語の「どうぞ」と同じように、大変便利に使える表現。文法的にいうと、tetszik「(〜が) 気に入る」の命令形3人称単数(ik 動詞用語尾)。tessék ~ni (動詞不定形)で敬語用法ともなる。

³⁶セルフサービスでないかぎり(レジで支払わないかぎり)、担当してくれた人のサービスに対して「チップ(boraváló)」が必要とされる。目安は当該金額の1割。そして端数にならないようにする。ここでは490フォリントの約1割できりよく550フォリントを渡した。ただし、実感としては600フォリント払っても良いだろう。

ちなみに、黙ってお金を渡すと、普通はウェイターが計上金額通りでお釣りを渡してくれる。そこからチップ相当の端数のコインをウェイターに「Köszönöm!」といって手渡すのも良い。

2. 「～を」：対格語尾 -t

対格（直接目的語「～を」）のマーカ―は **-t** である。語末が母音で終わっていればそのまま **-t** を付けられるが、子音で終わっている場合は**母音調和**に応じて、後舌母音系 (u/o/a) には **-ot** が付き（例外として **-at** が付くこともある）、前舌母音系 (i/e) には **-et**、そして円唇母音系 (ü/ö) には **-öt** が付く（例外として **-et** が付くものもある）。例、〔後舌〕 **nadrág-ot** 「ズボンを」、〔前舌〕 **bélyeg-et** 「切手を」、〔円唇〕 **gyümölcs-öt** 「果物を」

なお、形容詞は原則として後舌母音系 (u/o/a) には **-at** が付き、前舌 (i/e) 及び円唇 (ü/ö) 母音系には **-et** が付く。例、〔後舌〕 **piros-at** 「赤い (の) を」、〔前舌〕 **kék-et** 「青い (の) を」 / 〔円唇〕 **zöld** 「緑 (の) を」

※対格形の作り方まとめ：

名詞	形容詞
母音 -t	母音 -t ³⁷
子音 後舌 -ot	子音 (例外) -ot ³⁸
(例外) -at ³⁹	後舌 -at
前舌 -et	前舌 -et
円唇 -öt	円唇 -et ⁴⁰

※名詞において、語末が **-ny, -r, -l, -j, -ly, -n, -s, -zs, -sz, -z** は⁴¹、直接 **-t** が付く。

³⁷ 名詞・形容詞ともに語末の母音が **-a, -e** の際は **-át, -ét** と長母音化する。

³⁸ **nagy** (nagyok) - **nagyot** / **szabad** 「自由な」 - **szabadot** 「自由なのを」

³⁹ 名詞において、この **-a** が出るものを「A 語幹」という。vaj 「バター」 (vajak) - **vajat**, toll 「ペン」 (tollak) - **tollat**, táj 「田舎, 地方」 (tájak) - **tájat**, fal 「壁」 (falak) - **falat**, ház 「家」 (házak) - **házat**, madár 「鳥」 (madarak) - **madarat**, ágy 「ベッド」 (ágyak) - **ágyat**, kanál 「スプーン」 (kanalak) - **kanalat**, híd 「橋」 (hidak) - **hidat**, tej 「牛乳」 (tejek) - **tejet** など（なお、カッコ内は複数形）。

この A 語幹は、複数形、対格形のみならず、後舌の所有形の 1, 2 人称単数においても **-a** が出現する（例、ház - házak - házat - házam 「私の家」 / házad 「君の家」）。ちなみに、後舌の所有形の規則的な 1, 2 人称単数形は **-om/od** である（例、asztalom 「私の机」 / asztalod 「君の机」）。

⁴⁰ 数詞のみ円唇母音用の **-öt** が付く。例、öt (ötök) - **ötöt**

ちなみに数詞の対格形は、egyet, kettőt, hármát, négyet, ötöt, hatot, hetet, nyolcat, kilencet, tízet [tízet], húszat [huszat], harmincat, negyvenet, ötvenet, hatvanat, hetvenet, nyolcvanat, kilencvenet, százat, ezret

⁴¹ この子音は、歯音系の **-s, -zs, -sz, -z** と、「Nyaraló Janó」 「避暑するヤノー」にある子音 **-ny, -r, -l, -j**（同音である **-ly** も）、**-n** と覚えるとよい。ちなみに、nyaral 「避暑する」（←nyár 「夏」）、Janó は János 「ヤーノシュ」の愛称形。

! 例外: 【名詞】

- 母音が短くなるもの: víz → vizez 「水を」
pohár → poharat 「グラスを」
madár → madarat 「鳥を」
levél → levelet 「手紙を」
kenyér → kenyeret 「パンを」
- 母音が脱落するもの: étterem → éttermet 「レストランを」
eper → epret 「苺を」
cukor → cukrot 「砂糖を」
- 語幹に v が現れる: ló → lovat 「馬を」
tó → tavat 「湖を」
- 円唇なのに -et をとる: könyv → könyvet 「本を」
föld → földet 「土地を」

【形容詞】

- 《名詞と異なる》語末が -ny, -r, -l, -j, -ly, -n, -s, -zs, -sz, -z であっても, 必ず母音を挿入:

fehér → fehérét 「白いのを」

világos⁴² → világosat 「明るいのを」

- 《名詞と同じ》民族名, 言語名で形容詞として用いられるものでも, 名詞と同じ接尾辞:

angol → angolt 「英語・イギリスのを」

orosz → oroszot 「ロシア・ロシア語のを」

3. 買い物における単位

量を表す単位: deka 「デカグラム」, kiló 「キロ」, deci 「デシリットル」, liter 「リットル」

⁴²világos 「明るい」だが, 他の意味として, 「わかっている, 明白な」 Minden világos? 「全て了解ですか?」がある。ちなみに, 白ワインは fehér bor だが, チェス (sakk) の白側は világos (黒側は sötét 「暗い」) である。világos sör といえば下面発酵の「ラガービール」のこと (黒ビールは barna sör という (barna 「茶色の」))。

助数詞のようなもの : darab 「個」, fej 「頭」⁴³, szál 「本」⁴⁴, szelet 「枚」⁴⁵

Egy fej káposztát kérek szépen! 「キャベツ一個ください!」

Két szál kolbászt kérek! 「コルバース⁴⁶二本くださいな!」

Négy szelet kenyeret kérek! 「パン四枚くださいな!」

4. 数詞

0 ~ 10 : nulla, egy, kettő, három, négy, öt, hat, hét, nyolc, kilenc, tíz

11 ~ 20 ~ 30 : tíz-en|egy, tizenkettő,...húsz, husz-on|egy, huszonkettő,...harminc

31 ~ 40, 50, 60, 70, 80, 90, 100 : harminc|egy, harminckettő,...
negyven ötven, hatvan, hetven, nyolcvan, kilencven, száz

101 ~ 999 : száz|egy, százkettő,... kétszáz|egy, kétszázkettő,... háromszáz, négyszáz,
ötszáz, hatszáz, hétszáz, nyolcszáz, kilencszáz,... kilencszázkilencvenkilenc

※なお, 後続する名詞は常に単数形。százegy kutya 「101 匹の犬」 (kutyák にならない)

以下, 千以上。位取り (三桁) のマークはカンマ (,) ではなく, ピリオド (.) となることに注意⁴⁷。

1. 000	ezer	千
10. 000	tízezer	10千
100. 000	százezer	100千
1. 000. 000	(egy)millió [milio:]	ミリオン (百万)
10. 000. 000	tízmillió	10ミリオン (千万)
100. 000. 000	százmillió	100ミリオン (一億)
1. 000. 000. 000	milliárd (ezemillió)	1000ミリオン (十億)

例, 「2017」 : kétezertizenhét

⁴³意味は「頭」。球体のモノ, 他に saláta 「レタス」や vöröshagyma 「玉ねぎ」などにも使える。ちなみに, fej-fejet 「頭を」-fejek 「頭 (複数)」

⁴⁴他, egy szál rózsza 「薔薇一輪」など花などに使える。

⁴⁵他, egy szelet sajt 「くさび形チーズ一片」, egy szelet csokoládé 「チョコ一本」, egy szelet szalonna 「ベーコン一枚」

⁴⁶kolbász 「コルバース」。ポーランド語でいう kielbasa 「キェウバーサ」のこと。等しく美味しい。

⁴⁷ちなみに小数点はカンマ (,) となる。例, 「3,5」 (három egész öt tized と読む。tized 「一割, 10分の1」)

5. 序数：日付を表す

序数：基数に-dik を付加。子音で終わっていれば母音調和に応じ -odik/-adik/-edik/-ödik が付く⁴⁸。

→一連の中での順番を表す。日付にも使われる。「日」を序数形にして所有の語尾を付す⁴⁹：

Hány-adik-a van ma?

いくつ序数所有3単 be 今日は

「今日は何日ですか？」 (←今日は [当該月の] 何番目の日ですか)

Tizenhet-edik-e van. 「17日です」 (← [当該月の] 17番目の日です)

十七序数所有3単 be

練習問題

- (1) 以下の名詞に対格語尾をつけなさい。(語末の母音が長母音となる場合はその母音の上に長音記号を忘れずに！)

tea....., zsemle....., szendvics....., gyümölcs....., bélyeg.....,

toll....., tej....., ház....., könyv....., kabát....., pulóver.....,

blúz....., ing....., telefon....., taxi....., sör....., alma.....,

asztal....., kés....., pohár(.....)

- (2) 以下の形容詞に対格語尾をつけなさい。(語末の母音が長母音となる場合はその母音の上に長音記号を忘れずに！)

⁴⁸0 から 10 まで。nulladik, első, második, harmadik, negyedik, ötödik, hatodik, hetedik, nyolcadik, kilencedik, tizedik となる。なお, húsz ~ huszadik に注意。

⁴⁹注意 : **elseje** 「1日 (ついたち)」, másodika, harmadika, negyedike, ötödike, hatodika, hetedike, nyolcadika, kilencedike, tizedikek, huszadika, harmincadika, ...

szép....., új....., magas....., drága....., fehér....., zöld.....,
magyar....., francia....., lengyel....., orosz.....

(3) かつこの中の語を使って文を完成させなさい。

Jaj, de szomjas vagyok! Kérek egy _____! (tea)

Kérsz _____ a kávéba? (cukor)

_____ kérsz, vagy _____ (gyümölcs / torta)

Nem kérek _____. Nem szeretem. (hús)

Nem vagyok éhes. Csak egy kis _____ kérek. (víz)

会話

- Szia, Réka! Hova mész?

- Az Árkád áruházba. És te?

- Az egyetemre, magyarul tanulok.

- Szia!

- Szia!

(Réka megy cipőt vásárolni ...)

- Mit parancsol?

- Egy női cipőt keresek.

- Milyet kér? Olcsót vagy drágát?

- Egy nem túl drága, de jó cipőt.

- Milyen színűt?

- Barnát.
- Hányasat?
- Harmincnyolcast.
- Tessék. Ez a barna cipő nagyon jó és divatos.
- Nagyon jó. És mennyibe kerül?
- 14,000 forintba. Jó lesz?
- Igen, köszönöm.
- Én is köszönöm. A viszontlátásra.

単語リスト

áruház	デパート
barna	茶色の
cipő	靴
de	しかし
divatos	流行の
egyetem	大学
és	そして
hányas	何番の
harmincnyolcas	38 番の
hova	どこへ
keres	さがす

magyar	ハンガリーの, ハンガリー語
megy	(彼(女)は) 行く
mész	(君は) 行く
milyet	どんなのを
nagyon	とても
parancsol	(彼(女)は, あなたは) 命じる
színű	～色の
tanul	勉強する
te	君は
túl	かなり
vagy	または
vásárol	購入する

文法解説

1. 動詞の活用

1.1. 付随情報：動詞の「法 (mood)」、「時制 (tense)」、「活用 (conjugation)」

- 1) 法 (mód) : 直説法 (kijelentő mód), 仮定法 (feltételes mód), 命令法 (felszólító mód)
- 2) 時制 (idő) : 現在時制 (jelen idő), 過去時制 (múlt idő), 未来時制 (jövő idő)
- 3) 活用 (ragozás) : 不定活用 (alanyi ragozás), 定活用 (tárgyas ragozás)

1) と 2) の関係 :

	Kijelentő mód	Feltételes mód	Felszólító mód
Jelen idő	+	+	+
Múlt idő	+	+	-
Jövő idő	+	-	-

3) の二つの活用 : 「不定活用」と「定活用」

動詞 : 他動詞 (tárgyas ige) と自動詞 (tárgyatlan ige) がある。

- ・他動詞 : 目的語 (tárgy)⁵⁰を持つ (tárgyas)⁵¹.
- ・自動詞 : 目的語を持たない (tárgyatlan)⁵².

【理論的前提】動詞が「定まった目的語」⁵³を持つ場合, その動詞は「特定活用」となる

- 他動詞 : 定まった目的語を持つ場合 → 「定活用」
定まっていない目的語⁵⁴を持つ場合 → 「不定活用」
- ・自動詞 : 目的語を持たないため, 以上とは関係ない
→ すべて「不定活用」

⁵⁰ 「目的語」(対格 (tárgyeset)) とは, 名詞に -(o/a/e)öt が付いたもの. 例, napot 「日を」, kávét 「コーヒーを」

⁵¹ tárgyas 「目的語をもつ」. 語尾 -as/-es/-os/-ös は形容詞化語尾. 例, szemüveges 「眼鏡をかけた (színüveg 「眼鏡」)

⁵² tárgyatlan 「目的語なしの」. 語尾 -atlan/-etlen, -talan/-telen は欠如 (～なしの) を表す形容詞化語尾. 例, sótlan (sótalan) 「塩味のない」

⁵³ 「定まった目的語」とは, 定冠詞 (a/az) が付いたもの (A bort kérem. 「そのワインを下さい」など) や, 3人称代名詞および2人称敬称代名詞 (ő, űk, ön, önök, maga, maguk) が目的語になった場合 (őt, őket, őnt, önöket, magát, magukat), その他, 固有名詞が目的語になった場合 (Évát szeretem. 「エーヴァを愛しているんだ」など) である.

⁵⁴ 「定まっていない目的語」とは, 不定冠詞 (egy) や無冠詞の目的語, 数詞が付いた目的語, また1人称および2人称の人称代名詞 (én, mi, te, ti) が目的語の場合 (engem 「私を」, minket 「我々を」, téged 「君を」, titeket 「君たちを」) である.

※なぜこんなものが...? →目的語を明示せずとも、動詞のみでなにを指しているかがわかる。

1.2. 動詞の「不定活用」の一例

	van「ある・いる」	megy「行く」	hív「(~を) 呼ぶ」	kíván「(~を) 望む」	kér「(~を) お願いする」
1.sg	vagyok	megyek	hívok	kívánok	kérek
2.sg	vagy	mész	hívsz	kívánsz	kérsz
3.sg	van	megy	hív	kíván	kér
1.pl	vagyunk	megyünk	hívunk	kívánunk	kérünk
2.pl	vagytok	mentek	hívtok	kívántok	kérték
3.pl	vannak	mennek	hívnek	kívánnak	kéne

	tanít「(~を) 教える」	segít「(~を) 助ける」	tanul「(~を) 学ぶ」	beszél「話す」	örül「喜ぶ」
1.sg	tanítok	segítok	tanulok	beszélék	örülök
2.sg	tanítasz	segítesz	tanulsz	beszélsz	örülsz
3.sg	tanít	segít	tanul	beszél	örül
1.pl	tanítunk	segítünk	tanulunk	beszélünk	örülünk
2.pl	tanítotok	segítetek	tanultok	beszélték	örültök
3.pl	tanítanak	segítenek	tanulnak	beszélnek	örülnek

	dolgozik「働く」	érkezik 「到着する」	olvas「(~を) 読む」	néz「(~を) 見る」	főz「(~を) 料理する」
1.sg	dolgozom	érkezem	olvasok	nézek	főzök
2.sg	dolgozol	érkezel	olvasol	nézel	főzöl
3.sg	dolgozik	érkezik	olvas	néz	főz
1.pl	dolgozunk	érkezünk	olvasunk	nézünk	főzünk
2.pl	dolgoztok	érkezték	olvastok	néztek	főzték
3.pl	dolgoznak	érkeznek	olvasnak	néznek	főznek

※注意：

- ・辞書見出し語は上記直説法現在時制不定活用における3人称単数形である。
- ・語末が-s, -sz, -zで終わる動詞の2人称単数の語尾は-ol/-el/-ölである。
- ・lő「~を撃つ」など、母音で終わる動詞は1人称において-v語幹を取る。lövök, lövsz, ló, lövünk, löttök, lónek

【ik動詞】

- ・dolgozikのような語末が-ikで終わる動詞を「ik動詞 (ikes ige)」という。このとおり、3人称単数に-ikが付くことと、1人称単数が-om/-em/-ömとなることに注意。
- ・現代口語においては、1人称単数語尾が非ik動詞的に活用することが多い

55。

例, lakik 「住む」《口》lakok ~ 《文》lakom, eszik 「食べる」《口》eszek
~ 《雅, 文》eszem

2. 複数形語尾 -k

複数形のマーカ―は -k である。語末が母音で終わっていればそのまま -k を付けられるが、子音で終わっている場合は母音調和に応じて、後舌母音系 (u/o/a) には -ok が付き (例外として -at が付くこともある)、前舌母音系 (i/e) には -ek, そして円唇母音系 (ü/ö) には -ök が付く (例外として -ek が付くものもある)。

なお、形容詞は原則として後舌母音系 (u/o/a) には -ak が付き、前舌 (i/e) 及び円唇 (ü/ö) 母音系には -k が付く。すなわち、基本的に対格語尾のときと同じことが言える⁵⁶。

複数形に対格語尾を付ける場合、必ず -kat / -ket となる (例, japán-ok-at 「日本人たちを」, szék-ek-et 「椅子 (複数) を」, gyümölcs-ök-et 「果物 (複数) を」)。

名詞

形容詞

母音 -k tea → *teák*

母音 -k⁵⁷ drága → *drágák*

子音 後舌 -ok bor → *borok*

子音 (例外) -ok⁵⁸ szabad → *szabadok*

(例外) -ak⁵⁹ ház → *házak*

後舌 -ak új → *újak*

前舌 -ek tej → *tejek*

前舌 -ek fehér → *fehérek*

円唇 -ök sör → *sörök*

円唇 -ek zöld → *zöldek*

※対格形と異なり、語末が -ny, -r, -l, -j, -ly, -n, -s, -zs, -sz, -z であっても
つなぎ母音を取る

! 例外 :

⁵⁵なお、俗語・卑語及び意味内容が汚らしいもの場合には、ふつう、非-ik的に活用する。例, baszik 「fuck」《卑語》baszok ~ *baszom, bűzlik 「stink」bűzlök ~ *bűzlöm

⁵⁶例外として, falu 「村」~ falvak 「村 (複数)」~ falut 「村を」(† faluvat) など。

⁵⁷名詞・形容詞ともに語末の母音が -a, -e の際は -ák, -ék と長母音化する。

⁵⁸nagy (nagyok) - nagyot / szabad 「自由な」- szabadot 「自由なのを」

⁵⁹名詞において、この -a が出るものを「A 語幹」という。vaj (vajak) - vaját, toll (tollak) - tollat, táj (tájak) - tájat, fal (falak) - falat, ház (házak) - házat, madár (madarak) - madarat, ágy (ágyak) - ágyat, kanál (kanalak) - kanalat, híd (hidak) - hidat, tej (tejek) - tejet など (なお、カッコ内は複数形)。

この A 語幹は、複数形、対格形のみならず、後舌の所有形の 1, 2 人称単数においても -a が出現する (例, ház - házak - házat - házam 「私の家」/ házad 「君の家」)。ちなみに、後舌の所有形の規則的な 1, 2 人称単数形は -om/-od である (例, asztalom 「私の机」/ asztalod 「君の机」)。

【名詞】

- ・ 母音が短くなるもの :
víz : vizek / vizet
pohár : poharak / poharat
levél : levelek / levelet
madár : madarak / maradat
- ・ 母音が脱落するもの :
étterem : éttermek / éttermet
eper : eprek / epret
cukor : cukrok / cukrot
- ・ 語幹に v が現れる :
ló : lovak / lovat
tó : tavak / tavat
- ・ 円唇なのに -et をとる :
könyv : könyvek / könyvet
föld : földek / földet

【形容詞】

- ・ 民族名, 言語名で形容詞として用いられるものでも, 名詞と同じ接尾辞を取る :
angol : angolok / angolt
oroszl : oroszok / oroszot

【複数形の例外】

- ・ férfi 「男性」 → férfiak 母音で終わっているが -ak という語尾を取る (しかも後舌系!)
- ・ 形容詞で, 派生辞 -i で終わるものや, -ú/-ű で終わるものには普通つなぎ母音が入る (-ak/-ek) :

régi 「古い」 → régi*ek*

budapesti 「ブダペストの」 → budapesti*ek*

tokiói 「東京の」 → tokiói*ak*

kínai 「中国の」 → kínai*ak*

koreai 「韓国の」 → koreai*ak*

hosszú 「長い」 → hosszú*ak*

szomorú 「悲しい」 → szomorú*ak*

könnyű 「簡単な」 → könnyű*ek*

練習問題

(1) 次の名詞，形容詞を複数形にしなさい（語末の母音が長母音となる場合はその母音の上に長音記号を忘れない！）

alma....., szendvics....., zsemle....., gyümölcs.....,

toll....., könyv....., kabát....., pulóver.....,

blúz....., bor....., telefon....., busz.....,

ház....., asztal....., kés.....,

levél (.....) pohár (.....)

szép....., magas....., drága....., olcsó....., zöld.....,

magyar....., francia....., német.....,

(2) 下線に動詞を活用させて入れなさい（語末の母音が長母音となる場合はその母音の上に長音記号を忘れない！）

1) Én diák vagyok. Ti is diákok ___?

「私は学生です。君たちも学生ですか？」

2) Ön mit kér? -

Egy kávét kér___. Te mit kér_?

「あなたは何を頼みますか？」

「（私は）コーヒーをお願いします。君は何を頼む？」

3) Ő angolul tanul. Én pedig magyarul tanul__.

「彼（女）は英語を勉強している。私は一方でハンガリー語を勉強している」

4) Milyen nyelven beszélsz? -

Én magyarul beszélek, de ő nem beszél ____ japánul.

「君は何語を話すの？」

「私はハンガリー語話すけど、彼（女）は日本語話せないよ」

会話

- Jó napot kívánok. Taro vagyok. Dibó tanár úr itt van?

- Igen, tessék.

- Köszönöm szépen.

- Nincs mit.

- Szervusz, Gábor! Most itt vagyok. Nagyon örülök.

- Szervusz, Taro! Hogy vagy? Minden rendben van?

- Igen, jól vagyok. Nagyon tetszik Budapest.

- Aha, hát, mit iszol? Teát vagy kávé?

- Köszönöm, akkor kávé kérek szépen!

- Csak tessék. És gyümölcsöt?

- Igen, egy almát kérek. Nagyon szeretem az almát.
- Az egészséges is. Van egy közmondás: Egy alma az orvost távol tartja. Érted?
- Hát, nagyjából. Mindenképpen az jó, hogy almát eszem.

単語リスト

aha	ああ
alma	りんご
csak	だけ (強調)
egészséges	健康な
ért	理解する
eszik	食べる
gyümölcs	果物
hát	では
is	～も
iszik	飲む
itt	ここに
közmondás	ことわざ
lesz	なる
minden	すべて
mindenképpen	なにはともあれ
nagyából	大体
nincs	ない (存在しない)
örül	喜ぶ
orvos	医者
rend	秩序
szeret	好きである
tanár	先生

tart	置く
távol	遠くに
tea	お茶
testszik	～が気にいる
úr	～氏

文法解説

1. 動詞の定活用

これまでにみた動詞のいくつかによる直説法現在時制定活用 (kijelentő mód/jelen idő/tárgyas ragozás)。

	tud 「知っている」	kíván 「望む」	hoz 「持ってくる」	tanul 「学ぶ」	tanít 「教える」	bemutat 「紹介する」	hív 「呼ぶ」
1.sg	tudom	kívánom	hozom	tanulom	tanítom	bemutatom	hívom
2.sg	tudod	kívánod	hozod	tanulod	tanítod	bemutatod	hívod
3.sg	tudja	kívánja	hozza	tanulja	tanítja	bemutatja	hívja
1.pl	tudjuk	kívánjuk	hozzuk	tanuljuk	tanítjuk	bemutatjuk	hívjuk
2.pl	tudjátok	kívánjátok	hozzátok	tanuljátok	tanítjátok	bemutatjátok	hívjátok
3.pl	tudják	kívánják	hozzák	tanulják	tanítják	bemutatják	hívják

	kér 「お願いする」	segít 「助ける」	szeret 「好きである」	köszön 「感謝する」	küld 「送る」
1.sg	kérem	segítem	szeretem	köszönöm	küldöm
2.sg	kéred	segíted	szereted	köszönöd	küldöd
3.sg	kéri	segíti	szereti	köszöni	küldi
1.pl	kérjük	segítjük	szeretjük	köszönjük	küldjük
2.pl	kéritek	segítitek	szeretitek	köszönitek	külditek
3.pl	kérk	segítik	szeretik	köszönik	küldik

	eszk 「食べる」	iszik 「飲む」	olvas 「読む」	néz 「見る」	főz 「料理する」
1.sg	eszem	iszom	olvasom	nézem	főzöm
2.sg	eszed	iszod	olvasod	nézed	főzöd
3.sg	eszi	issza	olvassa	nézi	főzi
1.pl	esszük	isszuk	olvassuk	nézzük	főzzük
2.pl	eszitek	isszátok	olvassátok	nézitek	főzitek
3.pl	eszik	isszák	olvassák	nézik	főzik

[注意！]

・発音に関して：

dj[gy]...tudja[tuggya], küldjük[külgyük]

nj[nny]...kívánja[kivánnya], köszönjük[köszönnyük]

lj[j]...tanulja[tanuja], beszéljük[beszéljük], örüljük[örüljük]

tj[tty]...tanítja[tanítja], bemutatja[bemutattya], segítjük[szegtjük],

szeretjük[szerettjük]

3 段目 : 語幹末が -s, -sz, -z で終わるもの → -j がこれらの子音に同化

esz-jük	→	esz-szük ⇒	esszük
isz-ja	→	isz-sza ⇒	issza
isz-juk	→	isz-szuk ⇒	isszuk
olvas-ja	→	olvas-sa ⇒	olvassa
olvas-juk	→	olvas-suk ⇒	olvassuk
néz-jük	→	néz-zük ⇒	nézzük
főz-jük	→	főz-zük ⇒	főzzük

- 自動詞は目的語を取らないので定活用は存在しない (van 「いる, ある」, megy 「行く」, jön 「来る」 など。不定活用のみ)。
- 目的語を取らない ik 動詞 (dolgozik 「働く」, érkezik 「到着する」 など) も, 定活用は存在しない。
- 不定活用には ik 動詞特有の活用があったが, 定活用にはそれは存在しない (上の eszik の定活用を参照)。

2. -lak/-lek 語尾 : 「私が君 (ら) を ~ する」

主語が 1 人称単数で目的語が 2 人称 (téged 「君を」, titeket 「君たちを」) の場合は, -lak/-lek という特別な語尾を取る。なお, 語幹末が子音連続や, -it で終わるものには, つなぎ母音をいれた -alak/-elek という語尾になる。

(1) Szeret-lek (téged).

愛する-1 人称単数→2 人称 (君を)

「私は君を愛している」

(2) Várlak titeket.

待つ-1 人称単数→2 人称 君たちを

「私は君たちを待っている」

(3) Bemutat-lak (téged) a szüleim-nek.

紹介する-1人称単数→2人称 (君を) 定冠詞 私の両親~に

「私は君を私の両親に紹介する」

(4) „Én vagyok az Úr, a te Isten-ed, aki

私 be.1単 定冠詞 主 定冠詞 君 神・君の 関代

tanít-alak téged, hogy hasznod-ra vál-jék,

教える-1単→2 君を that 利益・君のために 変わる・命令 3単

aki vezetlek az út-on, amelyen

関代 導く-1単→2 定冠詞 道~の上に 関係詞

járnod kell.” (Iz 48,17)

行く-不定詞-2単 必要である

「わたしはあなたの神、主である。わたしは、あなたの利益のために、あなたを教え、あなたを導いて、その行くべき道に行かせる。」

(イザヤ 48 章 17 節)

3. 不定活用と定活用の使い分け

不定活用…目的語が定まっていないもの：定冠詞ではないものが付いている

- ・不定冠詞 egy がついたものや数詞 (egy, két, három …), 不特定の形容詞 sok 「たくさん」、néhány 「いくつか」、valamilyen 「何らかの」などがついたもの

(5) a. Egy kávé-t kérek szépen.

1つ コーヒーを お願いする-1単 よろしく

「コーヒー1杯下さい」

b. Sok tortá-t esz-el.

たくさんの ケーキを 食べる-2単不定活用

「君はたくさんのケーキを食べる」

c. Valamilyen ajándék-ot ad-ok neked.

なんらかの プレゼントを 与える-1単 君に

「君になにかプレゼントを与える」

- ・疑問詞 mit 「何を」、kit 「誰を」など (ただし, melyiket 「どれを」は定活用となる)

(6) a. Mi-t iszol? Bort, sört vagy

何を 飲む-2単ワインを ビールを または

pálinká-t?

パーリンカ⁶⁰を

「何を飲む？ ワイン，ビール，またはパーリンカ？」

b. **Ki-t vársz? — Téged várlak!**

誰を 待つ-2単 君を 待つ-1単→2

「君は誰を待っているの？」「君を待っているんだ！」

・不定詞 (～ni) が目的語の場合

(7) a. **Tud-sz főzni?**

できる-2単 料理する-不定詞

「君は料理できる？」

b. **Szeret-φ beszél-ni magyar-ul?**

好きである-3単 話す-不定詞 ハンガリー語を

「あなたはハンガリー語を話すことが好きですか？」

・1人称 (én 「わたし」 / mi 「君たち」) の目的語 (engem 「私を」 / minket 「私たちを」) と 2人称 (te 「君」 / ti 「君たち」) の目的語 (téged 「君を」 / titeket 「君たちを」) ⁶¹

(8) a. **Szerdahely István-nak hív-nak (engem).**

セルダヘイ・イシュトヴァーンと 呼ぶ-3複 (私を)

「(一般の人々は) (私を) セルダヘイ・
イシュトヴァーンと呼びます」

b. **Ő bemutat titeket nekem.**

彼 (女) 紹介する君たちを私に

「彼 (女) は君たちを私に紹介する」

定活用…目的語が定まっているもの：定冠詞が付いている

・定冠詞 a/az が付いたもの

(9) **Szeret-ed a komolyzenét?**

好きである-2単 定冠詞 クラシック音楽を

「君はクラシックが好きかい？」

⁶⁰ハンガリーを代表する果物から作る蒸留酒。barack 「アンズ」, cseresznye 「さくらんぼ」, szilva 「スモモ」, körte 「洋梨」などのものが有名。市販品はアルコール度 40%程度だが、家庭で作るのは 60%以上のものが普通。

⁶¹1人称および2人称は「会話の参与者」であるため、会話の場の内部に存在することから、無標となり不定のものとして扱われることになる。それに対し、3人称は会話の場の外側にあるので、特定のものとされるのであろう。

・指示代名詞 *ezt* 「これを」、*azt* 「あれを」

- (10) *Ezt kérem szépen!*
これを 願ひする・1単 よろしく
「これを下さい！」

【部分格】このとおり、目的語が *ezt* や *azt* の場合、動詞は定活用をするといわれるが、*ezt* や *azt* が指すものが部分格 (*partitive / részelő eset*) であるような場合 (すなわち、*ebből* 「これから」、*abból* 「あれから」と置き換えられる) には、動詞は不定活用になる。

- (11) a. — *Mit hozzak neked Japánból?*
「日本のみやげは何がいい？」
— *Mondjuk, egy ajnú dorombot.*
「そうだね、アイヌのムックリでも」
— *Azt hozok neked!*
「それを買って来てやるよ！」
- b. — *Tessék parancsolni, Nagyságos Asszony!*
「奥さん、らっしえまし！」
[*A darált hústra mutatva*]
[ひき肉をさして]
— *Azt kérek!* 「これ、下さい！」

(11a) の場合、指されたものそのものを指すのではなく、それと同じものを示しているからである。すなわち、定活用である場合は、それそのものを指す必要がある：

- c. — *Mit hozzak neked Amerikából?*
「アメリカのみやげは何がいい？」
— *Mondjuk, Einstein koponyáját.*
「そうだね、アインシュタインの頭蓋骨でも」
— *Azt hozom neked!*
「それを持ってこよう」

(深谷 (編) 1982 より)

・疑問詞 *melyiket* 「どれを」

- (12) *Melyik-et választod?*
どれを 選ぶ・2単
「どれを選ぶ？」

・固有名詞

- (13) Pétert szeret-em!
ペーテルを好きである-1単
「ペーテルが好きなのよ」

・3人称 (ő「彼(女)」, ők「彼ら」)の目的語 (őt「彼(女)を」, őket「彼らを」)

- (14) Őt választ-om!
彼-を 選ぶ-1単
「彼を選ぶわ」

練習問題

(1) カッコ内の人称等に従って、不定活用と定活用のうち、適切な活用語尾を書きなさい（必要がない場合は“0”を書くこと）⁶²

(én) Egy pohár sört is kér.....! 「ビールも一杯くださいな！」

(én) Azt a banánt nem kér..... 「そのバナナはいりません」

(te) Egy magyar szót kérdez.....?

「君はあるハンガリー語の単語を質問するの？」

(te) Mit olvas.....? 「(君は) 何を読んでいるの？」

Ki olvas..... azt a könyvet? 「誰がその本を読んでいますか？」

(ön) Ezt ajánl.....? 「(あなたは) これをお勧めしますか？」

(én) Egy kis türelmet kér.....!

「ちょっとお待ちください (少々の我慢をお願いします) 」

(én) A rizst nem szeret..... 「(私は) お米は好きじゃない」

(ő) Sokat olvas..... 「彼(女) はたくさん読む」

⁶²pohár「グラス、～杯」、sör「ビール」、is「～も」、kér「～をお願いする」、banán「バナナ」、szó「単語」、kérdés「(～を) 質問する」、mit「何を」、olvas「(～を) 読む」、ki「誰が」、könyv「本」、ajánl「～を勧める」、türelmet「我慢を」(←türelem「我慢」)、rizs「米」、szeret「(～を) 好きである」、sok「たくさん」、mi「私たちは」、inkább「むしろ」、krumpli「じゃがいも」、akar「～を欲する」、enni「食べること」(←eszikの不定詞)

Mi inkább krumplit akar..... enni. 「私たちはむしろジャガイモが食べたい」

(2) 日本語訳に合う適切な語尾を入れなさい（必要がない場合は“0”
を書くこと）。

Szeret..... 「（私は君を／君たちを）好きだ」

Itt vár..... 「（私は君を／君たちを）ここで待っているよ」

Szeret.....? 「（君は）私のこと好き？」

Andi szeret..... engem. 「アンディは私のことが好きだ」

Én is szeret..... őt. 「私も彼女が好きだ」

第 6 課 どこで勉強していますか？ (Hol tanul?)

会話

- Kérem szépen, hol van a magyaróra?

- A B épületben.

- Hányadik emeleten?

- A másodikon.

- Hányas teremben?

- A negyvenkettesben.

- Mi a neve?

- Tanaka Taro vagyok.

- Hány éves?

- Huszonöt.

- Milyen nemzetiségű?

- Japán vagyok.
- Mi a címe?
- Magyarországon, ugye?
- Igen.
- XVIII. kerület, Stefánia út 21., III. emelet 2.
- Mi a foglalkozása?
- Diák vagyok.
- Hol tanul?
- Az Eötvös Loránd Tudományegyetemen.
- Köszönöm. Rendben van.

単語リスト

cím	住所
diák	大学生
emelet	階, フロア
épület	建物
éves	～歳の

foglalkozás	職業
hány	いくつの
hányadik	第～の
huszonöt	25 の
kerület	区
magyaróra	ハンガリー語の授業
Magyarország	ハンガリー
negyvenkettes	42 番の
nemzetiségű	民族籍の
név	名前
terem	教室, ホール
tudományegyetem	(総合) 大学
út	通り

文法解説⁶³

1. 場所格の接尾辞

ハンガリー語の特徴の一つとして、豊富な場所の接尾辞が挙げられる。ハンガリー語の文法では、これらも対格形 (targyeset) と同じく「格 (eset)」の一つである。格形の特徴は、それ自身の後には何も要素が付かないことである (すなわち、名詞類語句の単語末は必ず格形となる⁶⁴)。

以下の表のとおり、方向性 (静止「〜に」/着点「〜へ」/起点「〜から」) と空間における位置 (上・表面/内部/隣接・周囲), すなわち、3×3 で 9 つの場所に関わる接尾辞が存在する。

	上部格: 「上」	内部格: 「中」	外部格: 「あたり」
静止:hol? 「〜に」 ⁶⁵	-n/-on/-en/-ön	-ban/-ben	-nál/-nél
着点:hova? 「〜へ」 ⁶⁶	-ra/-re	-ba/-be	-hoz/-hez/-höz
起点:honnan? 「〜から」 ⁶⁷	-ról/-ről	-ból/-ből	-től/-től

2. 静止: Hol? 「どこに？」

2.1. 上格 (superlative) : -n/-on/-en/-ön 「〜の上に」

「〜の表面に、〜の表面で」の意味を表す。母音で終わる名詞には **n** が付く (a/e で終わっているものは **áé** と長母音化する)。子音で終わる名詞は母音調和に従い、**-on** (後舌) / **-en** (前舌) / **-ön** (円唇) が付く。

【場所】

A ceruza az asztalon van.
 定冠詞 鉛筆 定冠詞 机-上格 be
 「鉛筆は机の上にある」

⁶³以下、場所格接尾辞、具格、後置詞の説明および例文等は、早稻田 (1995) 『ハンガリー語の文法』, 大学書林. より引用。

⁶⁴したがって、名詞に複数形 (k) と対格形 (t) の接尾辞があれば、必ず対格形の語尾が最後に来る。例, táská-k-at 「カバン (複数) を」

⁶⁵方言形では **hun?** なども。「静止」系の接尾辞の特徴は、このとおり **n** である。他に **t** など。副詞で **itt** 「ここに」、**ott** 「あそこに」や、**Győrött** 「ジェールにて」などに見られる **-ban/-ben** の異形態がある。

⁶⁶**hová?** も使われる。接尾辞の特徴は **-a/e** と言えよう。副詞 **ide** 「ここへ」、**oda** 「あそこへ」も同様。後置詞では同じ概念のものをみると、**-áé** が「着点」を表していると考えられる。

⁶⁷接尾辞の特徴は **-l** と見られる。副詞 **innen** 「ここから」、**onnan** 「あそこから」。

Laci egyetem-en tanul.

ラツィ 大学-上格 勉強する-3単

「ラツィは大学で勉強している」⁶⁸

Budapest-en lak-ik.

ブダペスト-上格 住んでいる-3単

「彼（女）はブダペストに住んでいる」⁶⁹

【時】

tél-en 「冬に」, nyár-on 「夏に」, jövő hét-en 「来週に」,

azon a nap-on 「あの日に」

hétfő-n 「月曜に」, kedd-en 「火曜に」, szerdán 「水曜に」, csütörtök-ön

「木曜に」, péntek-en 「金曜に」, szombat-on 「土曜に」, など⁷⁰。

【その他】

Szabadság-on van.

自由-上格 be-3単

「彼（女）は休暇中だ」

Milyen nyelv-en beszél-sz?

どのような 言語-上格 話す-2単

「君は何語で話しますか？」

Zongorán játszik.

ピアノ-上格 演じる-3単

「彼（女）はピアノをひいている」

2.2. 内格 (inessive) : -ban/-ben 「～の中に」

「～の中に、中で」という意味を表す。母音調和に応じて -ban（後舌）／-ben（前舌・円唇）が付く。なお、母音 a/e で終わる語に付いた場合、*áé* と長母音化する。

【場所】

A ceruza a doboz-ban van.

定冠詞 鉛筆 定冠詞 箱-内格 be

「鉛筆は箱の中にある」

Kertes ház-ban lak-unk.

庭のある 家-内格 住んでいる-1複

「私たちは庭付きの家に住んでいます」

Angliá-ban lak-om

イギリス-内格 住んでいる-1単

⁶⁸ただし、「学校で」なら, *iskolá-ban* と、以下で述べる内格 -ban/-ben が付く。

⁶⁹ただし、「日本で」「東京で」のように外国の国名, 都市名なら, 以下で述べる内格 -ban/-ben が付く。 *Japán-ban*, *Tokió-ban*, *Bécs-ben* 「ウィーンで」など。

⁷⁰日曜だけは接尾辞なしの *vasárnap* だけで「日曜日に」の意味にもなる。

「私はイギリスに住んでいます」⁷¹

【時】

1956ben szül-ett-em Budapest-en.
1956年-内格 生まれる過去1単 ブダペスト-上格

「私は1956年にブダペストで生まれた」

Az új tanév szeptemberben kezdőd-ik.
定冠詞 新しい 学期 九月-内格 始まる-3単

「新学年は9月に始まります」

【その他】

Minden rendben van.
すべて 秩序-内格 be

「すべてうまくいっている、万事OK」

Rákban halt meg.
癌-内格 死ぬ過去3単 接頭辞(完了)

「彼(女)は癌で死んだ」

2.3. 接格 (adessive) : -nál/-nél 「～のあたりに」

「～のあたりに、あたりで」という意味を表す。母音調和に応じて -nál (後舌) / -nél (前舌・円唇) が付く。なお、母音 a/e で終わる語に付いた場合、á/é と長母音化する。

【場所】

A tanár ablaknál áll.
定冠詞 先生 窓接格 立っている3単

「先生は窓のところに立っている」

A tanár a Balatonnál lak-ik.
定冠詞 先生 定冠詞 バラトン湖接格 住んでいる3単

「先生はバラトン湖のあたりに住んでいる」

A tanár Péternél lak-ik.
定冠詞 先生 ペーテル接格 住んでいる3単

「先生はペーテルのところに住んでいる」

【時】

⁷¹ 上格で Budapest-en とあるように、基本的に国名としてのハンガリー (Magyarország) およびハンガリー国内の地名には -n/-on/-en/-ön が付くが、例外として以下の地名 (語末が i, j, r, m, n, ny) には -ban/-ben が接続する:

Badacsony-ban, Debrecen-ban, Eger-ban, Esztergom-ban, Győr-ban, Hatvan-ban, Komárom-ban, Mihalyci-ban, Salgótarján-ban, Sopron-ban, Tihany-ban, Tokaj-ban, Veszprém-ban など。

外国の国名および都市名には、まず内格 -ban/-ben が付くといい。例外は, Thaiföld-ön 「タイ (ランド) に」, Fülöp-szigetek-en 「フィリピン (諸島) に」。また, Hokkaidó sziget-en 「北海道 (島) に」など。すなわち、外国の地名でも, föld 「土地」, sziget 「島」などハンガリー語の単語が付くものには、従来の文法に従い (土地や島は「～の上」が一般通念なので)、上格語尾が適用される。

Ebéd-nél _____ találkoz-t-am Péter-rel.
 昼食-接格 会う過去-1単 ペーテル-具格
 「私は昼食のときにペーテルと会った」

【比較文】

A feleség-em idős-ebb nál-am.
 定冠詞 妻-所有1単 年老いた-比較 接格-1単
 「私の妻は私より年上だ」

A busz olcsó-bb a vonat-nál.
 定冠詞 バス 安い比較 定冠詞 列車-接格
 「バスは列車より安い」

3. 具格 (instrumental) : -val/-vel 「～で, 共に」

上の場所の格接尾辞と同じく、格の一つ。「～でもって、～と共に」、また「～と一緒に」という意味で使われる。付く名詞が母音で終わっていれば母音調和に即して -val/-vel が付くが、子音で終わっている場合は名詞末の子音に -val/-vel の v が同化する (villamos 「市電」 + -val → villamos-sal → villamossal)。

Mi-vel jár-sz?
 何-具格 通う-2単

「なにで通っているの？」

- Metróval. 「地下鉄で」 / Autóval. 「車で」 / Biciklivel. 「自転車で」 / Hajóval. 「船で」 / Űrhajóval 「宇宙船で」 / (gyalog 「徒歩で」)
- Villamossal. 「市電で」 / Vonattal. 「列車で」 / Busszal. 「バスで」 / Repülőgéppel. 「飛行機で」

※他の用法：

Mi-vel foglalkoz-ik?
 何-具格 従事する, 携わる-3単
 「あなたは (仕事は) 何をしていますか？」
 Rég-ennem találkozt-am apá-m-mal
 古上格 否定 会う過去-1単 父-所有1単-具格
 「私は長い間父と会っていない」

Össze-hasonlít-ja a magyar nyelv-et
 接頭辞 「一緒に」-比べる-3単定 定冠詞 ハンガリー 語-対格
 a japán-nal.
 定冠詞 日本語-具格
 「彼 (女) はハンガリー語を日本語と比較する」

4. 後置詞 (névutó)

後置詞 (postposition) とは、名詞の後ろに置き、その空間・時間関係を示すもの

である。場所格の接尾辞同様、動きの方向（静止、着点、起点）と位置関係により、以下のような表現が存在する。

	静止: hol?「～に」	着点: hova?「～へ」	起点: honnan?「～から」
～の下	alatt	alá	alól
～の上方	fölött	fölé	(föül)
～の前	előtt	elé	elől
～の後ろ	mögött	mögé	mögül
～の横	mellett	mellé	mellől
～の間	között	közé	közül
～の方		felé	felől
～の周り	körül	köré	

【場所】

A lámpa az asztal *fölött* van.
 定冠詞 電灯 定冠詞 机 ～の上方に be

「電灯は机の上方にある」

（《注意》asztal-on 「机の上に」は対象物が接していることを表す）

【時】

Munka *előtt* kávé-t isz-om.
 仕事 ～の前にコーヒー-対格 飲む-1 単

「私は仕事の前にコーヒーを飲む」

練習問題

- (1) 以下の空欄に、接尾辞 *-ban/ben* 「～の中に」、もしくは *-n/-on/-en/-ön* 「～の上に」を入れなさい。なお、接続する母音が長母音化する場合は母音の上に長母音記号「*ː*」を付しなさい。

A tér..... autóbuszok állnak.

Az utcák..... autók és villamosok járnak.

A szálloda..... magyarok és külföldiek laknak.

Az üdülők..... nincsenek külföldiek; ott csak magyarok laknak.

Mi a Balaton..... úszunk.

A part..... bácsik és nénik beszélgetnek.

Három kisfiú a víz..... labdázik.

A víz..... egy szép hajó úszik.

A hajó..... magyar zászló van.

Ott a telefonfülke..... egy külföldi lány telefonál.

- (2)接尾辞 -ban/ben 「～の中に」, もしくは -n/-on/-en/ön 「～の上に」を
入れなさい。なお, 接続する母音が長母音化する場合は母音の
上に長母音記号「ː」を付しなさい。

Keikó Japán..... él. Tokió..... lakik.

Varga Árpád Magyarország....., Budapest..... él.

A szegediek Szeged..... laknak.

A Margitsziget..... nem laknak emberek.

Hokkaidó..... élnek az ajnuk?

Kína..... kínaiak laknak.

Sok magyar él Amerika.....

Berlin..... sok magas épület van.

(3) 次の語に -val/-vel をつけて問いに答えなさい。

vonat villamos ceruza paprika Péter
Mónika krumpli cukor

Mivel írsz a füzetbe?

Mivel jössz a moziba?

Mivel iszod a kávé?

Mivel kéred a pörköltet?

Kivel találkozol ma este?

Mivel főzöd a gulyás levest?

Mivel jársz az iskolába?

Kivel mész holnap a filmre?

第 7 課 夏はどこへ行くの? (Hova mész nyáron?)

会話

- Szia, Anna!

- Szia, Taro! Hogy vagy?

- Köszönöm, jól vagyok. És te?

- Én is jól. Közeledik a nyár. Hova mész nyáron? Visszamész Japánba?

- Sajnos, nem. Velencére megyek.

- Nagyon jó. Nincs messze. Kicsi tó van, de kellemes hely. Én is szeretem.

- Tó? Inkább, tenger, nem? Az Adriai -tengernél van, ugye?

- Jaj, Velencébe mész. Értem. Persze ott is nagyon jó!

- Bocsánat, uram! Ez a villamos megy a Széll Kálmán térre?

- Nem, kérem. Ez nem oda megy. Ez a Nyugati térre megy.

- És hányas villamos megy a Széll Kálmán térre?

- A 6-os. Ott van a megálló a másik oldalon.

- Köszönöm.

単語リスト

hely	場所
inkább	むしろ
jaj	おや, まあ
kellemes	気持ちのよい
kicsi	小さい
közeledik	(…が) 近づく
másik	別の
megálló	停留所
messze	遠くに
nyár	夏
oladal	側, 頁
persze	もちろん
sajnos	残念ながら
tenger	海
tér	広場
tó	湖
város	都市
villamos	市電
visszamegy	戻る

文法解説⁷²

0. 場所格の接尾辞（再掲）

以下の表のとおり，方向性（静止「～に」／着点「～へ」／起点「～から」）と空間における位置（上・表面／内部／隣接・周囲），すなわち，3×3で9つの場所に関わる接尾辞が存在する。

	上部格： 「上」	内部格： 「中」	外部格： 「あたり」
静止： hol? 「～に」 ⁷³	-n/-on/-en/-ön	-ban/-ben	-nál/-nél
着点： hova? 「～へ」 ⁷⁴	-ra/-re	-ba/-be	-hoz/-hez/-höz
起点： honnan? 「～から」 ⁷⁵	-ról/-ről	-ból/-ből	-tól/-től

1. 着点 (sublative) : Hova? 「どこへ？」

1.1. 着格 : -ra/-re 「～の上へ」

「～の表面へ」の意味を表す。a/eで終わっているものは *á/é* と長母音化する。子音で終わる名詞は母音調和に従い，*ra*（後舌）／*re*（前舌・円唇）が付く。

【場所】

Az asztalra tesz-em a ceruzá-t.
定冠詞 机-着格 置く-1単定 定冠詞 鉛筆-対格

「私は鉛筆を机の上へ置く」

Fel-száll a villamosra.

接頭辞「上へ」-飛ぶ3単 定冠詞 市電-着格

「(彼(女)は)市電へ乗る」⁷⁶

Egyetemre jár.

⁷²以下，場所格接尾辞，電話のかけ方における説明および例文等は，早稲田(1995)『ハンガリー語の文法』，大学書林より引用。

⁷³方言形では *hun?* など。静止系の接尾辞の特徴は，このとおり *n* である。他に *z* など。副詞で *itt* 「ここに」，*ott* 「あそこに」や，*Győrött* 「ジェールにて」などに見られる *-ban/-ben* の異形態がある。

⁷⁴*hová?* も使われる。接尾辞の特徴は *-a/re* と言えよう。副詞 *ide* 「ここへ」，*oda* 「あそこへ」も同様。後置詞では同じ概念のものをみると，*-á/é* が「着点」を表していると考えられる。

⁷⁵接尾辞の特徴は *-l* と見られる。副詞 *innen* 「ここから」，*onnan* 「あそこから」。

⁷⁶市電（路面電車）のステップは高いので，*fel-száll* 「飛び乗る」というイメージ。同様に，列車も，*fel-száll a vonatra* となる（ここでは超低床路面電車や日本の列車駅ホームではこのイメージは当てはまらないという突っ込みはいれないように）。逆に，「タクシー／バスに乗る」は *be-száll* 「乗り込む（中へ飛ぶ）」となり，接尾辞も *a taxi-ba* 「タクシーの中へ」，*a busz-ba* 「バスの中へ」である。

大学-着格 通う-3単

「(彼(女)は) 大学へ通う」⁷⁷

Magyarország-ra utaz-om.

ハンガリー-着格 旅行する-1単

「私はハンガリーへ旅行します」⁷⁸

【時】

Holnap-ra kész lesz a dolgozat-om.

明日-着格 出来ている become 定冠詞 論文-所有1単

「私の論文は明日には出来ています」

Két éjszaká-ra kér-jük a szobá-t.

2 夜-着格 お願いする-1複 定冠詞 部屋-対格

「我々は2晩部屋をお願いする」

【その他】

Merre megy ez a busz?

どちらへ 行く-3単この 定冠詞 バス

Jobb-ra vagy bal-ra?

右-着格 または 左-着格

「このバスはどっちへ行くだらう？ 右、もしくは左？」

Egészség-ünk-re!

健康-所有1複-着格

「乾杯！」

【格支配】⁷⁹

Emléksz-em erre a film-re. 《emlékszik vmire/vkire》

覚えている-1単 この-着格 定冠詞 映画-着格

「私はこの映画を覚えている」

Vizsgá-ra készül. 《készül vmire》

試験-着格 ~に備える-3単

「彼(女)は試験の準備をしている」

A busz-ra vár. 《vár vmire》⁸⁰

定冠詞 バス-着格 待つ-3単

「(彼(女)は)バスを待つ」

Vigyá-z magad-ra! 《vigyáz vkire/vmire》

⁷⁷ただし、「学校へ」なら、iskolá-baと、以下で述べる入格-ba/beが付く。

⁷⁸ただし、「日本へ」「東京へ」のように外国の国名、都市名なら、以下で述べる入格-ba/beが付く。Japán-ba, Tokió-ba, Párizs-ba「パリへ」など。

⁷⁹動詞が求める決まった格接尾辞のこと。一般通念から導き出させるような場所の意味で使われる用法ではないものを示す。なお、表示の“vmi”はvalami「何か」、 “vki”はvalaki「誰か」の意。

《emlékszik vmire/vkire》であれば、emlékszik「思い出す」という動詞は、その対象「~を」を表す場合、対象名詞(vmi「何か」/vki「誰か」)の後に-ra/reが必要であることになる。

⁸⁰vár「待つ」は対格目的語を取るので、《vár vmit》でA busz-t várja.とも言える(活用に注意!)

～に注意する.命令 2 単不定 君自身-着格

「(君は君自身に) 気をつけて！」

Szükség-em van a segítség-ed-re. 《vkinek szükség-e van vmire》

必要-所有 1 単 be 定冠詞 助け-所有 2 単-着格

「(私には) 君の助けが必要だ」

1.2. 入格 (illative) : -ba/-be 「～の中へ」

「～の中へ」という意味を表す。母音調和に応じて -ba (後舌) / -be (前舌・円唇) が付く。なお、母音 a/e で終わる語に付いた場合、*á/é* と長母音化する。

【場所】

A doboz-ba tett-em a ceruzát.

定冠詞 箱-入格 置く-過去-1 単定 定冠詞 鉛筆-対格

「私は鉛筆を箱の中へ置いた」

Be-megy-ek a ház-ba.

接頭辞「中へ」-行く-1 単 定冠詞 家-入格

「私は家の中へ入る」

Japán-ba utaz-om.

日本-入格 旅行する-1 単

「私は日本へ旅行する」⁸¹

【格支配】

Mennyi-be kerül? —

どのくらい-入格 かかる.3 単

300 forint-ba kerül. 《kerül vmibe》

300 フォリント-入格 かかる.3 単

「(それは) いくらですか?」 —

「300 フォリントです」

1.3. 向格 (allative) : -hoz/-hez/-höz 「～のあたりへ」

「～のあたりへ」という意味を表す。母音調和に応じて -hoz (後舌) / -hez (前舌) / -höz (円唇) が付く。なお、母音 a/e で終わる語に付いた場合、*á/é* と長母音化する。

⁸¹ 着格で Magyarország-ra, Budapest-re となるように、基本的に国名としてのハンガリー

(Magyarország) およびハンガリー国内の地名には -ra/re が付くが、例外として以下の地名 (語末が i, j, r, m, n, ny) には -ba/be が接続する:

Badacsony-ba, Debrecen-be, Eger-be, Esztergom-ba, Győr-be, Hatvan-ba, Komárom-ba, Mihályi-ba, Salgótarján-ba, Sopron-ba, Tihany-ba, Tokaj-ba, Veszprém-be など。

外国の国名および都市名には、まず内格 -ba/be が付くといってよい。例外は、Thaiföld-re 「タイ (ランド) へ」、Fülöp-szigetek-re 「フィリピン (諸島) へ」。また、Hokkaidó-sziget-re 「北海道 (島) へ」など。すなわち、外国の地名でも、föld 「土地」、sziget 「島」などハンガリー語の単語が付くものには、従来の文法に従い (土地や島は「～の上」が一般通念なので)、着格語尾が適用される。

【場所】

A tanár ablak-hoz lép.

定冠詞 先生 窓-向格 歩む.3単

「先生は窓の方へいく」

Az ismerős-öm-höz megy-ek.

定冠詞 知人-所有1単-向格 行く.1単

「私は知人のところへ行きます」

Orvos-hoz megy.

医者-向格 行く.3単

「(彼(女)は) 医者のところへ行く」

【時】

Má-hoz egy év-re⁸² itt találko-z-unk!

今日-向格 1 年-着格 ここで 会う-命令.1複

「来年の今日ここで会いましょう！」

【その他】

Norikoférj-hez megy egy magyar-hoz.

《férjhez megy 「嫁に行く」》⁸³

ノリコ 夫-向格 行く.3単 不定冠詞ハンガリー人-向格

「ノリコはハンガリー人のところへ嫁に行った」

【格支配】

Nem ért-ek a komputer-hez. 《ért vmihez》

否定 理解する.1単 不定定冠詞 コンピューター-向格

「私はコンピューターが分からない」

Az egyetem közel van a Duná-hoz.

《közel van vmihez》⁸⁴

定冠詞 大学 近くに ある 定冠詞 ドナウ-向格

「大学はドナウ河の近くにある」

Ehhez a munká-hoz sok ember szükséges. 《szükséges

vmihez/vkihez》

この-向格 定冠詞 仕事-向格 多くの 人 必要のある

「この仕事には多くの人が必要だ」

⁸² 着格 -ra/-re の用法でもある。他, mához egy hétre 「一週間後の今日」など。着格の【時】の用法は「～の予定, 期間で」といった意味合いになるので, “一週間の予定, 期間で今日のあたりに”という解釈になる。

⁸³ 婚姻関係:

【男性】 feleségül vesz vkit 「～を嫁に取る」, nős 「既婚の(女性+持ちの)」, nőtlen 「未婚の(女性+なしの)」

【女性】 férjhez megy 「嫁に行く」, férjes 「既婚の」(または, férjnél van 「夫のところにいる」), hajadon 「未婚の」, özvegy 「未亡人」

⁸⁴ 対して, messze van vmitől で「～から遠くにある」となる。

2. 電話のかけ方

【動詞格支配】

telefonál vkivel 「～と電話で話す」、telefonál vkinek 「～に電話する」、
felhív vkit 「～に電話をかける」⁸⁵、visszahív vkit 「～に電話をかけなおす」

【タクシーを呼ぶ】⁸⁶

Halló! Jó napot kívánok. もしもし

Szeret-n-ék egy taxi-t kér-ni!

好きである-仮定法-1 単不定 1 台 タクシー対格 お願いする-不定詞

「もしもし、タクシー 1 台お願いしたいのですが」

Hova me-het-ünk? — A Stefánia út 21.

どこへ 行く-可能-1 複 シュテファーニア通り 21 番 (へ)

「どこへ行きましょうか? (←我々はどこへ行けますか?)」 —

「シュテファーニア通り 21 番へ」

【電話をかける】

Halló! Itt OOOO beszél. Dibó Gáborral

もしもし こちら 話す.3 単 ディボー・ガーボル-具格

szeret-n-ék beszél-ni.

好きである-仮定法-1 単 話す-不定詞

「もしもし、OOOOが話しています。ディボー・ガーボルと話したいので
すが」

Ki-vel beszél-ek?

誰-具格 話す-1 単

「どなたですか? (←私は誰と話していますか?)」

⁸⁵接頭辞 fel「上へ」が使われる理由は、受話器(telefonkagyló)を上げる様態からか。なお、kagylóの原義は「貝」。それも「二枚貝」なので、「折りたたみ式携帯電話」のことをkagylótelefonという(携帯電話はmobiletelefon)。ちなみに、「スマートフォン」はokostelefonという。okos「賢い」なので、smartからの意識だろう。かつて携帯電話が世に出始めた頃、いつでも携帯電話を見せびらかして音を鳴らしている輩がいたが、そういう無作法を揶揄して、携帯電話のことをbunkofonといった。bunkó「無作法な」から。

⁸⁶タクシーは深夜の移動にも便利だ(ブダペストの町は終電が終わった後でも、時間と地域を限定して「深夜バス(éjszakai busz)」が走ってはいるが)。とりあえず、Főtaxi(+36-1-222-2222, <http://www.fotaxi.hu/>)などが安心。

練習問題

- (1) 次の語に適する接尾辞 **-ba/-be** 「～の中へ」, もしくは **-ra/-re** 「～の上へ」を付けなさい。なお, 母音が長母音化する場合は母音の上に長母音記号「**˘**」を付しなさい。

város..... étterem..... bolt..... iskola.....
tér..... menza..... vécé..... szoba.....
kávéház..... pályaudvar..... híd.....
posta..... egyetem..... múzeum.....
mozi..... lakás..... sziget..... emelet.....
iroda..... könyvtár.....

- (2) 空欄に適する接尾辞 **-ba/-be** 「～の中へ」, **-ra/-re** 「～の上へ」, **-hoz/-hez/-höz** 「～のあたりへ」を入れなさい。なお, 母音が長母音化する場合は母音の上に長母音記号「**˘**」を付しなさい。

Ti a szék..... ültök. 「君たちは椅子に座る」

Péter a fa..... fut. 「ペーテルは木の方へ走る」

A szálloda..... mennek?

「あなたがたはホテルへ行きますか？」

Mi a hegy..... megyünk. 「私たちは山へ行きます」

Beteg vagyok. Elmegyek az orvos.....

「私は病気です。医者に行きます」

第 8 課 バスはどこから来ますか？ (Honnan jön a busz?)

会話

- Elnézést, honnan jön a busz a Keleti pályaudvarhoz?

- Onnan. Lassan jön. Csak várunk.

- Jó napot kívánok, uram.

- Jó napot kívánok. Az utazási irodából jövök.

- Tessék, ez a jegy Velencébe. Jó utazást kívánok.

- Köszönöm szépen.

- Te hova utazol?

- Velencébe.

- Honnan jössz?

- Budapestről.

- Ott dolgozol?
- Nem. Ott tanulok az egyetemen.
- De honnan való vagy?
- Japán vagyok.
- Bocs, már leszálok, további jó utazást kívánok!

単語リスト

bocs	ごめん
busz	バス
dolgozik	働く
honnan	どこから
iroda	事務所, 代理店
jegy	切符
jön	来る
keleti	東の
lassan	そろそろ, ゆっくり
leszáll	降りる
már	すでに
onnan	あそこから
pályaudvar	(ターミナル) 駅
tovább	さらに
utazás	旅行
utazik	旅行する
való	～ (出身, 由来) の
vár	待つ

文法解説

0. 場所格の接尾辞（再掲）⁸⁷

以下の表のとおり，方向性（静止「～に」／着点「～へ」／起点「～から」）と空間における位置（上・表面／内部／隣接・周囲），すなわち，3×3で9つの場所に関わる接尾辞が存在する。

	上部格: 「上」	内部格: 「中」	外部格: 「あたり」
静止: hol?「～に」 ⁸⁸	-n/-on/-en/-ön	-ban/-ben	-nál/-nél
着点: hova?「～へ」 ⁸⁹	-ra/-re	-ba/-be	-hoz/-hez/-höz
起点: honnan?「～から」 ⁹⁰	-ról/-ről	-ból/-ből	-től/-től

1. 起点：Honnan?「どこから？」

1.1. 離格 (delative) : -ról/-ről「～の上から」

「～の表面から」の意味を表す。母音で終わる語についた場合，a/eで終わっているものは á/e と長母音化する。子音で終わる名詞は母音調和に従い，-ról（後舌）／-ről（前舌・円唇）が付く。

【場所】

Fel-veszem az asztal-ról a ceruzá-t.
接頭辞「上へ」-取る-1単定 定冠詞 机-離格 定冠詞 鉛筆-対格

「私は机の上から鉛筆を取り上げる」

Le-száll a villamos-ról.
接頭辞「下へ」-飛ぶ-3単 定冠詞 市電-離格

「(彼(女)は)市電から降りる」⁹¹

Magyarországról jöttem.

⁸⁷ 以下，場所格接尾辞，誘い方・待ち合わせにおける説明および例文等は，早稲田(1995)『ハンガリー語の文法』，大学書林より引用。

⁸⁸ 方言形ではhun?なども。「静止」系の接尾辞の特徴は，このとおり-nである。他に-tなど。副詞でitt「ここに」，ott「あそこに」や，Győrött「ジェールにて」などに見られる-ban/benの異形態がある。

⁸⁹ hová?も使われる。接尾辞の特徴は-ra/eと言えよう。副詞ide「ここへ」，oda「あそこへ」も同様。

⁹⁰ 接尾辞の特徴は-lと見られる。副詞innen「ここから」，onnan「あそこから」。

⁹¹ 前課の-ra/reで見たとおり，「市電に乗る」はfelszáll a villamosraである（接頭辞と接尾辞が意味的に逆になる）。

ハンガリー-離格 来る過去-1単
「私はハンガリーから来ました」⁹²

【時】

nap-rólnap-ra 「毎月毎日」

【格支配】⁹³

Sokat beszél-nek Magyarország-ról.

《beszél vki-ről/vmiről》

多くのことを 話す-3複ハンガリー-離格

「彼らはハンガリーについてたくさんのお話をしています」

Mit gondol-sz erről a film-ről?

《gondol vmit vmiről》

何-対格 思う-2単不定 これ-離格 定冠詞 映画-離格

「君はこの映画について何を思いますか？」

Le akar-ok szok-ni a

接頭辞「下へ」 欲する-1単不定 習慣とする-不定詞 定冠詞

dohányzás-ról. 《leszokik vmiről》

喫煙-離格

「私はタバコをやめたい」

Tokaj híres a bor-a-i-ról. 《híres vmiről》

トカイ 有名な 定冠詞 ワイン-所有 3単複-離格

「トカイは(多種の)ワインで有名だ」

1.2. 出格 (relative) : -ból/-ből 「～の中から」

「～の中から」という意味を表す。母音調和に応じて -ból (後舌) / -ből (前舌・円唇) が付く。なお、母音 a/e で終わる語に付いた場合、á/é と長母音化する。

【場所】

A doboz-ból ki-ve-tt-em a

定冠詞 箱-出格 接頭辞「外へ」-取る過去-1単定 定冠詞

ceruzát.

鉛筆-対格

「私は箱から鉛筆を出した」

ki-megy-ek a ház-ból.

⁹²ただし、「日本から」「東京から」のように外国の国名、都市名なら、以下で述べる出格 -ból/-ből が付く。Japán-ba, Tokió-ba, Varsó-ból 「ワルシャワから」、Krakkó-ból 「クラクフから」、Genf-ből 「ジュネーブから」など。

⁹³動詞が求める決まった格接尾辞のこと。一般通念から導き出させるような場所の意味で使われる用法ではないものを示す。なお、表示の “vmi” は valami 「何か」、 “vki” は valaki 「誰か」 の意。vmit 「何かを」、vkit 「誰かを」、vmiről 「何かについて」 など必要とする接尾辞を付加して示す。ちなみに、vmi および vki は前舌母音 (valami/valaki) であるため、接尾辞は前舌母音用 (今回扱う接尾辞「～から」では、-ról, -ból, -tól) が付くことになる。

接頭辞「外へ」行く・1単 定冠詞 家出格

「私は家から外へ出て行く」⁹⁴

Japán-ból jött-em.

日本出格 来る過去・1単

「私は日本から来ました」⁹⁵

【その他】部分格用法⁹⁶

Eszik a kenyér-ből.

食べる・3単不定 定冠詞 パン出格

「彼(女)はパン(の一部)を食べている」⁹⁷

【格支配】

Budapest két rész-ből áll. 《áll vmiből》

ブダペスト 2 部分出格 立っている・3単

「ブダペストは2つの地域から成り立っている」

Ez fá-ból készült. 《készül vmiből》

⁹⁴ 前回の -ba/be で見たとおり、「家の中へ入る」は *bemegy a házba* となる(接頭辞は *be* 「中へ」と意味的対立)。ちなみに、「出かける」という意味なら、*el-megy (a házból)* となる(接頭辞 *el* 「～から離れて」)。*kimegy* は“外出”という意味ではなく、単に家の外に出るという意味だけにとどまることに注意。

⁹⁵ 離格で *Magyarországról, Budapest-ről* となるように、基本的に国名としてのハンガリー (*Magyarország*) およびハンガリー国内の地名には *-ról/ről* が付くが、例外として以下の地名(語末が *-i, -j, -r, -m, -n, -ny*) には *-ból/ből* が接続する:

Badacsony-ból, Debrecen-ből, Eger-ből, Esztergom-ból, Győr-ből, Hatvan-ból, Komárom-ból, Mihályi-ból, Salgótarján-ból, Sopron-ból, Tihany-ból, Tokaj-ból, Veszprém-ből など。

外国の国名および都市名には、まず内格 *-ból/ből* が付くといってよい。唯一の例外は、*Thaiföld-ről* 「タイ(ランド)へ」。推して、*Hokkaidó-sziget-ről* 「北海道(島)へ」など。すなわち、外国の地名でも、*föld* 「土地」、*sziget* 「島」などハンガリー語の単語が付くものには、従来の文法に従い(土地や島は「～の上」が一般通念なので)、着格語尾が適用される。

⁹⁶ 【部分格】動詞定活用において、通常、定冠詞を伴う対格目的語があれば動詞は定活用となるが、その対象物の“部分”を動詞が求めている場合なら、動詞は不定活用で良い:

例、(お肉屋さんの対面販売でガラス内の肉の塊を指さし、そこから何グラムかお願いする)

- i) *Azt kérek!*
あれ対格 お願いする・1単不定
「それをください!」
- ii) *Ab-ből kérek!*
あれ出格 お願いする・1単不定
「それからください!」

すなわち、この場面のより具体的な表現をするならば、この例における *azt* 「あれを」、今回説明の出格語尾 *-ból/ből* で置きかえることが出来る場合が部分格用法である。

⁹⁷ 以下、対格接尾辞 (*-t*) を使用したものと、それに加えて接頭辞 *meg* (動作完了を意味する) を加えた二文を参照:

- i) *Kenyeret eszik.*
パン対格 食べる・3単不定
「彼(女)はパンを食べている」
- ii) *Meg-eszi a kenyeret.*
接頭辞[完了]・食べる・3単定 定冠詞 パン対格
「彼(女)はパンを(全部)食べてしまう」

これは 木出格 作られる過去3単

「これは木で出来ている」

Nemesi család-ból származ-ik 《származik vmiből》

貴族の 家族出格 出自である3単

「彼（女）は貴族の出身である」

1.3. 奪格 (ablative) : -tól/-től 「～のあたりから」

「～のあたりから」という意味を表す。母音調和に応じて *-tól* (後舌) / *-től* (前舌・円唇) が付く。なお、母音 *a/e* で終わる語に付いた場合、*á/é* と長母音化する。

【場所】

A villamos a híd-től jön.

定冠詞 市電 定冠詞 橋-奪格 来る3単

「市電は橋の方から来る」

Budapest-től Debrecen-ig.

ブダペスト-奪格 デブレツェン-到格 「～まで」

「ブダペストからデブレツェンまで」

Ajándék-ot kapt-am a barát-om-tól.

プレゼント-対格 得る過去-1単不定 定冠詞 友達-所有1単-奪格

「私は友達からプレゼントをもらった」

Az egyetem nincs messze a színház-tól.

定冠詞 大学 ない 遠くに 定冠詞 劇場-奪格

「大学は劇場から遠くない」⁹⁸

【時】

Reggel-től est-ig dolgoz-om.

朝-奪格 晩-到格 「～まで」 働く-1単

「私は朝から晩まで働く」

Az iroda délelőtt 10-től délután

定冠詞 事務所 午前 10時-奪格 午後

5-ig nyitva van.

5時-到格 「～まで」 開いている be

「事務所は午前 10時から午後 5時まで開いている」⁹⁹

⁹⁸ *messze van vamtól* 「遠くにある」。対して、「近くにある」は *közel van vmihez* で向格 *-hoz/-hez/-höz* を使う。

⁹⁹ よくある店舗営業時間の表現。 *nyitva van* 「開いている」の反対は *zárva van* 「閉まっている」である。ちなみに、以下はハンガリーで最も有名な営業時間案内と言えるもの：

LISZT FERENCZ

lakásán található, kedden, csütörtökön, szombaton

3 és 4 óra közt.

意味は「リスト・フェレンツは当宅において、火曜、木曜、土曜の 3 時・4 時の間におります」

【格支配】

Szeretnék kérdez-ni valami-t Ön-től.

《kérdez vmit vkitől》

～したいのですが 質問する-不定詞 何か+対格 あなた-奪格

「あなたになにかお尋ねしたいことがあるのですが」

Segítség-et kért-em a barát-om-tól

《kér vmit vkitől》

助け-対格 お願いする-過去-1 単定 定冠詞 友達-所有 1 単-奪格

「私は友達に助けを求めた」

Fél-ek a földrengés-től. 《fél vmitől/vkitől》

恐れる-1 単 定冠詞 地震-奪格

「私は地震が怖い」

2. 誘い方, 待ち合わせ

Ráér-sz ma este? — Igen, szabad vagyok.

暇である-2 単 今日 晩 — はい 自由な be.1 単

「今晚ヒマ？」 — 「ああ, 空いてるよ」

Nincs kedv-ed eljön-ni vel-em¹⁰⁰

ない 気持ち-所有 2 単 出かける-不定詞 具格-1 単

mozi-ba? — De igen!

映画-入格 しかし はい

「僕と映画に行く気ない？」 — 「ええ, あります」

Elmegy-ünk együtt mozi-ba?

出かける-1 複 一緒に 映画-入格

「一緒に映画に行く？」

Hol és mikor találkoz-hat-unk?

どこで そして いつ 会う-可能-1 複

「どこで, 何時に会いましょうか？」¹⁰¹

(közt 「～の間に」 ←後置詞 között と同じ)。ブダペストの「リスト記念博物館」(旧リスト音楽アカデミー。1064 Budapest, VI. ker. Vörösmarty u. 35.) の入り口案内板に書かれているのが見られる。ちなみに, 名前の “Ferencz” の最後の cz は c の古風な表記である。案内板の画像は, <http://www.lisztmuseum.hu/hu/rolunk/> を参照。

¹⁰⁰velem 「私と一緒に」, veled 「君と一緒に」, vele 「彼(女)と一緒に」, velünk 「私たちと一緒に」, veletek 「君たちと一緒に」, velük 「彼らと一緒に」

¹⁰¹-hat/-het は “可能(ható)” を示す動詞派生接辞。ほぼすべての動詞(語幹)に付加し, 可能「～することが出来る」や, 許可「～してもよい」といった意味を形成する。

練習問題

- (1) 次の語に, -ról/-ről 「～の上から」, もしくは -ból/-ből 「～の中から」のどちらかを付けなさい。なお, 接続する母音が長母音化する場合は母音の上に長母音記号「ː」を付しなさい。

épület.....	hegy.....	tér.....
szoba.....	város.....	Magyarország.....
Debrecen.....	posta.....	egyetem.....
bank.....	mozi.....	földszint.....
büfé.....	Lengyelország.....	könyvtár.....
rendelő.....		

- (2) 【場所の格接尾辞まとめ】¹⁰²空欄に適する場所の接尾辞を入れなさい。なお, 接続する母音が長母音化する場合は母音の上に長母音記号「ː」を付しなさい。

Pest..... jövök, és Buda..... megyek.

A Lánchíd..... régi házak állnak.

Az egyetem..... külföldi diákok is tanulnak.

London..... Budapest..... utazunk.

A trolibusz a Keleti pályaudvar..... indul, és a Kossuth tér..... megy.

¹⁰²場所の格接尾辞9つは以下のとおり：

【中】 -ban/-ben 「～中に」 -ba/-be 「～中へ」 -ból/-ből 「～中から」

【上】 -n/-on/-en/-ön 「～の上に」 -ra/-re 「～の上へ」 -ról/-ről 「～上から」

【辺り】 -nál/-nél 「～の辺りに」 -hoz/-hez/-höz 「～の辺りへ」 -tól/-től 「～の辺りから」

Éva a tükör..... áll.

Az utca..... sok ember jár.

A könyvek a polc..... vannak.

Az emberek leszállnak a villamos.....

A taxi az étterem..... indul a Belvárosba.

A lányok leülnek az asztal.....

第 9 課 熱がありますか？ (Láza van?)

会話

- Jó napot kívánok, doktor úr!

- Jó napot kívánok! Mi a panasza?

- Fáj a fejem és a torkom.

- Láza van?

- Igen, körülberül 40 fok.

- Tessék levetkőzni!

- Felöltözhetsz.

- Tessék mondani, mi a bajom?

- Ez influenza. Most kap egy injekciót. Tessék ágyban maradni, és reggel, délben, este bevenni a gyógyszereket! Itt a recept.

- És mikor mozoghatok?

- Szombaton felkelhet, és hétfőn már dolgozhat is.

- Tessék!

- Itt van ez a recept, és kérek lázcsillapítót is.

- Mást nem kér?

- De igen, C-vitamint és fájdalomcsillapítót.

- Az összesen 3,500 forint. Itt tetszik fizetni.

単語リスト

ágy	ベッド
baj	悪いこと
bevesz	取り込む, (薬を) 服用する
c-vitamin	ビタミンC
délben	日中
doktor	博士, 医者
fáj	(…が) 痛む
fájdalomcsillapító	痛み止め
fej	頭
felkel	起き出す
felöltözik	(服を) 着る
fizet	支払う
fok	度

gyógyszer	薬
hétfő	月曜
influenza	インフルエンザ
injekció	注射
kap	得る
körülbérül	だいたい, およそ
láz	熱
lázcsillapító	熱冷まし
levetkőzik	(服を) 脱ぐ
marad	留まる, 残る
más	他の
mikor	いつ
mond	言う
most	今
mozog	動く
összesen	合計で
panasz	不平, 不満
recept	処方箋
szombat	土曜
torok	のど

文法解説

1. 所有表現¹⁰³

ハンガリー語の所有表現は、所有物である名詞の末尾に所有接尾辞を付けることで表される (panaszod「君の不平・苦情 (panasz「不平・苦情」+ -od「君の」)」、hasam「私のお腹 (has「お腹」+ -am「私の」)」。よって、「A の B」という所有句の場合、所有物は B であるため、「A-φ B-所有接尾辞」となる (Péter táskája「ペーテルのカバン (táska「カバン」+ ja [所有 3 人称単数])」。また、所有文は「A には B がある」という形式をとり、所有物 B には所有者 A に対応する所有人称接尾辞を付す。

1.1. 所有人称接尾辞の活用

語幹	母音で終わる語幹に付く		子音で終わる語幹に付く						
			潜在幹末母音 -a/-e ¹⁰⁴ を含まない場合			潜在幹末母音 -a/-eを含む場合			
母音系列	後舌母音	前舌母音		後舌母音	前舌母音		後舌母音	前舌母音	
		非円唇	円唇		非円唇	円唇			
人称\例	alma リンゴ	teve ラクダ	seprű ほうき	asztal 机	szék 椅子	bőr 皮	ház 家	kéz 手	
単数	1	-m		-om	-em	-öm	-am	-em	
	2	-d		-od	-ed	-öd	-ad	-ed	
	3	-ja	-je		-(j)a	-(j)e		-(j)a	-(j)e
複数	1	-nk		-unk	-ünk		-unk	-ünk	
	2	-tok	-tek	-tök	-otok	-etek	-ötök	-atok	-etek
	3	-juk	-jük		-(j)uk	-(j)ük		-(j)uk	-(j)ük
	古形	-jok	(-jek)	-jök	-(j)ok	(-j)ek)	-(j)ök	-(j)ok	(-j)ek), -(j)ök

※3 人称の語尾で -(j)a~-(j)e, -(j)uk~-(j)ük のように表記されているものがあるが、これはある語においては -a~e, -uk~ük であり、ある語においては ja~je, -juk~jük であることを示す。

I. (j)が実現しない場合

- ① 語が -h, j, -gy, -ly, ny, ty, c, cs, -sz, -z, -zs, -s, -dzs で終わっているとき

¹⁰³ 深谷志寿, 深谷ベルタ 1982 『昭和 57 年度言語研修ハンガリー語テキスト 2ハンガリー語 II』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所から引用。

¹⁰⁴ 複数形, 対格形で見た不規則変化の A 語幹および E 語幹のこと。ház/házak/házat/házam, házad, háza,... や, kéz/kezek/kezet/kezem, kezéd, keze,... のとおり (特に, A 語幹は, 通常の後舌系のもの (asztal/asztalok/asztalt/asztalom, asztalod, asztala,...) と繋ぎ母音が異なるので注意)。

- ▶例外, nagyja (nagy 「大きさ」), gúnyja (gúny 「冷笑, 皮肉」)
- ② -v 語幹の語 : 例, szív 「心, 心臓」 ~ szíve

▶例外, lokomotívja (lokomotív 「機関車」), sávja (sáv 「縞, 帯」), távja (táv 「距離, 空間」), öv(j)e (öv 「ベルト, 帯」)

- ③ 語尾が付くことによって母音が短くなる語 : 例, réz 「銅」 ~ reze, ló 「馬」 ~ lova

II. (j)が実現する場合

- ① 後舌母音系の語で語幹が -b, -d, -g, -p, -t, -k (すなわち, ty, gy を除く破裂音) で終わっているものの大部分 : 例, rab 「囚人」 ~ rabja, barát 「友達」 ~ barátja

▶例外 : ただし, 派生辞 -at/-et で終わっている名詞には -a/e が付く。

例, feladat 「課題」 ~ feladata

- ② 二重子音で終わっているもので, 最後の子音が -b, -d, -g, -p, -t, -k のものの大部分 : 例, kert 「庭」 ~ kertje, kard 「剣」 ~ kardja
- ③ f で終わっている外来語 : 例, gróf 「伯爵」 ~ grófja, zsiráf 「キリン」 ~ zsiráfja

▶例外 : dölyf 「尊大, 傲慢」 ~ dölyf(j)e

- ④ -l, -r, -m, -n で終わっている名詞の一部 : 例, bár 「バー, ナイトクラブ」 ~ bárja, hall 「ホール, ロビー」 ~ hallja, sál 「スカーフ, マフラー」 ~ sálja, ár 「浸水, 洪水」 ~ árja, kar 「腕」 ~ karja

▶例外 : halál 「死」 ~ halála, ár 「価格」 ~ ára, kar 「学部¹⁰⁵」 ~ kara, vár 「城」 ~ vára¹⁰⁶

III. 両方の形がある場合

- ① -g か -r で終わっているものの一部 : 例, virág 「花」 ~ virág(j)a, fillér 「フィレル¹⁰⁷」 ~ fillér(j)e
 - ▶ betege 「心配している人」 / betegje 「心配している人」, 「病人」 (←beteg 「病人」)
- ② その他 : zseb 「ポケット」 ~ zseb(j)e
 - ▶ játéka 「玩具」, 「遊び」 / játékja 「玩具」 (←játék 「遊び」)

※具体例 : az almám 「私のリンゴ」, a széked 「君の椅子」, a keze 「彼 (女) の

¹⁰⁵ ちなみに, 「文学部」は Bölcsészettudományi Kar (BTK), 「理工学部」は Természettudományi Kar (TTK) という。

¹⁰⁶ バルトーク (Bartók) のオペラ 『青髭公の城』は, “A Kékszakállú herceg vára” という。青髭公 (Kékszakállú herceg) の城 (vár 「城」 + a [所有 3 人称単数])。

¹⁰⁷ 100 Fillér = 1 Forint で, 1999 年頃まで使われていたハンガリーの通貨。

手 (kéz)」…

！所有者を強調したい場合は人称代名詞を前に置く：

az én almám 「(他でもない) 私のリンゴ」

a te széked 「(他でもない) 君の椅子」

az ő keze 「(他でもない) 彼 (女) の手」

…108

※注意すべき不規則変化

híd 「橋」 (hidak, hidat) : hidam, hidad, hídjá, hidunk, hidatok, hídjuk

idő 「時」 (idők, időt) : időm, időd, ideje, időnk, időtök, idejük

ajtó 「戸」 (ajtók, ajtót) : ajtóm, ajtód, ajtaja / ajtója, ajtónk, ajtótok, ajtajuk / ajtójuk

- ▶ この ajtó において、3 人称の単数・複数において、それぞれ不規則および規則的な形式が存在するが (ajtaja/ajtója, ajtajuk/ajtójuk), 以下のように使い分けが見られる：

a ház ajtaja 「家の戸」 (不規則的)

a mester ajtója 「職人の戸」 (規則的)

すなわち、不規則の ajtaja が使われる場合は「器官的所有 (organikus birtoklás)」, 規則的の ajtója のケースは「非器官的所有 (inorganikus birtoklás)」と言える。つまり、「職人の戸」は、職人が作った戸であって、職人の体に付属しているものではないからである。

※親族名称における所有

ふつう親族名称には人称所有語尾が付く。以下のとおり、3 人称で不規則になるものが多い。¹⁰⁹

	apa 「父」	anya 「母」	(bátya) 「兄」	(öcs) 「弟」	(fia) 「息子」
1 単	apám	anyám	bátyám	öcsém	fiam
2 単	apád	anyád	bátyád	öcséd	fiad
3 単	apja	anyja	bátyja	öccse	fia

¹⁰⁸ なお、所有者が3人称複数「彼ら」の場合、「彼らの車」は az autójuk と3人称複数の語尾が付くが、これも所有者を強調したい場合、すなわち、「(他でもない) 彼らの車」という場合は、az ő autójuk となる。人称代名詞が意味通り「彼ら」のőkではなく、「彼 (女)」のőとなっていることに注意。

¹⁰⁹ 他、nővér 「姉」およびhúg 「妹」は規則的。nővérem, nővéred, nővére, nővérünk, nővéretek, nővérük; húgom, húgod, húga, húgunk, húgotok, húguk

		[ɒɲiɔ]	[baːciɔ]	[øtʃɛ]	
1 複	apánk	anyánk	bátyánk	öcsénk	fiuk
2 複	apátok	anyátok	bátyátok	öcsétek	fiatok
3 複	apjuk	anyjuk [ɒɲiuk]	bátyjuk [baːciuk]	öccsük [øtʃyk]	fiuk

- ▶ 上で見た *ajtó* と同様に, *fiú* も「器官的所有」なら, 親族名称でみる (*fia*) 「息子」の変化を取るが (*fia*), 「非器官的所有」で「少年, 男の子」という意味なら規則的变化をし, *fiúja* となる。以下の使いわけの例を参照:

az asszony fia 「女の息子」

a lány fiúja 「娘の彼氏」

1.2. 所有表現「AのB」: 所有者Aが3人称のケース

冒頭で述べたように, 所有物 B には所有者 A の人称と数に対応する接尾辞が必要となる。以下の例は所有者が3人称単数のため, 所有物には3人称単数の接尾辞が付いている。なお所有者を強調したい場合, 所有者に与格語尾 *-nak/nek* を付け, 所有物の前に定冠詞を置く。

- Péter autója* 「ペーテルの車」 → *Pétemek az autója*
「“ペーテルの” 車」
- János lány-a* 「ヤーノシュの娘」 → *Jánosnak a lánya*
「“ヤーノシュの” 娘」
- a tanár barát-ja* 「先生の友達」 → *a tanámnak a barátja*
「“先生の” 友達」

しかし, この「AのB」という所有表現では, 所有者が3人称複数の場合でも, 所有物には必ず3人称単数の接尾辞を付すという規則がある。すなわち, 「AのB」という表現において, 所有者Aが3人称の場合, その単/複に関わらず, 所有物Bは常に3人称単数語尾になると覚えておけば良い。

- a tanár barát-ja* 「先生の友達」
a tanárok barát-ja 「先生たちの友達」
(← *barát-juk* (3人称複数)にならないことに注意!)

※時を表す名詞に所有接尾辞がつくと, 「～の前に」「～の間」という意味になる。

110

Két éve tanul-ok magyarul.

¹¹⁰他にも, *egy hónapja* 「1か月前 (から)」, *két hete* 「2週間前 (から)」, *három órája* 「3時間前 (から)」, *tíz perce* 「10分前 (から)」など。

2 年-所有3単 勉強する-1単 ハンガリー語を
 「私は2年間（2年前から今まで）ハンガリー語を勉強しています」

2. 所有文

Ez az én könyv-em.

これは 定冠詞 私 本-所有1単

「これは私の本だ」

(Nek-em) van egy könyv-em.

(与格-1単) ある 不定冠詞本-所有1単

「私（に）は本がある」

(Nek-em) nincs könyv-em.

(与格-1単) ない 本-所有1単

「私（に）は本がない」

練習問題

(1) 次のことばに所有接尾辞をつけさない。

	szoba	könyv	levél	papír	étterem
én					
te					
ő					
mi					
ti					
ők					

(2) 日本語訳に適する所有人称接辞を入れなさい。なお、対格接尾辞等が後続して長母音化している場合は、長母音記号 (ː)も忘れずに付すこと。（「君の」…2人称単数、「あなたの」…（敬称）3人称単数）

Egészség_____re! 「（私たちの）健康のために！」

Kez_____t csókolom! 「（あなたの）御手にキスを！」

Kérem szépen a nev_____t. 「（あなたの）お名前をお願いします」

Egészség_____re! 「(君の) 健康のために！」

augusztus tizenhetedik_____ 「8月17日」

Ez a fi_____, Takuya. 「これは私の息子 (fiú), Takuyaよ」

Ó Taroo, a férj_____. 「彼はタロー, 私の夫よ」

Mi a foglalkozás____? 「あなたのご職業はなんですか？」

Bemutatom a családnak_____. 「私の家族を紹介します」

Hol laknak a szülők____? 「君の両親 (szülő 「親」) はどこに住んでいますか？」

Kérem a pontos címet____ és telefonszámot____.

「(あなたの) 住所と電話番号を正確にお願いします」

Mi a panasz____? 「(君の) 不平・苦情は何か？」

Nagyon fáj a has____. 「(私の) お腹がとても痛いです」

Van láz____? 「(君の) 熱はあるかな？」

De hasmenés____ van. 「でも (私の) 下痢があります」

Egész piros a nyelv____. 「(君の) 舌が全部赤いよ」

Van egy kis idő____? 「(君の) 時間ちよっとある？」

Én is most jövök a munkahelyem____ről. 「私もいま (私の) 職場から来たところさ」

Nincs semmi tervem____. 「(私の) 計画は何もないわ」

Van egy nyaraló____ a Balatonon. 「(私たちの) 別荘がバラトン湖にあるんだ」

Nincs kedvem____ eljönni? 「出かけてくる (君の) 気持ちはない？」

Hány testvér____ van (neked)? 「(君には) (君の) 兄弟姉妹は何人いますか？」

- (3) 空欄に適する所有人称接辞, または, 与格形 (-nak/-nek) の人称形を入れなさい。

_____ nincs sok barátom. 「私にはそんなに友人がない」

_____ van ma magyarórád? 「君は今日ハンガリー語の授業があるかい？」

_____ is van délelőtt órája. 「彼（女）にも午前中に授業がある」

Nekem nincs pénz_____. 「私はお金がない」

Neki sötét haj___ van. 「彼（女）は黒い髪をしている」

Kinek nincs szótár___? 「誰が辞書を持っていませんか？」

_____ is van kutyátok? 「君たちも犬を飼っているのかい？」

_____ rossz kedvünk van. 「私たちは気持ちが悪い」

_____ van bélyegük? 「彼らは切手を持っていますか？」

Nektek van bor_____? 「君たちワインあるかい？」

Nekünk sok vendég_____ van. 「私たちには多くのお客がいます」

Nekik nincs telefon_____. 「彼らには電話がない」

„királyok bor___, borok király___”

「王のワイン, ワインの王 (←王たちのワイン, ワインたちの王) 」

第10課 妻の名前の日です (A feleségem névnapja van)

会話

- Halló! Jó napot kívánok! Tanaka Tarot keresem.
- Igen, itt Taro beszél.
- Szervusz, Taro! Gábor vagyok.
- Szervusz! Mi újság?
- Ráérsz ma este?
- Igen, szabad vagyok. Miért?
- Néhány barátunk jön hozzánk. Tudod, ma van a feleségem névnapja. Nincs kedved eljönni?
- De, nagyon szívesen. Köszönöm a meghívást.

- Üdvözöllek. Örülök, hogy itt vagy.
- Szervusz!
- Köszönöm. Gyere be! A többiek már itt vannak.
- Kezét csókolom! Sok boldogságot kívánok, kedves Mária!
- Jaj de szép! Ez a kedvenc virágom. Igazán nagyon kedves!

- Mit iszik? Bort, sört, üdítőt? Pálinka is van.
- Egy pohár sört kérek.
- Dreher sör jó lesz?

- Persze, nagyon szeretem.

- Egészségére!

- A háziasszony egészségére!

単語リスト

barát	友人
boldogság	幸せ
bor	ワイン
égeszseg	健康
eljon	出かけてくる
feleség	妻
háziasszony	奥様
hozzánk	私たちのところへ
igazán	本当に
kedv	心, 気持ち
kedvenc	好きな
kedves	優しい, 親愛な
kéz	手
meghívás	招待
miért	なぜ
néhány	いくつかの
névnap	名前の日
pálinka	パーリンカ (果物から作る蒸留酒)
pohár	グラス, 杯
ráér	暇である
sok	多くの
sör	ビール
szabad	自由な
többi	他の (もの)
üdítő	清涼飲料水
virág	花

文法解説

1. 複数所有表現¹¹¹

所有物が複数の場合、複数所有のマーカ―は *i* を取り、その後には人称接尾辞が付く。¹¹²

※母音で終わる語の場合はこのとおりだが、子音で終わる語はまず単数所有の3人称単数形(=所有表現「AのB」のときのBに付く所有接尾辞)を求め、そこに複数所有マーカ―の *i* が付き(=複数所有3人称単数形)、以下の人称接尾辞が付く。

例,

後舌 : bor 「ワイン」 → bora 「彼(女)のワイン(単数)」, a Péter bora 「ペーテルのワイン」, a király-ok bora 「王たちのワイン」
→ borai 「彼(女)のワイン(複数)」

前舌 : feleség 「妻」 → felesége 「彼の妻(単数)」, a Péter felesége 「ペーテルの妻」, a király-ok felesége 「王たちの妻」 → feleségei 「彼の妻(複数)」

語幹		母音で終わる語幹に付く		子音で終わる語幹に付く			
		後舌母音	前舌母音	後舌母音		前舌母音	
人稱\例		hajó 船	gyűrű 指輪	fog 歯	kard(ɟ) 剣	könyv 本	kürt(ɟ) 角笛
単数	1	-im		-ɟaim	-ɟeim		
	2	-id		-ɟaid	-ɟeid		
	3	-i		-ɟai	-ɟei		
複数	1	-ink		-ɟaink	-ɟeink		
	2	-itok	-itek	-ɟaitok	-ɟeitek		
	3	-ik		-ɟaik	-ɟeik		

※母音で終わる語のうち、*-a/e* で終わっている語に接尾辞が付く場合、*-á/é* と長母音化する。例, fa 「木」 ~ fáim 「私の木(複数)」

※子音で終わる語のうち、単数の所有での3人称単数の語尾が *-a/e* のものには上の表内の(ɟ)は実現しないが(fog 「歯」, foga 「彼(女)の歯(単数)」, fogaim 「私の歯(複数)」), ja/je のものにおいては全人称にわたって(ɟ)が実現する

¹¹¹ 深谷志寿, 深谷ベルタ 1982 『昭和57年度言語研修ハンガリー語テキスト2ハンガリー語II』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所から引用。

¹¹² szülők 「親(複数)」, すなわち「両親」は単数の所有ではなく、ここにある複数の所有を用いて表す。szüleim, szüleid, szülei, szüleink, születek, szüleik

(kard 「剣」, kardja 「彼 (女) の剣 (単数)」, kardjaim 「私の剣 (複数)」, kardjaid 「君の剣 (複数)」 …)。

- ▶ 例外 : barát 「友達」 : barátja 「彼 (女) の友達 (単数)」, barátaim 「私の友達 (複数)」, barátaid 「君の友達 (複数)」, barátai 「彼 (女) の友達 (複数)」 …

※ 「A の B の C」 : 大所有者 A は無標, 小所有者 B には所有語尾と与格語尾, 定冠詞を置き, 最後の所有物 C に所有語尾を付す¹¹³ :

Péter	autójá-nak	a	kerek-e
ペーテル	車-所有 3 単-与格	定冠詞	タイヤ(kerek)-所有 3 単
「ペーテルの車のタイヤ」			
az	apám	szobájá-nak	az ablak-a
定冠詞	父-所有 1 単	部屋-所有 3 単-与格	定冠詞 窓-所有 3 単
「私の父の部屋の窓」			

! 実際に出てくる例 (新聞などに多い) :

az	irodalmi	Nobel-díj	esélyes-ei-nek
定冠詞	文学	ノーベル賞	可能性のある人-所有-複数 3 単-与格
sor-á-ban			
列-所有 単数 3 単-内格			
「文学のノーベル賞の可能性のある人物のリストにおいて」			

2. 単数所有形と-ék 「～たち」

名詞の語尾に -ék¹¹⁴をつけることで, 「～たち」「～家」を表すことの出来る接尾辞がある。

例, Pistá-ék 「ピシュタたち」, Buddenbrook-ék 「ブッデنبロック家」

では, これと単数所有形を使った barát-om-ék 「私の友人たち」と, 複数所有を使った barát-ai-m 「私の友人 (複数)」の違いはどうか? 違いがよく分かる以下の例を参照 :

anyá-m-ék 「私の母たち (?)」

¹¹³ 更に連鎖を重ね, 「A の B の C の D」という場合, 以下のようになる :

az	ember	felesége	autójá-nak	kulcs-a
定	人	妻-所有 3 単	車-所有 3 単-与格	鍵-所有 3 単
「その人の妻の車の鍵」				

¹¹⁴ なお, この-ékは, 本来, -é 「～のもの」 (例, a diák könyve 「その学生の本」 = a diáké 「その学生のもの」) に複数形マーカーの-kが合わさって出来たものである。

*anyám 「私の母 (複数)」 ←理論的にあり得ないので×

anyámék は、「私の母とその他」という意味での「私の母たち」。よって、barátoméék も「私の友人 (単数) とその他」という意味での「私の友人たち」である (その中には自分の知らない、友人でもない人間が混じっている可能性もある)。

3. 複数所有の異形：ハンガリー西部方言から

(ブルゲンラント, オーストリア共和国)

この複数所有が、上で述べたような現代ハンガリー語の標準語の形式とは大分異なるものを持つ方言がある。以下は、オーストリア共和国ブルゲンラント州¹¹⁵ オーバーヴァルト¹¹⁶近辺で話される単数所有・複数所有のパラダイムを、標準語と比較した表である。以下の表, *gyerek* 「子ども」の所有表現変化で見るとおり、ブルゲンラント方言の複数所有は、(3 人称単数を除き) 標準ハンガリー語の「単数所有」の形に *-iek* が付いていることが分かる (当該方言の音声面での特徴から、標準ハンガリー語で *gy* であるのが *dzs* に変化していることに注意)。

	標準ハンガリー語		ブルゲンラント方言
	単数所有	複数所有	複数所有
1.sn	gyerek-em	gyerek-ei-m	dzserék-ém <i>-iek</i>
2.sn	gyerek-ed	gyerek-ei-d	dzserék-éd <i>-iek</i>
3.sn	gyerek-e	gyerek-ei	dzserék-eji
1.pl	gyerek-ünk	gyerek-ei-nk	dzserék-ünk <i>-iek</i>
2.pl	gyerek-etek	gyerek-ei-tek	dzserék-éték <i>-iek</i>
3.pl	gyerek-ük	gyerek-ei-k	dzserék-csök <i>-iek</i>

4. 親族名称

※以下、すべて「私の～」:

nagyszüleim 「祖父母」 : nagyapám 「祖父」, nagyanyám 「祖母」

szüleim 「両親」 : apám 「父」, anyám 「母」

¹¹⁵ Burgenland は、オーストリア共和国の州の一つ。ハンガリーと国境を接する最東部にある細長い州で、1921年、第一次世界大戦後のトリアノン条約 (対ハンガリー) とサンジェルマン条約 (対オーストリア) の結果、生まれた州(Land)。州都はアイゼンシュタット(Eisenstadt/Kismarton)。2001年の国勢調査時点で人口約27万人のうち、ハンガリー系住民は6,641名 (約2.4%)。

¹¹⁶ オーバーヴァルト郡(Bezirk Oberwart)の中心、Oberwart 「オーバーヴァルト市」。ハンガリー語名 Felsőőr という。Oberwart という名前はハンガリー語名からの借用翻訳 (felső 「上」 + őr 「見附」) であり、すなわち、ここがハンガリーからみて対オーストリアの前線地帯であったことが伺えるように、第一次大戦以前、現在のブルゲンラント州は、旧ハンガリー王国領であった。2001年の国勢調査では、オーバーヴァルトの人口約7千人のうち、約1千人がハンガリー系であると申告した。

nagybátyám 「叔父」, nagynéném 「叔母」, unokatestvérem 「いとこ」

testvérem 「兄弟姉妹」 :

bátyám 「兄」, öcsém 「弟」 ; nővérem 「姉」, húgom 「妹」

unokaöcsém 「甥」, unokahúgom 「姪」

férjem 「夫」, feleségem 「妻」

gyerekeim 「子ども」 : fiam 「息子」, lányom 「娘」

unokám 「孫」

apósom 「義理の父」, anyósom 「義理の母」

sógorom 「義理の兄弟」, sógomóm 「義理の姉妹」

vóm 「義理の息子」, menyem 「義理の娘」

練習問題

(1) 次の語の複数所有人称接尾辞を入れなさい。

	kutya	könyv	pohár	nadrág	tanterem
én					
te					
ő					
mi					
ti					
ők					

(2) 以下を複数所有人称接尾辞で文を書き換えなさい。

Az új ruhám a szekrényben van.

→

Régi a bútorotok.

→

Kíváncsi vagyok a fényképekre.

→

Mikor jön a vendégetek Magyarországról.

→

Van a Dunának szép hídja.

→

A barátunkat meghívjuk a születésnapomra.

→

Hol van a papírod?

→

第 11 課 切符をどうすればいいの? (Mit kell csinálni a jeggyel?)

会話

... Taro városnézésre megy Gáborral, mert még egyáltalán nem ismeri Budapestet. Ezért Gábor elkíséri őt. Először a Városligetbe mennek.

- Mivel megyünk?

- Villamossal és földalattival. Most az egyetemen vagyunk, tehát a 49-es vagy 47-es villamossal elmegyünk a Deák térre, és onnan a földalatti egyenesen elvisz minket a Városligetbe.

- És hogyan lehet Budapesten villamoson utazni?

- Bérlettel vagy jeggyel. Nekünk bérletünk van.

- De nekem még nincsen jegyem. Hol lehet jegyet venni?

- Vehetsz a trafikokban vagy a metróállomásokon.

- És a villamoson mit kell csinálni a jeggyel?

- Ki kell lyukasztani. A villamosokon, a metrón és az autóbuszokon kis készülékek vannak, azokon kell kezelni a jegyet. Egy jegy háromszázötven forintba kerül...

- Jegyeket, bérleteket kérem ellenőrzésre!

- Tessék!

- Köszönöm.

- Mi történik, ha valaki jegy nélkül utazik?

- Az ellenőr megbünteti.

- Mennyi a büntetés?

- Nyolcezer forint.

単語リスト

bérlet	定期
büntetés	罰金
csinál	する (do)
egyáltalán	全く
egyenesen	まっすぐに
elkísér	付きそう
ellenőr	(チケット) コントローラー
ellenőrzés	(チケット) コントロール
először	はじめて
elvisz	連れていく
ezért	このため
földalatti	地下鉄
ismer	知っている
készülék	器具
kezel	処理する
kis	小さな
lehet	可能である
lyukaszt	穴を開ける
megbüntet	罰金を与える
mert	なぜなら
metró	メトロ
metróállomás	メトロ駅
minket	私たちを
mivel	何で (手段)
nekem	私に
nekiünk	私たちに
nélkül	～なしで

ő	彼 (女)
tehát	したがって
történik	起こる, 発生する
trafik	タバコ屋, キオスク
Városliget	市の森 (公園)
városnézés	市内観光
vesz	取る, 買う

文法解説¹¹⁷

0. 不定詞の用法

動詞は語幹に *-ni* を付けることにより、不定詞 (*főnévi igenév / infinitivus*)¹¹⁸を作ることが出来る。不定詞は文中におけるその機能により、主語、目的語 (対格)、修飾語 (副詞的) になる。

1. 目的語 (対格) として働く

akar 「～したい」、*tud* 「～できる (能力的に)」、*szeret* 「～することが好きである」、*szeretnék* (*szeret* の仮定形) 「～したいのですが…」といった動詞の対格目的語として使われる。

このグループの特徴は、外的要因にかかわらず、話者 (主語) は「～したい」、「～する」、「～できる (能力)」、といったことである (→話者の意図のコントロール下にある)。

なお、不定詞となった動詞が他動詞の場合 (対格目的語を取る場合)、その目的語が定まったもの (定冠詞付き) であれば、*akar*, *fog*, *tud*, *kezd*, *szeret*, *utal* など動詞は定活用となる (目的語が定まっていないもの (不定冠詞, 冠詞なし, 数詞など) であれば不定活用)。

<i>Tanul-ni</i> 勉強する-不定詞 「私は机勉強したい」	<i>akarok.</i> ～したい-1 単不定
<i>Nyelv-et</i> 言語-対格 「私は言葉を勉強したい」	<i>akarok tanul-ni.</i> ～したい-1 単不定勉強する-不定詞
<i>A magyar nyelv-et</i> 定冠詞 ハンガリーの 言語-対格	<i>akarom tanul-ni.</i> ～したい-1 単定 勉強する-不定詞 「私はハンガリー語を勉強したい」
<i>Tud-ok</i> ～できる-1 単	<i>úsz-ni.</i> 泳ぐ-不定詞 「私は泳げます」
<i>Szeret-ek</i>	<i>könyv-et olvas-ni</i>

¹¹⁷ 例文等は、早稲田 (1995) 『ハンガリー語の文法』, 大学書林. より引用。

¹¹⁸ ここで扱う *-ni* の形式は、ハンガリー語の文法では名詞分詞 (*főnévi igenév*) と呼ばれる。分詞 (*igenév*) は他に形容詞分詞 (*melléknévi igenév*, 過去分詞 *-t* 「～した」、現在分詞 *-ó/ó* 「～する, している」、未来分詞 *-andó/endő* 「～すべき」からなる) と副詞分詞 (*határozói igenév*, *-va/-ve* 「～しながら」) がある。

好きである-1単不定	本-対格	読む-不定詞
「私は本を読むのが好きです」		
Szeret-nék	Laci-val	beszél-ni.
好きである-仮定-1単	ラツィ-具格	話す-不定詞
「私はラツィと話したいのですが」		
Tanul-ni	fog-ok.	
勉強する-不定詞	～する-1単	
「私は勉強します」		
Kezd-ek	orvos-hoz	jár-ni.
始める-1単	医者-向格	歩く, 通う-不定詞
「私は医者に通い始めます」		
Utál-ok	level-et	ír-ni.
嫌いである-1単不定	手紙-対格	書く-不定詞
「私は手紙を書くのが嫌いである」		

2. 主語として働く

動詞では *kell* 「～しなければならない, 必要である」, *lehet* 「～できる (状況的に)」, *sikerül* 「～がうまくいく, 成功する」, 形容詞では *szabad* 「～してよい」, *tilos* 「～が禁止な」などと共に使われる。

このグループの特徴は, *kell* 「しなければならない」や *lehet* 「(状況的に) できる」というように, イベントは外的要因によって引き起こされることである (すなわち, 話者 (意味上の主語) の意図のコントロール下にならないもの。以下にあるように, *tanulni kell* 「勉強しなければならない」は話者が自ら意図してする動作ではなく, 仕方のないことである)。

不定詞が主語であるから, 理屈として人称は 3 人称単数となる。よって, 助動詞的要素として使われる *kell* 「～しなければならない, 必要である」や *lehet* 「～できる (状況的に)」は常に 3 人称単数, すなわちこのままで人称変化をしない。もし, 人称を表す場合は与格形 (*-nak/-nek*) や不定詞を人称活用させる。¹¹⁹

119例,	Nekem	kell	men-ni	[men-nem].
	私に (与格)	必要である	行く-不定詞	行く-不定詞-1単
	「私が行かなければならない」			
	! *Kellek	memni.	ではない!!	
	← <i>kell</i> を活用させない。ただし, 法が変わること (命令法や仮定法) は可:			
	Ne	kell-jen	men-ni	[men-nem].
	否 (命令)	必要である-命令-3単	行く-不定詞	行く-不定詞-1単
	「(私が) 行かないでもすむように!」			

なお, 不定詞の人称変化は以下のとおり:
 後舌: *nom, nod, nia, nunk, notok, niuk*
 前舌: *nem, ned, nie, nünk, netek, niük*
 円唇: *nöm, nöd, nie, nünk, nötök, niük*

ちなみに, 不定詞が 1 人称単数の人称形で, かつ 2 人称の対格目的語を取るような場合, (類推から) 口語では稀に *-lak/-lek* を伴った形式で現れることがある:

【動詞】

Tanul-ni kell.
勉強する-不定詞 ~しなければならない, 必要である
「勉強しなければならない」

Péter-nek tanul-ni-a kell.
ペーテル-与格 勉強する-不定詞-3単 ~しなければならない, 必要である
「ペーテルは勉強しなければならない」

Lehet¹²⁰ pihen-ni.
~が可能である 休息する-不定詞
「休んでよい」

Muszáj¹²¹ tanul-ni.
ないわけにはいかない 勉強する-不定詞
「勉強しなければならない」

Sikerül-t találkoz-ni.
成功する-過去 会う-不定詞
「うまく会えた」¹²²

【形容詞】

Szabad dohányoz-ni.
自由な 喫煙する-不定詞
「タバコを吸ってもよい」

Itt tilos dohányoz-ni.
ここで 禁止な 喫煙する-不定詞
「ここは禁煙である」

Fontos tanul-ni.
重要な 勉強する-不定詞
「勉強することは重要だ」

Gyalogol-ni jó.

例, Téged oda kell hív-nalak.
君を (対格) そこへ 必要である 呼ぶ-不定詞-1人称単数→2人称
「私は君をそこへ呼ばなければならない」
(= Téged oda kell hívnom.)

¹²⁰ lehet は状況的に“可能である”ということ。そもそも、存在動詞 van (または lesz) に可能を表す接辞 -hat/-het が付いて出来た語である。「ありうる, かも知れない」ぐらいの意味として捉えると良い。ちなみに, lehet が使われる場合, 上で見たような与格形や不定詞の人称変化で特定の人称を表すようなことはしない (lehet の意味が“一般的にしてもよい, ありうる”というものだから, 特定のケースを想定することが出来ないのである)。

¹²¹ muszáj 「ないわけにはいかない」はドイツ語の muß sein 「~しなければならない」が起源。ちなみに, ドイツ語の ß (エスツェット) はハンガリー語では sz である (だからこれを /s/ 「ス」と発音するのである)。

¹²² sikerül 「成功する」は他にも, 「見つけるのが成功した」といった時にも使われる。

歩く-不定詞 良い

「歩くのはよいことだ」

3. 修飾語 (副詞的) として

【移動の動詞と共に：～するために】

Megy-ek tanul-ni.
行く-1単 勉強する-不定詞

「私は勉強しに行く」

Laci el-ment újság-ot olvas-ni.
ラツィ 接頭辞「～から離れて」-行く過去3単 新聞-対格 読む-不定詞

「ラツィは新聞を読みに行った」

【名詞や形容詞を修飾する】

Nincs kedv-em mozi-ba men-ni.
ない 気持ち-所有1単 映画-入格 行く-不定詞

「私は映画に行く気がしない」(←kedv「気持ち」を修飾)

Legyen szíves hely-et foglal-ni!
be.命令3単 どうぞ 場所-対格 占める-不定詞

「どうぞお座り下さい！」

(←szíves「(～という) 気持ちの」を修飾)

【対格目的語が不定詞の意味的動作主となる】

Hall-ott-am Pétert énekel-ni.
聞こえる-過去1単定 ペーテル-対格 歌う-不定詞

「私はペーテルが歌うのを聞いた」

A tanár el-engedt-e a
定冠詞 先生 接頭辞 (完了) 許す過去3単定 定冠詞

gyerek-ek-et játsz-ani.
子ども複-対格 遊ぶ-不定詞

「先生は子どもたちが遊ぶのを許した」

Mari el-küldött engem
マリ 接頭辞 (完了) 送る過去3単不定 私を (対格)

vásárol-ni.
買い物する-不定詞

「マリ¹²³は私を買い物に送り出した」

4. 違いがわかる「できる」: tud, lehet, szabad, -hat/-het

【tud】「できる」能力, 知識を持つ: tud が人称変化, すなわち主語=話者の意図のコントロール下

¹²³Mária 「マーリア (女性名)」の省略愛称形。

Anna nagyon jól tud főzni. 「アンナはとてもよく料理ができる」

Nem tudok úgy sietni. 「そんなに急ぐことができない」

(←体力的に無理)

【lehet】 現実的, 状況的に「やってもよい」「ありうる」: 人称変化せず。一般的, 客観的に可能

Ha nem esik az eső, el lehet indulni.

「もし雨が降っていないのなら, 出発できます」

Hol lehet magyar bort kapni Tokióban?

「東京ではどこでハンガリーのワインが手に入りますか?」

【szabad】 習慣, 法律, 倫理的規則として「やっても良い」: 対立語句は tilos 「禁止だ」¹²⁴

Itt szabad dohányozni. 「ここは喫煙可能」

Nem szabad kézzel enni, Lacika!

「手で食べてはいけません, ラツィちゃん!」

【-hat/-het】 ある条件のもとでの可能性, お願い, 許可。付いた動詞は人称変化する。¹²⁵

Itt még van egy üres hely. Nyugodtan leülhetsz.

「ここにまだ空席がある。気にせず座れるよ」

Öt óra lehetett¹²⁶, amikor felebredtem.

「目覚めたとき, 5時だったかもしれない (→lehet 「ありうる」)

Ki adhatta ezt a felvilágosítást neked?

「誰がこの案内パンフレットを君に寄こしたんだっけ?」

Bemehetek? - Bejöhet. 「入室できますか?—お入りください」

(bemegey + -hat/-het)

! 現在分詞 -ó/-ő をさらに付けた -ható/-hető 「～できる」(受動) もよく使われる。これは形容詞として働く。

Ez e-hető gomba.

この 食べる(eszik)-可能-現在分詞 キノコ

「これは食べられるキノコです」

¹²⁴ 「空いてますか?」, 部屋のノック, テーブルの相席, あるモノを取って良いかなど, すべて Szabad? 「いいですか?」

他, Szabad a kabátját, asszonyom? 「ご婦人, コートよろしいでしょうか?」

¹²⁵ lehet が一般的可能ということで人称変化しないので, その代わりの役目(特定の人称で動作をとり行う)を負っているといえる。

¹²⁶ van 「ある」, lesz 「なる」に -hat/-het が付くと, lehet となる。

A jármű-vezetőnél vonal-jegy

定冠詞 乗り物-運転手-接格 (～あたりに) 路線-切符

kap-hat-ó.

得る-可能-現在分詞

「運転手のところで路線切符が買えます」

(←バス内の掲示より引用)

練習問題

(1) 不定詞(動詞語幹-ni)を作りなさい。

tanul → _____ vesz → _____ dolgozik → _____

főz → _____ ír → _____ készít → _____

tanít → _____ megy → _____ jön → _____

eszik → _____ iszik → _____ van → _____

(2) 空欄に, kell 「必要だ」, lehet 「可能だ」, tilos 「禁止だ」, nem szabad 「～してはいけない」をいれなさい。

A villamoson a jegyet kezelni _____.

A Gellérthegyre nem _____ villamossal felmenni.

Az autóbuszon jeggyel vagy bérlettel _____ utazni.

A metrón _____ dohányozni.

Az egyetemen sokat _____ tanulni.

A piros lámpánál meg _____ állni.

A Balaton-parton jól _____ pihenni.

Az éttremben vacsora után fizetni _____.

Budapesten _____ a Dunában úszni.

A pörköltet paprikával _____ készíteni.

A gyógyszerárban nem _____ bort venni.

Ha kevés ember van a boltban, a pénztárnál nem _____ sokat várni.

Az olvasóteremben _____ beszélgetni.

- (3) 空欄に, **akar** 「～したい」, **tud** 「～できる」, **szeret** 「～が好きである」を適する人称と数に活用させていれなさい。

Kati minden szombaton diszkóba megy: nagyon _____ táncolni.

Nagyon fáj a szemem: nem _____ olvasni.

Ma nem megyek el a könyvtárba: nem _____ olvasni.

Most nincs rendelés: ezért nem _____ elmenni az orvoshoz.

A gyerekek bemennek a fürdőszobába: kezet _____ mosni.

- (4) かつこの中の語を使って文を完成させなさい。

Ki _____ a gulyás levest? (megfőz)

Holnap kell _____ ezt a csomagot. (elküld)

Péter nem tegnap, hanem ma _____. (elutazik)

Ki akarja _____ az ilyen unalmas regényt? (elolvas)

Kinek kell _____ a szendvicset? (elkészít)

A vonatunk este hatkor _____ Budapestre. (megérkezik)

Mindenképpen _____ akarok _____ magyarul. (megtanul)

_____ kell _____ a sonkát, megromlik a melegben. (megeszik)

Holnap _____ tudok _____ a bankba. (elmegy)

第 12 課 昨夜は何をしてた？ (Mit csináltál tegnap este?)

会話

- Tegnap nagyon sokat tanultam magyarul. És te?
- Moziban voltam a barátnőmmel.
- Melyik moziban voltatok?
- Az Örökmozgóban. Egy új japán filmet láttunk.
- Tetszett?
- Igen, nagyon jó volt.

- Hol nyaraltatok az idén?
- Horvátországban voltunk a tengerparton.
- Jól éreztétek magatokat?
- Igen. Szerencsénk volt. Végig jó idő volt. Sütött a nap, sokat úsztunk, napoztunk és olvastunk a tengerparton.

- Nem találtak a buszban egy táskát?
- Hányas buszon vesztette el?
- A hetvenötösön.
- Mikor?
- Kedd délelőtt.
- Egy pillanat, mindjárt megnézem... Milyen színű volt a táskája?

- Barna.

- Mi volt benne?

- Egy kék golyóstoll, egy ceruza és a nyelvkönyvem volt benne....

単語リスト

barátnő	女ともだち
benne	その中に
ceruza	鉛筆
délelőtt	午前
elveszít	無くす
érez	感じる
film	映画
golyóstoll	ボールペン
hetvenötös	75番 (トロリーバス)
Horvátország	クロアチア共和国
idén	今年
idő	時間
kedd	火曜日
kék	青い
lát	見る
maga	自身
megnéz	見てみる
melyik	どちらの
mindjárt	すぐに
mozi	映画館
nap	日, 太陽
napozik	日光浴する
nyaral	夏を過ごす
nyelvkönyv	語学書
olvas	読む
Örökmozgó	エレクモズゴー (映画館) ※意味は「永久機関」
pillanat	一瞬
süt	照る, 焼く

szerencse	幸せ
talál	見つける
táska	カバン
tegnap	昨日
tengerpart	海辺
tetszik	(...が) 気に入る
új	新しい
úszik	泳ぎ
vég	終わり
volt	いた, あった

文法解説¹²⁷

1. 直説法過去時制 (kijelentő mód, múlt idő)

動詞過去時制は、動詞語幹に *t* (-ott/-ett/-ött) を付し (=過去形語幹), その後に人稱接尾辞を付ける。

1.1. 不定活用 (alanyi ragozás)

母音系列		後舌母音				前舌母音							
語幹		母音末	子音末			母音末	子音末						
			I.	II.	III.		I.	II.	III.				
円唇・非円唇						非円唇		円唇		非円唇		円唇	
人稱\例		ró 彫る	vár 待つ	mond 言う	hall 聞く	lő 撃つ	ver 打つ	zeng 鳴る	dőf 突き刺す	kell ¹²⁸ 必要である	üt 叩く		
単数	1	-ttam	-tam		-ottam	-ttem	-tem		-ettem	-öttem			
	2	-ttál	-tál		-ottál	-ttél	-tél		-ettél	-öttél			
	3	-tt	-t	-ott		-tt	-t	-ett	-ött		-ett	-ött	
複数	1	-ttünk	-tünk		-ottünk	-ttünk	-tünk		-ettünk	-öttünk			
	2	-ttatok	-tatok		-ottatok	-ttetek	-tetek		-ettetek	-öttetek			
	3	-ttak	-tak		-ottak	-ttek	-tek		-ettek	-öttek			
	古形	-ttanak	-tanak		-ottanak	-ttenek	-tenek		-ettenek	-öttének			

1.2. 定活用 (tárgyas ragozás)

母音系列		後舌母音			前舌母音			
語幹		母音末	子音末		母音末	子音末		
			I.	II.		I.	II.	
円唇・非円唇					非円唇		円唇	
人稱\例		ró 彫る	mond 言う	hall 聞く	lő 撃つ	dőf 突き刺す	fest 塗る	üt 叩く
単数	1	-ttam	-tam	-ottam	-ttem	-tem	-ettem	-öttem
	目的語が 2人稱	-ttalak	-talak	-ottalak	-ttelek	-telek	-ettelek	-öttelek
	2	-ttad	-tad	-ottad	-tted	-ted	-etted	-ötted
3	-tta	-ta	-otta	-tte	-te	-ette	-ötted	
複数	1	-ttuk	-tuk	-ottuk	-ttük	-tük	-ettük	-öttük
	2	-ttátok	-tátok	-ottátok	-ttétek	-tétek	-ettétek	-öttétek
	3	-tták	-ták	-ották	-tték	-ték	-ették	-ötték

¹²⁷ 深谷志寿, 深谷ベルタ 1982 『昭和 57 年度言語研修ハンガリー語テキスト 2ハンガリー語 II』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所. から引用。

¹²⁸ 助動詞的動詞である *kell* は不定詞を主語にとるので, その活用はまず 3 人稱単数以外ない。ここでは前舌母音で子音末, かつ二重子音終わる例として便宜的に取り上げている。

1.3. 過去形語幹のタイプ：T型, TT型, 混合型

※簡単な見分け方：

- 1) 二重子音か *-tt* で終わるものは完全に「TT型」。すべての人称に *-ott/-ett/-ött* が付く。
- 2) 上のものでなく、語末が *-l, r, n, ny, j, -ly* (あと *-ad/-ed*) であれば「T型」。全人称で *t*。
- 3) 残りが混合型。不定活用の3人称単数のみ *-ott/-ett/-ött* が付く (その他の人称および定活用は *t* のみ)。

2. かつてあった“過去”

2.1. 叙述 [歴史的・半] 過去 (elbeszélő [történelmi・fél-] múlt)

母音系列		後舌母音系			前舌母音系		
活用		主体活用		対象活用	主体活用		対象活用
-k 別		非-k 動詞	-k 動詞		非-k 動詞	-k 動詞	
人称\例		lát 見える	látszik ~のように 見える	hall 聞く	néz 見る	tetszik 気に入る	fest 塗る
単 数	1	-ék	-ám		-ék	-ém	
	目的語が 2人称			-álak			-élek
	2	-ál		-ád	-él		-éd
	3	-a	-ék	-á	-e	-ék	-é
複 数	1	-ánk		-ók	-énk		-ók
	2	-átok			-étek		
	3	-ának		-ák	-ének		-ék

- ・叙述過去は現代語の標準口語においては全く用いられず、普通の「過去」で代用する。
- ・実際には *-a~á, -e~é* の部分が叙述過去の接尾辞で、その後の部分が人称語尾である。従って、非-ik 動詞の3人称単数の不定活用 (主体活用) 形の人称語尾は \varnothing である。
- ・意味は、(現在とは切り離された) 過去における継続的な動作を表す。
- ・文学作品において、特に20世紀初頭の作家たち (アディやヨーゼフ・アティツラ、バビッチ、トートなど) が、古風な効果を求めて作品中に使用していた。

„S lélekze Jónás, mivelhogy
そして 息をすう¹²⁹叙述過去3単 ヨーナーシュ というのも

¹²⁹lélezkikは、現代ハンガリー語では、lélegzik「深呼吸する」の古形。lélek「魂」からの動詞派生。

kifulladás¹³⁰

息を切らす過去3単

「と、ヨーナーシュ¹³¹は息を吸いました、というのも息を切らして
いたからです」

(Babits: Jónás könyve II.)

2.2. その他の過去の行末

通常の「過去」とその他の過去¹³²の歴史および収束については以下のとおり。
複合過去も現代標準口語において全く用いられないが、方言においては（トラン
シルヴァニアなど）今でも過去完了(II)などが用いられる。

		19世紀	20世紀
過去進行	ír vala	}	}
叙述過去	íra		
過去	írt		írt
過去完了 I.	írt vala		}
過去完了 II.	írt volt		
過去将前	írni foga	×	×

- ・過去進行 (folyamatos múlt) : 動詞の現在形を人称活用し、その直後に vala を付けた (ír vala)。
- ・過去完了 (befejezett [végzett] múlt) : 動詞の過去形を人称活用し、その直後に vala (I.), ないし volt (II.) を付ける (írt vala / írt volt)。
- ・過去将前 (beálló múlt) : 動詞の不定詞形 (V-ni) と、叙述過去形活用をする fog で表した (írni foga)。

3. 過去形の用法

19世紀までは上例のとおり、lélegzik と表記されていたが、現代ハンガリー語の正書法 (helyesírás) では lélegzik が正しい。

¹³⁰余談ではあるが、ハンガリー語の引用符 (idézőjel) は、このとおり、開始が 「„(U+201E)」 で、終了が 「” (U+201D)」 である。ハンガリーでは引用符は別名「猫の爪 (macskaköröm (macskakörömök))」とも言う (言い得て妙だ)。

さらに余談、書記号 (írásjel) について :

「.(pont (ピリオド))」, 「,(vessző (カンマ))」, 「... (három pont (リーダー))」, 「:(kettőspont (コロンの))」, 「;(pontvessző (セミコロン))」, 「?(kérdőjel (疑問符))」, 「!(felkiáltójel (感嘆符))」, 「-(kötőjel (ハイフン))」, 「-(nagykötő, gondolat- és párbeszédjel (ダッシュ))」, 「() / [] / {} / < > (zárójel (括弧))」, 「' (apoztróf (アポストロフィ))」, 「* (csillagjel (アステリスク))」

¹³¹Jónás 「ヨーナーシュ」は、「ヨナ」のこと。すなわち、例が所収の著作“Jónás könyve”とは『ヨナ書』のこと。旧約聖書の文書の一つ。1938年に出された同著作はバビッチ (Babits Mihály, 1883-1941) の絶筆となった。

¹³²その他の「過去」のうち、叙述過去を除く、過去進行、過去完了、過去将前の形式は「複合過去 (összetett múlt)」である。

- ・単文：過去に起こった行為や出来事を表す。

Most már tíz óra van. Reggel 8-kor
 いますでに 10 時 be. 朝 8時に
indult-am el otthon-ról.
 出発する過去-1単 接頭辞「～から離れて」 うち離格

「いまもう 10 時です。朝 8 時にウチを出ました」

- ・複文：

〈主文が過去で、従属文が現在〉：現在も続いている行為や出来事、あるいは、その時点での将来の出来事を過去の時点で表現。

Anya panaszkod-ott apá-nak, hogy mindig
 母 不満である過去3単 父与格 that いつも
 későn megy-ek haza.
 遅くに 帰宅する-1単 接頭辞「家へ」

「母は、私がいつも遅くに帰宅することを、父に不満をもらして
 いました」

〈主文が現在で、従属文が過去〉：過去の行為や出来事を現在の時点で表現。

Anya panaszkod-ik apá-nak, hogy régen mindig
 母 不満である-3単 父与格 that むかし いつも
 későn ment-em haza.
 遅くに 帰宅する-1単 接頭辞「家へ」

「母は、かつて私がいつも遅くに帰宅していたことを、父に不満を
 もらしています」

〈主文も従属文も過去〉：過去の行為や出来事を過去の時点で表現。

Anya panaszkod-ott apá-nak, hogy mindig
 母 不満である過去3単 父与格 that いつも
 későn ment-em haza.
 遅くに 帰宅する-1単 接頭辞「家へ」

「母は、かつて私がいつも遅くに帰宅していたことを、父に不満を
 もらしていました」

4. 時間表現と過去形

※時に関する副詞：

tegnap 「昨日」 ma 「今日」 holnap 「明日」
 tavaly 「昨年」 azidén 「今年」¹³³ jövőre 「来年」

※「～前」の言い方：時を表す名詞に具格 -val/-vel を付け、elelőtt 「～の前に」

¹³³ebben az évben も同じ「今年」の意味で使用可能。

が続く。動詞は過去形。

Egy év-vel ezelőtt még nem tudt-am
1 年-具格 ~前 まだ 否定 知っている-過去-1単

magyarul.

ハンガリー語を

「1年前はまだ私はハンガリー語が出来なかった」

Két hónappal ezelőtt Budapest-re utazt-unk.
2 月-具格 ~前 ブダペスト-着格旅行する-過去-1複

「2か月前に私たちはブダペストを旅行しました」

Három hét-tel ezelőtt nagy hó es-ett.
3 週-具格 ~前 大きな 雪 降る-過去-3単

「3週前に大きな雪が降りました」

Négy nappal ezelőtt jött-ek vissza Japán-ba.
4 日-具格 ~前 来る-過去-3複 「戻って」 日本-入格

「4日前に彼らは日本へ戻って来ました」

Tíz órá-val ezelőtt még Naritá-ban volt-am.
10 時間-具格 ~前 まだ 成田-内格 be-過去-1単

「10時間前はまだ私は成田空港にいました」

Anna egy perc-cel ezelőtt ment el.
アンナ 1 分-具格 ~前 行く-過去-3単 「~から離れて」

「アンナは1分前に出かけていった」

5. 習慣を表す szokott

「~する習慣である」という意味は、動詞 szokik 「慣れる」の過去形 szokott に不定形 (~ni) でもって表すことが出来る。習慣は今現在のものでも、形式は常に過去形である。

Korán szokt-am felkel-ni
早く 慣れる-過去-1単 起床する-不定詞

「私は早起きです」

*Korán szok-ok felkelni. [←教養がない話用とされる]
早く 慣れる-現在-1単 起床する-不定詞

練習問題

(1) 日本語訳に合うよう、かっこ内の現在形を過去形にして空欄に入
れなさい。

Hmmm... talán túl sok cseresznyét _____ (eszel).

「ふーむ、たぶんさくらんぼを [君は] 食べ過ぎたね」

Igen, _____ (megfázom).

「ええ、 [私は] 風邪をひきました」

_____ (meghal).

「 (彼 (女) は) 死にました」

Ne haragudj, hogy _____ (késem).

「 [私は] 遅れてごめんなさい」

_____ (van) már koncerten?

「 [あなたは (敬称)] コンサートにはもう行ったことはありますか? 」

_____ (vagy) már az Operaházban?

「 [君は] オペラ劇場に行ったことある? 」

Szia! _____ (megjövünk)!

「こんにちは! [私たちは] 来たわよ! 」

Örülök, hogy _____ (eljöttök).

「 [君たちが] 来てくれてうれしいよ」

Hogy _____ (utaztok)?

「道中どうだった? (← [君たちは] どう旅行した?) 」

(2) 「～前に (-val/-vel ezelőtt)」 となるよう、空欄に適する語尾を入れなさい。

Az előadás 5 perc _____ ezelőtt kezdődött.

Két év _____ ezelőtt fejeztem be a középiskolát.

Három hónap _____ ezelőtt láttuk egymást utoljára.

Egy hét _____ ezelőtt kaptam ezt a levelet.

Fél óra _____ ezelőtt ment el a vonatunk.

A vendégek három nap _____ ezelőtt megérkeztek.

Fél év _____ ezelőtt jöttünk haza külföldről.

(3) 現在形の文を過去形にしなさい。

父は息子のことを信じていない
Az apa nem hisz a fiának.

→

君たちは病気の女友達に何を持っていくの？
Mit visztek a beteg barátnőiknek?

→

その家族は朝、何を食べますか？
Mit eszik reggel a család?

→

誰がコーヒーも飲みますか？
Ki iszik kávé is?

→

ハンバーガーと飲み物を買おうか？
Veszünk egy hamburgert és egy italt?

→

私は車を持っています
Nekem van autóm.

→

私は冬用コートを持っていません
Nekem nincs téli kabátom.

→

私たちは郵便局にいます
A postán vagyunk

→

ソルターンは通訳です
Zoltán tolmács.

→

子どもたちは空腹です
A gyerekek éhesek.

→

私たちは荷物を送りたい
Egy csomagot akarunk küldeni.

→

第 13 課 過去のこと (Múlt mesék)

Ellopták az útlevelemet

Tegnap délelőtt kb. kilenc órakor bementem az egyetemre. Először a magyarórára mentem. Azon a magyar múlt idő igeragozását tanultam meg. Nagyon bonyolult és olyan nehezen tudom memorizálni.

Aztán az egyetemről elmentem a Szuper Áruházba. Egy pár cipőt vettem, azután felmentem a műszaki osztályra, és megnéztem az okostelefonokat. Végül vettem még egy tollat a papírosztályon. Amikor a pénztárnál fizettem, a pénzzel együtt az útlevelemet is kivettem a táskámból, és letettem. Egy fiatal nő állt mögöttem. Alacsony volt és sovány. Barna kabát volt rajta, és szemüveges volt. Hirtelen felkapta az útlevelemet, és elszaladt vele. Egy pillanat alatt eltűnt a tömegben.

Az érettségi után

- Szilvia, te mit csináltál az érettségi után?

- Elmentem dolgozni. Egy évig dolgoztam egy orvosi rendelőben, és közben tanultam. A következő évben felvettek az orvos egyetemre. Most negyedéves vagyok.

Önéletrajzról

Tanulmányait a budapesti Közgazdaságtudományi Egyetemen kezdte. 2001-ben Monbusho ösztöndíjat nyert, amivel a Hitotsubashi Egyetemen diplomázott szociológia szakon.

2007-től egy nemzetközi menedzsment tanácsadó cég tanácsadója Tokióban, majd 2010-től Münchenben dolgozott.

2011-től Budapesten egy induló kockázati tőkealapkezelő befektetési igazgatójaként dolgozik, mellette a magyarországi Monbusho Ösztöndíjas Diákok Szervezetének igazgatósági tagja és a Tanuki Cooking School társtulajdonosa, menedzsere.

A magyarok és nyelvrokonai¹³⁴

A világ népeit nagyon sok antropológiai csoportba lehet sorolni. A skandinávok általában magasak, szőkék, kék szeműek. A spanyolok, olaszok, görögök többnyire fekete hajúak stb. De vajon hogyan lehetne jellemezni a magyarokat?

Erre a kérdésre nem könnyű válaszolni. A magyarok között egyaránt vannak szőkék és barnák, kék szeműek és fekete szeműek, alacsonyok és magas termetűek.

Ugyanakkor legközelebbi nyelvrokonaink, a Szibériában élő vogulok és osztjások alacsonyok, fekete hajúak, míg távolabbi rokonaink, az Észak-Európában lakó finnek szőkék, magasak, kék szeműek.

Miért nem egységes antropológiai szempontból a magyarság? Ahhoz, hogy erre a kérdésre válaszolhassunk, vissza kell mennünk néhány ezer évet a történelemben.

A magyarok nem mindig a Kárpát-medencében éltek. Ide csak a IX. század végén, 895-896-ban érkeztek: ez volt a honfoglalás. Őshazájuk az Urál hegység környékén lehetett, onnan vándoroltak sok száz év alatt mai lakóhelyükre. A vándorlás közben a magyarok sok néppel találkoztak: irániakkal, törökökkel, szlávokkal. Nyelvi,

¹³⁴ *Hungarolingua 3: magyar nyelvkönyv haladóknak* より引用.

kulturális és embertani szempontból egyaránt a törökök gyakorolták rájuk a legnagyobb hatást.

A honfoglaló magyarok a Kárpát-medencében sok kis népet találtak. Kapcsolatba kerültek új szomszédjaikkal, a németekkel, a románokkal, valamint a nyugati és déli szlávokkal. De az elmúlt ezer év alatt – háborúban és békében egyaránt – sok más nép is megfordult Európának ezen a részén. Ezeknek a hatásoknak természetesen nemcsak a magyar nyelvben van nyoma, hanem az antropológiai jegyekben is.

Ezért nem beszélhetünk tehát egységes magyar típusról, ugyanis évszázadok alatt az egymás mellett élő népek teljesen összekeveredtek. Szlovák és német, szerb és román, szlovén és magyar, s ki tudja, még hány más nép élt ezen a területen.

単語リスト

alacsony	背の低い
alatt	～の下に, ～の間
áll	立っている
általában	一般に
amivel	それで
antropológia	人類学
azután	その後で (aztán とも)
befektetési	株投資の
béke	平和
bemegy	中へ行く
beszél	話す
bonyorult	難しい
cég	会社, 企業
csoport	グループ, 集団
dél	南
diplomázik	学位を取る
egyaránt	それぞれ, 各々
egymás	互い
egységes	単純な, 簡単な

együtt	一緒に
élni	生きる
ellop	盗む
elmúlt	過ぎ去った, 過去の
elszalad	走り去る
eltűnik	消える
embertan	人類学 (=antropológia)
érettségi	高校卒業試験 (érettségi vizsga)
érkezik	到着する
észak	北
Európa	ヨーロッパ
év	年
évszázad	世紀
fekete	黒い
felkap	取り上げた
felmegy	上へ行く
felvesz	取り上げる
fiatal	若い
finn	フィンランドの, フィンランド語, フィンランド人
görög	ギリシアの, ギリシア語, ギリシア人
gyakorol	練習する
háború	戦争
haj	髪
hanem	...も
hatás	影響 (hatást gyakorol 「影響を与える」)
hegység	山脈
hirtelen	突然
hogyan	どのように
honfoglalás	征服定住
ide	ここへ
igazgató	社長, 上司
igazgatóság	役員, 幹部
igeragozás	動詞活用
indul	出発する
iráni	イランの, イラン人
jellemez	特徴づける, 描く
kabát	コート
kapcsolat	関係

Káppát-medence	カルパチア盆地
kb.	(=körülberül)およそ, 約
kell	～が必要である, ～しなければならない
kérdés	質問, 問い
kezd	始める
ki	誰
kivesz	外に取り出す
kockázat	危険, リスク, 投機
könnyű	簡単な, 軽い
kor	～時に
körmék	周辺
következő	続く, 次の
közben	その間
közel	近い
közgazdaságtudomány	経済学
között	～の間に
kulturális	文化的な
lakik	住んでいる
lakóhely	居住地
letesz	下に置く
magas	背の高い
magyarság	ハンガリー人 (抽象的, 象徴的意味での)
mai	今日の
megfordul	起こった, 発生した
megtanul	覚える, 習得する
megvesz	買ってしまう
mellett	～の隣に, ～に加えて
memorizál	記憶する
menedzser	マネージャー
menedzsment	マネジメント
míg	一方で
mindig	いつも
mögött	～の後ろに
múlt	過ぎ去った, 過去の
műszaki	技術の
negyedéves	4年生の
nehezen	難しく
nemcsak	～だけでなく

német	ドイツの, ドイツ語, ドイツ人
nemzetközi	国際的な
nép	人々
nő	女
nyelv	言語, 舌
nyelvrokon	親戚言語, 姉妹語
nyer	勝ち得る
nyom	しるし, 足跡
nyugat	西
okostelefon	スマートフォン
olasz	イタリアの, イタリア語, イタリア人
önéletrajz	履歴書
óra	時
óshaza	故地
összekeveredik	混ざり合う
osztály	部門
osztják	オスチャーク人 (ハンティ人 (hanti))
ösztöndíj	奨学金
papírosztály	文具部門
pár	ペアの, いくつかの
pénz	お金
pénztár	キャッシャー
rajta	その上に
rendelő	診療所
rész	箇所, 地域
román	ルーマニアの, ルーマニア語, ルーマニア人
serb	セルビアの, セルビア語, セルビア人
skandináv	スカンジナビアの, スカンジナビア人
sorol	列举する
sovány	痩せた
spanyol	スペインの, スペイン語, スペイン人
szak	学科, 専攻
század	世紀
szem	目
szempont	観点
szemüveges	眼鏡のかけた
szervezet	組合, 組織
Szibéria	シベリア

szláv	スラヴの, スラヴ人
szlovén	スロヴェニアの, スロヴェニア語, スロヴェニア人
szociológia	社会学
szőke	金髪の
szomszéd	隣人
találkozik	出会う
tanácsadó	コンサルタント (←助言を与えること)
tanulmány	勉強, 研究
társulajdons	共同経営者
távol	遠くに
teljesen	全体として, 完全に
teremtű	～の体格の
természetesen	当然ながら, もちろん
terület	地域
típus	タイプ, 型
többnyire	おおかれ, だいたい
tőke	切り株, 資本
toll	ペン
tömeg	群衆
török	トルコの, トルコ語, トルコ人
történelem	歴史
tud	知っている, 分かる, 出来る
ugyanakkor	同時に
ugyanis	すなわち
Urál	ウラル
után	～の後
útlevel	パスポート
vajon	～かしら?
valamint	同様に
válaszol	答える
vándorlás	さまようこと
vándorol	さまよう
végül	終わりに
világ	世界
vogul	ヴォグル人 (マンシ人(mansi))

民話

A só

Egyszer volt, hol nem volt, volt egyszer egy öreg király, s annak három szépséges leánya. Az öreg király szerette volna férjhez adni a leányait, mielőtt még meghal, csak azt nem tudta eldönteni, hogy melyiknek adja három országa közül a legszebbiket. Azt gondolta magában, annak adja, amelyik őt a legjobban szereti. Meg is kérdezte őket. A legnagyobbik azt felelte:

– Én úgy szeretem édesapámat, mint a galamb a tiszta búzát.

– Hát te, gyermekem?

– Én úgy szeretem, mint forró nyárban a szellőt.

– Hát te, leányom?

– Úgy szeretem édesapámat, mint az emberek a sót.

– Hogyan?! Mint a sót?! Te háládatlan¹³⁵! Ezért neveltelek?! Ezért szerettelek?!

Takarodj a házamból! Pusztulj a szemem elől!

Hiába magyarázta a leány, hogy így meg úgy szeretik az emberek a sót, könyörgött, esdekelt, de az apja elkergette.

Szegény leány ment, mendegélt bánatosan, addig ment, míg egy rengeteg erdőbe nem ért¹³⁶. Ott aztán rátalált egy nagy-nagy, odvas fára. Ott húzta meg magát. Az erdőben epret szedett, mogyorót, málnát, azon éldegélt.

¹³⁵ = hálátlan 「感謝の念のない, 恩知らずの」 (← hála 「感謝」 + -atlan 「～なしの」)

¹³⁶ addig ment, míg egy rengeteg erdőbe nem ért. 《直訳》「ある森の中へたどり着かないまで, (彼女は) 行きました」 = 「ある大きな森にたどり着きました」

※ addig~, amíg/míg... 「...まで, ~する」例, addig várj, amíg vissza nem jövök 「私が戻らないうちは

Egyszer arra vetődött éppen a szomszéd királyfi. Vadászott. Amint üldözte a vadat, egyszer csak megpillantotta a királykisasszonyt. De az is meglátta őt, s bemenekült az odújába.

Ment a királyfi, rá is akadt az odúra, bekiáltott:

– Ki van ott?

De a királykisasszony nem szólt egy szót sem.

– Ki van ott? Szóljon meg! Szóljon meg, mert lövök!

Erre aztán a királykisasszony ijedtében előbújtt. Olyan szépséges volt, keservesen sírt, a királyfinak úgy megtetszett, hogy menten magához ölelte. Aztán szépen felültette a nyergébe és hazavitte a palotájába.

Nagy lakodalmat csaptak¹³⁷, még a kutyák is húslevest ettek. Aztán boldogan éltek, mint két galamb.

Telt-múlt az idő. Az ifjú király egyszer megkérdezte:

– Miért is kergetett el téged az apád?

– Azért, mert azt mondtam neki, hogy úgy szeretem, mint az emberek a sót.

– Azért?

待ちなさい=わたしが戻ってくるまで待ちなさい」

¹³⁷=lakoma 「祝宴, 宴会」 nagy lakomát csap 「大宴会を催す, 開く」

No, gondolt egy nagyot az ifjú király, s levelet küldött az öreg királynak. Jöjjön el hozzá vendégségbe.

Jött is másnap az öreg király aranyos hintóján. Az ifjú király mindjárt a legszebbik szobájába vezette és asztalhoz ültette. Hozták a levest, de sótlan volt. A húsnak se volt semmi íze. Hiába volt a sok finom falat, a király éhesen maradt. Egy ideig nem szólt, de aztán nem állhatta meg szó nélkül.

– Milyen szakácsod van neked, fiam, hogy mindent só nélkül főz?

– Úgy hallottam, hogy kigyelmed¹³⁸ nem szereti a sót.

– Kitől hallottad?

– A kigyelmed leányától.

De már ott is volt a király leánya. A király örömeiben sírva fakadt. Aztán egymás nyakába borultak. A király a legkisebbik leányának adta a legszebb országát.

Boldogan élnek még ma is, ha meg nem haltak¹³⁹.

単語リスト

ad	与える
amint	～するとすぐに
aranyos	黄金の, かわいい
asztal	机, テーブル
bánatos	悲しんで

¹³⁸=kigyelmed (kegyelem 「慈悲, 寛大」 -ed 「君の (所有)」)

¹³⁹ 昔話 (népmese) の最後の締めめの定番文句。「今日も生きていましょう, 死んでなければ」というもの。他にも, 上述の addig~, amíg... を使って, (addig) Boldogan élnek ma is, (a)míg meg nem haltak. 「彼らが死なないまでは, 今日もまだ幸せに生きている」 (= 「彼らが生きているうちは今日もまだ幸せに生きている」) などもある。

bekiált	叫ぶ
bemenekül	中へ逃げ込む
boldog	幸せな
borul	曇る, 落ちる (nyakába borul 「(～に) 飛びつく」)
búza	小麦
csap	たたく, 打つ
édesapa	親愛なる父
egyszer	一度, かつて, 昔
éhes	空腹な
éldégél	静かに暮らす
eldönt	決定する
elkerget	追い払う
előbújik	抜け出る, はい出す
elől	～の前から
ember	人
eper	いちご
ér	～に着く, 届く
erdő	森
esdekel	《文》許しを請う (=esedezik)
fa	木
fakad	わき出る (sírva fakad 「わっと泣き出す」)
falat	ひとくち, 食べ物
felel	答える
felül	(高い場所にあるところに) 座る, (動物の背に) 座る
féj	夫
finom	きめ細やかな, 美味しい
fiú	少年, 息子
forró	熱い, 暑い
főz	調理する
galamb	鳩
gondol	考える
gyermek	子供 (=gyerek)
ha	もし
hall	聞く, 聞こえる
ház	家
hazavisz	家へ連れて行く
hiába	無駄に (～する)
hintó	馬車

hogy	～ということ (that)
hoz	持ってくる
hús	肉
húsleves	肉のスープ, ブイヨン
ifjú	若い, 若者
így	このように
ijedtében	恐怖で
íz	味
keservesen	激しく, ひどく
király	王
királyfi	王子
királykisasszony	王女
könyörög	懇願する
közül	～の間から, ～のうち
küld	送る
kutya	犬
lakodalom	結婚式
leány	女の子 (=lány)
levél	手紙
lő	撃つ
magyaráz	説明する
málna	野いちご
másnap	次の日
meg	そして
megáll	止まる, 止める
meghal	死ぬ
meghúz	ひっぱりこむ, meghúzza magát 「ひっこむ, 身を隠す」
mégkérdesz	質問する
meglát	見かける, 見てみる
megpillant	目に留まる, 見つける
megszólal	話し出す, (電話が) 鳴る
megtetszik	好ましく思う
mendegél	ぶらつく, 放浪する
menten	ただちに, すぐ
mielőtt	～する前に
mindjárt	すぐに
mint	～くらい
mogyoró	ヘーゼルナッツ

múlik	過ぎる
népmese	民話
nevel	育てる
no	それで
nyak	首
nyereg	(馬の) 鞍
odú	くぼみ, へこみ
odvas	くぼんだ, へこんだ
ők	彼(女)ら
ölel	抱きしめる, magához ölel 「～を抱きしめる」
olyan	あのような, あんなに
öreg	老人(の)
örömeben	喜びながら
ország	国, くに
palota	宮殿, 城
pusztul	滅びる, 破滅する, 《蔑》 puszulj innen! 「出ていけ！」
ráakad	～に出くわす
rátalál	発見する
rengeteg	膨大な, [名詞で] 巨大な森
se	～もない (=is ne)
sem	～もない (=is nem)
semmi	なにも(～ない)
sír	泣く
só	塩
sótlan	塩なしの (sótalan とも)
szakács	料理人
szed	摘む
szegény	貧しい
szellő	そよ風
szép	美しい, きれいな
szépséges	美しさのある
szó	ことば, 単語
szól	話す, 発する
takarodik	《蔑》 takarodj! 「出ていけ！」
téged	君を
telik	満ちる
tiszta	きれいな
úgy	あのよう

ül	座っている
üldöz	追いかける
vad	野生の, 獲物
vadászik	狩りをする
vendégség	宴会
vetődik	身を投げ出す, ひょっこり現れる
vezet	リードする, 案内する
volna	～のだが (van の仮定形)

第 15 課 まっすぐ行ってください (Menjen egyenesen!)

会話

- Bocsánat, uram! Hol van a közelben egy posta?
- Posta? A legközelebbi a Rákóczi úton van.
- Messze van innen?
- Nincs túl messze. Gyalog körülberül tíz perc.
- És hogy jutok el oda?
- Menjen egyenesen ezen az utcán a második sarokig! Ott forduljon balra, és menjen el a következő zebraírig!
- Menjek át az úton?
- Igen. Menjen át a másik oldalra, és ott meglátja a postát mindjárt jobbra, az presszó mellett.

- Legyen szíves megmondani, hol van a közelben egy könyvtár?
- Kettő is van. Az egyik Károlyi utcában, a másik a Molnár utcában.
- Melyik van közelebb?
- Az második. Most a Március 15. téren vagyunk. A Váci utcán menjen egyenesen, aztán forduljon jobbra az Irányi utcába, menjen tovább, és a Molnár utcánál menjen balra. Akkor a könyvtár ott van a saroktól kb. ötven méterre. A neve az Országos Idegennyelvű Könyvtár, sok idegennyelvű könyv van, sőt nagyon szép könyvtár.

- Elnézést kérek! Hol kaphatok itt a közelben cipőt?

- Van egy cipőbolt a Haris közben.

- Messze van?

- Nincs. Menjen végig a Kossuth Lajos utcán, majd forduljon jobbra a Váci utcába. Menjen tovább a második sarokig, és ott jobbra a Haris közbe. Menjen egyenesen, és a bal oldalon meglátja majd a cipőboltot bal oldalon. Jó minőségű használt bőrcipők vannak ott.

単語リスト

átmegy	渡る, 通り越す
bal	左 (の)
bőrcipő	革靴
cipőbolt	靴屋
eljut	たどり着く
elmegy	出かける, ~へ行く
fordul	向きが変わる, 曲がる, (~へ) 向かう
gyalog	徒歩で
használt	使用した
idegennyelv	外国語
jobb	右 (の) ← jobb [jó 「良い」 の比較級] 「より良い」
könyvtár	図書館
legyen	van, lesz の命令形
majd	やがて, あとで, いつか
március	3月
megmond	話す, 述べる, 告げる
méter	メートル
minőség	品質
perc	分
posta	郵便局
presszó	カフェバー (eszpresszó とも)
sarok	角, コーナー

szíves	心のある, 優しい, 親切な
tér	広場,
zebra	シマウマ, 横断歩道

文法解説

1. 命令法 (felszólító mód)¹⁴⁰

命令法は、動詞語幹に *-j* を付し (=命令法語幹¹⁴¹)、その後には人称接尾辞を付ける。

1.1. その活用

以下、その活用表。他動詞は対格目的語の不定・定により、不定活用もしくは定活用となることは直説法 (*kijelentő mód*)と同様。ただし、命令法は現在時制のみで過去時制は存在しない¹⁴²。

母音系列		後舌母音			前舌母音					
活用		主体活用		対象活用	主体活用				対象活用	
<i>-ik</i> 別		非 <i>-ik</i> 動詞	<i>-ik</i> 動詞		非 <i>-ik</i> 動詞		<i>-ik</i> 動詞			
円唇・非円唇別					非円唇	円唇	非円唇	円唇		
人称\例		<i>sétál</i> 散歩する	<i>iszik</i> 飲む	<i>mond</i> 言う	<i>ver</i> 叩く	<i>ül</i> 座る	<i>eszik</i> 食べる	<i>ügyködik</i> 忙しくする		<i>kér</i> お願いする
単数	1	<i>-jak</i>	<i>-jam</i>		<i>-jek</i>		<i>-jem</i>		(<i>-jek</i>)	<i>-jem</i>
	目的語が 二人称			<i>-jalak</i>					<i>-jelek</i>	
	2	<i>-j</i>	<i>-jál</i>	<i>-(ja)d</i>	<i>-j(é)</i>		<i>-jél</i>		<i>-(je)d</i>	
3	<i>-jon</i>	<i>-jék</i>	<i>-ja</i>	<i>-jen</i>	<i>-jön</i>	(<i>-jen</i>)	<i>-jék</i>	(<i>-jön</i>)	<i>-je</i>	
複数	1	<i>-jünk</i>		<i>-juk</i>	<i>-jünk</i>				<i>-jük</i>	
	2	<i>-játok</i>		<i>-játok</i>	<i>-jétek</i>				<i>-jétek</i>	
	3	<i>-janak</i>		<i>-ják</i>	<i>-jenek</i>				<i>-jék</i>	

1.2. 特別な語幹と活用

命令法とはいっても「…しろ！」といういわゆる「命令」だけではなく、「…してください！」といった「お願い」も表すので注意を要する。命令法限定接尾辞 *-j* は動詞の直後、他の限定接尾辞 (*jel*)の直前につく。命令は二人称単数に対しておこなうのが最も一般的なので二人称単数主体活用が無標になって人称語尾が付かない。(例：*menj!*「行け！」, *olvass!*「読め！」, *figyelj!*「注意しろ！」)

ただし *-ik* 動詞の場合には二人称単数の *-ál/-él* が付く。(例：*egyél!*「食べろ！」, *igyál!*「飲め！」)。 *-ik* 動詞でないものに *-ál/-él* をつけると少々親しみのある表現になる。(例：*menjél!*「行きなさいよ！」, *adjál!*「おくれよ！」, 「ちょうだい！」)

¹⁴⁰ 深谷志寿, 深谷ベルタ 1982 『昭和 57 年度言語研修ハンガリー語テキスト 2ハンガリー語 II』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所. から引用。

¹⁴¹ なお, この命令法の語幹は不定活用 2 人称単数形と同一となる。

¹⁴² 現代ハンガリー語においては存在しないが, かつては, 命令法過去時制が存在したという。それは動詞過去形 + *legyen* という複合形式であった (例, *szeret*「好きである」の命令法過去時制の 1 人称単数の活用は *szerettem legyen* となる)。日本語における行動を喚起するような例, 「ほら, 買った, 買った! (←八百屋さんの呼び声)」や「残った, 残った! (←相撲の行司)」のようなものか。

なお、この j は前の動詞の語幹末の子音によっては前の子音に同化、-gy, -s, -sz, -z などの形をとることがある。

例：

[ここで左肩の*は、その語・文の構造がひとつのモデルとして再構されたものであることを示す]

vesz 「取る, 買う」	→	*ve(sz)j	→	végy
hisz 「信じる」	→	*hi(sz)j	→	higgy
teremt 「生む, 作る」	→	*teremj	→	teremts
olvas 「読む」	→	*olvasj	→	olvass
néz 「見る」	→	*nézj	→	nézz
akaszt 「吊り下げる」	→	*akasztj	→	akassz
fest 「塗る」	→	*festj	→	fess

命令形の語幹の発音

以下の子音で終わるような語幹に命令法のマーカーである j が付くと、このように音変化が起きるので注意。

-d/-gy	+	j	→	[ʃ:]	adj-[ny:] 「与える」
-n/-ny	+	j	→	[ɲ:]	pihenj-[pihɛɲ:] 「休む」
-l/-ll	+	j	→	[j:]	tanulj-[tonulj:] 「勉強する」

1.3. 実際の用法

「命令」であるから、基本は 2 人称あて (=2 人称が主語) に発するものとなる。活用表にあるとおり、ハンガリー語の「命令」は全人称で存在する。1 人称は「～しますか? ～しましょう!」といった提案・喚起を促す。3 人称は敬称 2 人称として使われる場合は 2 人称への丁寧な命令を、純粋に 3 人称 (彼 (女), 彼ら) が主語の場合は「～すべき」といった意味になる。

Tanul-j magyarul! 【2 人称の命令=狭い意味での「命令」】

勉強する-命令法2 単不定活用 ハンガリー語を

「(君,) ハンガリー語を勉強しろよ!」

a. Men-j-ek át az út-on? 【1 人称単数の命令=提案】

行く-命令法-1 単 「越えて」 定冠詞 道-上格

「私はその道を渡るんでしょうか?」

b. Men-j-ünk tovább! 【1 人称複数の命令=喚起】

行く-命令法-1 複 さらに

「(私たちは) さらに行きましょう!」

a. Száll-j-on fel a busz-ra!

【3 人称の命令=敬称 2 人称としての「命令」】

乗る-命令法3 単 接頭辞「上へ」 定冠詞 バス-昇格

「(あなた,) そのバスにお乗りください!」

b. Ő is tanul-j-a meg a feladat-ot!

【3 人称の命令=「～すべき」】

彼 (女) も 勉強する-命令法3 単 接頭辞 [完了] 定冠詞 課題-対格

「彼 (女) もその課題を勉強するべきだ!」

2. suksük, szukszük, csukcsük : ハイパーコレクション (過剰修正)

上で見たとおり、命令法の活用において、語末が *-s, -sz, -z* のものは、*-ss, -ssz, -zz* に変化する。この形が、直説法現在定活用の語幹と同じになることがある。

a. Olvas-suk a könyv-et. 【直説法現在定活用】

読む-1 複定活用 定冠詞 本対格
「私たちはその本を読む」

b. Olvas-suk a könyv-et! 【命令法定活用】

読む-命令法-1 複 定冠詞 本対格
「(私たち) その本を読みましょう！」

表記上は文末に「！」の有無で直説法か命令法かを区別できるが、実際の発話では *olvassuk* と同形・同音となる (よって文脈やイントネーションで判断する)。こうした一部の動詞における形式の上での一致現象から、特に *t* で終わる動詞において、その直説法現在定活用と命令法定活用で形式が異なるにもかかわらず、直説法現在定活用の形式でいうところ、“誤って” 命令法定活用の形式で発話してしまうことがある。命令法の形式がより複雑であるという先入観から、直説法現在定活用においてもそうした複雑な処理を必要以上に行ってしまうというこの現象は、ハンガリー語における「ハイパーコレクション (Hypercorrection, 過剰修正)」の一例と言える。

2.1. suksük の例

語末が *t* で終わる動詞に発生する現象である¹⁴³。以下は *szeret* 「好きである」の例であるが、その直説法現在 1 人称複数定活用が *szeretjük* となるどころ、*szerezzük* と命令法 1 人称複数定活用の形式を誤って用いてしまう。

a. Nem szeres-sük, ha irányít-anak. 【誤り】

否定 好きである(1 複定活用) もし 管理する-3 複不定活用

b. Nem szeret-jük, ha irányít-anak. 【正しい】

否定 好きである-直説法現在 1 複定活用もし 管理する-3 複不定活用

「(私たちを) 彼らが管理するようなことがあれば (それを) 私たちは好まない」

2.2. szukszük の例

suksük のケースと発生理由は同様で、こちらは語末が *-sz* で終わる動詞に起こるもの¹⁴⁴。

a. Fel-ragasszuk a plakát-ok-at. 【誤り】

¹⁴³ *látjuk* 「私たちは (それを) 見る」 -*lássuk!* 「見ましょう!」、*festjük* 「私たちは (それを) 塗る」 -*fessük!* 「塗りましょう!」、*hallgatjuk* 「私たちは (それを) 聞く」 -*hallgassuk!* 「聞きましょう (= 静かに) !」、*mutatjuk* 「私たちは (それを) 示す」 -*mutassuk!* 「示しましょう!」など。

¹⁴⁴ 同様の例として、*olvasszuk* 「私たちは (それを) 溶かす」 -*olvassuk!* 「溶かしましょう!」、*eresztjük* 「私たちは (それを) 放す」 -*eresszük!* 「放しましょう!」、*választjuk* 「私たちは (それを) 選ぶ」 -*válassuk!* 「選びましょう!」、*halasztjuk* 「私たちは (それを) 延期する」 -*halasszuk!* 「延期しましょう!」など。

- 接頭辞「上へ」貼る (1 複定活用) 定冠詞 ポスター-複対格
 b. Fel-ragaszt-juk a plakát-ok-at 【正しい】
 接頭辞「上へ」貼る直説法現在1 複定活用 定冠詞 ポスター-複対格
 「私たちはそのポスターを貼る」

2.3. csukcsük の例

語末が -it や子音+t で終わるような動詞に起こるもの¹⁴⁵。命令法の語幹が -ts [cs] となるため、この名称がある。

- a. Kaláká-ban építsük a ház-at 【誤り】
 共同作業内格建てる (1 複定活用) 定冠詞 家-対格
 b. Kaláká-ban épít-jük a ház-at 【正しい】
 共同作業内格建てる直説法現在1 複定活用 定冠詞 家-対格
 「私たちは共同作業でその家を建てる」

なお、発音は、命令法の形式 építsük は [épicsük] であり、直説法の形式は építjük [épityük] となるので、cs (=命令法) と ty (=直説法) のように異なることに注意。

練習問題

(1) 人称のとおり、命令形不定活用の語尾を書きなさい。

én: beszél____, tanul____, ül____, küld____

te: jár____, ad____, sétál____, marad____

ön: szalad____, kér____, örül____, ad____

mi: indul____, énekel____, áll____, füröd____

ti: csinál____, foglal____, él____, táncol____

önök: tárgyal____, telefonál____, ebédel____, ismer____

¹⁴⁵ 同様の例として, tanítjuk 「私たちは (それを) 教える」-tanítsuk! 「教えましょう!」, kiáltjuk 「私たちは (それを) 叫ぶ」-kiáltsuk! 「叫びましょう!」, rontjuk 「私たちは (それを) だめにする」-rontsuk! 「だめにしよう!」など。

(2) 次の文章を命令形で書き換えなさい。

Jövő hétfégen elmész Sopronba. Vonattal mész. Útközben beszélgetsz a többi utasokkal. Megkínálsz őket finom süteményekkel. (Délután 2-kor érkezel meg.)
Az állomáson megveszed az útikönyvet. Nem vársz a buszra, hanem elsétálsz a belvárosig. Megnézed régi házakat, felmész a híres toronyba. Ott körül nézel.
Aztán pihensz egy kicsit a presszóban. Leülsz és kérsz egy kávét. Fizetsz és megkérdezed a pincértől, hogy kell menni Fertődre.

(3) 下線に適切な命令形の活用語尾を入れなさい。

Ad ___ fel a levelet! (te)

Ne parkol ___ a tilosban! (ön)

Napoz ___ az erkélyen! (ti)

Hív ___ fel a pályaudvart! (mi)

Száll ___ át a hatosra! (önök)

Elkísér ___ titeket? (én)

Fésülköd ___ meg! (te)

Ne fordul ___ jobbra! (te)

Válaszol_____ a kérdésekre! (ön)

Csókol_____ meg a barátnódet!

Ne hagy_____ abba a munkát! (önök)

Mit vásárol_____ nektek? (én)

Ad_____ ide azt a könyvet! (te)

Téged is meghív_____? (én)

Bérel_____ egy kocsit! (mi)

Ne játszd_____ a kutyával! (ti)

Ne dolgoz_____ annyit! (ön)

Búcsúz_____ el a családotól!

Ebédel_____ ma velem! (te)

Ajánl_____ egy jó ételt! (ön)

Ismer_____ meg az országot! (önök)

Keres_____ meg ezt a boltot! (mi)

Kóstol_____ meg a boromat! (önök)

Néz_____ körül a lakásban! (ti)

Kártyáz_____ egy kicsit? (mi)

第 16 課 それを見ましょう！ (Nézzük meg azt!)

会話

- Mit csináljunk ma este?

- Ma este? Nem is tudom... Talán menjünk el színházba.

- Jó ötlet. És mit nézzünk meg?

- Van egy új magyar darab a Vígszínházban. Biztos érdekes.

- Rendben van. Nézzük meg azt!

- Mi bajom, doktor úr?

- Túl magas a vérnyomása.

- És most mit csináljak?

- Írok fel gyógyszert, de az nem elég. Ne dohányozzon és tartson diétát! Ne egyen nehéz ételeket, húst csak keveset! Alkoholt se igyon!

- Akkor mit ehetek?

- Zöldséget, gyümölcsöt...

A Dibó család új lakásba költözött. A bútorokat már bevitték, de még sok mindent kell elhelyezni a szobában.

- Hova tegyük a televíziót?

- Tegyük a kis szekrényre! Akkor a kanapéról és a fotelekből is nézhetjük.

- És hova tegyem a szobrot?
- Tedd a televízió mellé!
- Az nem jó. Túl nagy. Ne tegyem inkább a sarokba?
- Jó. Tedd a szobrot a sarokba, és a növényt a tévé mellé!

単語リスト

alkohol	アルコール
bevisz	中へ持っていく, 連れていく
biztos	確かな
bútor	家具
család	家族
darab	個, ひとかけら, 作品
diéta	ダイエット
dohányzik	喫煙する
elhelyez	配置する
érdekes	興味深い
étel	食べ物
felír	書き留める, (薬を) 処方する
fotel	肘掛け椅子
kanapé	ソファ
kevés	少ない
költözik	引っ越す
lakás	住まい, 住居
mellé	～の隣へ
nehéz	重い, 難しい
néz	見る
növény	植物
ötlet	考え, アイデア
színház	劇場
szobor	彫像
talán	たぶん
televízió	テレビ (=tévé)
tesz	する, 置く

vérnyomás

víg

zöldség

血压

陽気な, vígjáték 「喜劇」

野菜

文法解説¹⁴⁶

1. 命令法以外で命令する方法

命令法 (V-j) に頼らずとも、既に学んでいる文法事項で“命令”は可能である。

1.1. 直説法の2,3人称による強い命令

通常の文との区別はイントネーションによる。書記上では以下のとおり、命令であることを示すため、文末に感嘆符「!」を置く。

Idejössz! 「(君,) ここへ来る！」

Nem mész oda! 「(君,) そこへ行かない！」

Nem hallgattok! 「(君たち,) 黙らない! (← (黙って) 聞く)」

1.2. 動詞の不定詞による非常に強い命令, 禁止

Aludni, ha mondom! 「私が (そう) 言ったら, 眠ること！」

Nem szórakozni, hanem dolgozni! 「楽しむのではなく, 働くこと！」

1.3. 名詞相当句による命令, 注意

Indulás! 「出発！」 (← indul 「出発する」)

Csend! 「静かに！」 (← Csendet kérek! 「静粛にお願いします!」)

1.4. 丁寧なお願い (敬語用法)

tessék+不定詞 (V-ni) を使う。ちなみに, tessék は動詞 tetszik 「～が気に入る」の命令法不定活用 3人称単数形 (-jék (-ik 動詞用), もしくは同形の定活用 3人称複数形) である。

Tessék ideadni azt a könyvet! 「どうぞその本をこちらに下さい！」

Ide tessék ülni, Mária néni! 「どうぞお座りください, マーリアおばさん！」

Ne tessék kiabálni! 「大声を出さないようお願いします！」

Nekem ne tessék bort tölteni! 「私にはワインを注がないようお願いします！」

2. 特別な語幹と不規則な活用¹⁴⁷

2.1. 不規則動詞類

-sz ~ -v 語幹の動詞は語尾頭の j が gy になる。このとき命令の接尾辞 j(=gy)の後の人称語尾が φ の場合, 語幹中の母音が長母音化する。

例,	lesz 「なる (van)」	légy ~ legyél, legyen, …
	tesz 「置く」	tégy ~ tegyél, tegyen, …
	vesz 「取る」	végy ~ vegyél, vegyen, …
	visz 「持って行く」	vígy ~ vigyél, vigyen, …
	eszik 「食べる」	egyél, egyen (egyék), …
	iszik 「飲む」	igyál, igyon (igyék), …
ただし,	hisz 「信じる」	higgyek, higgy ~ higgy ~ higgyél, higgyen, higgyünk, higgyetek, higgyenek

¹⁴⁶ 岩崎悦子, 浅津ケステューシュ・エルジェーベト 1997 『ハンガリー語Ⅱ』, 大学書林。より引用。

¹⁴⁷ 深谷志寿, 深谷ベルタ 1982 『昭和 57 年度言語研修ハンガリー語テキスト 2ハンガリー語Ⅱ』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所。より引用。

2.2. jが直前の子音に同化：-s, -sz, -z, -dz, -tsz

ただし、-tsz [c]の後ではszになり、-tsz-sz → -tssz と書く。以下、変化後は不定活用2人称単数形。

例,	olvas 「読む」	→	olvass
	magyaráz 「説明する」	→	magyarázz
	edz 「鍛える」	→	eddz
	játszik 「遊ぶ」	→	játsszál

2.3. 語末のtとjが-ssに変化

短母音+t で終わっている語幹及び bocsát 「許す」、lát 「見る、見える」は語幹末がsに変化し、語尾頭のjもsに同化する。

例,	fut 「駆ける」	→	fuss
	lát 「見る」	→	láss

2.4. 長母音または子音+tが-tsに変化

長母音+t (主に-it) や子音+t (二重子音) の場合¹⁴⁸ (上の bocsát および lát は除く)、語尾頭のjがsに変化する。

例,	olt 「消す」	→	olts
	épít 「建てる」	→	építs

2.5. -szt と-st

-szt で終わっている語幹は語幹末のtが脱落し、語尾頭のjがszに同化する。-st で終わるものも語幹末のtが脱落し、語尾頭のjがsに同化する。

例,	oszt 「分ける」	→	ossz
	fest 「塗る」	→	fess

2.6. その他

tetszik 「(~が) 気に入る」、látszik 「(~が…のように) みえる」、metesz 「切る」においては語幹末の-tsz がsに変化し、語尾頭のjがsに同化するが、現代口語においては語幹が-tsz のままで、語尾頭がszに変化する形が広まりつつある。

例,	tetszik	tessél	~	〔口〕 tetsszél
	látszik	lássál	~	〔口〕 látsszál
	metesz	mess	~	〔口〕 metssz

2.7. 古語および方言

古語及び方言においては2人称単数の語尾として、不定活用 -(j)sza/-(j)sze, 定活用 -dsza/-dsze などが現れることがある。

例,	jersze	= gyere	= jöjj
	addsza	= add	
	hozdsza	= hozd	
	mond(d)sza	= mondd	
	vár(j)sza	= várj	
	jöjjönsze	= jöjj	= gyere

¹⁴⁸ 過去形の際に学んだ、-TT型に属する動詞の条件もこれであったことを思い出すとよいだろう。

Én se menjek, te se menj! 「私も行かないし、君も行くな！」
Senki se ússzon mély vízben!
「誰も深い水のなかで泳がないでください！」

3.6.2 人称単数の長形と短形について

現代ハンガリー語において、その多くの一般的な文法書では、「長い形は願望、穏やかな命令、短い形は断固とした命令を表す」とある。

- a. Aludjál, kisfiám! 「寝てちょうだい、私の坊や！」
b. Aludj már, te rossz gyerek! 「もう寝なさい、この悪い子ね！」

ただし、これまでも述べたとおり、長形 (-jál/-jél)は -ik 動詞専用の語尾である。よって、上の例でも、本来の文法でいえば、(17a)の *aludjál* が正しいことになる。しかし、現代ハンガリー語においては -ik 動詞と非 -ik 動詞の垣根が低くなりつつあり、こうした -ik 動詞特有の活用という概念は無くなりつつある（同命令法における3人称単数不定活用の -jék もその一つと言える）。

3.7.1 人称の命令用法

自問、疑い、不確かさを表す。

Mit vegyek anya születésnapjára? 「母の誕生日に何を買えば良いのだろうか？」

Megvegyem, ne vegyem? 「買うべきか、買わざるべきか？」

Megvárjalak? 「私は君を待つわけ？」

Bemutassalak a barátomnak? 「友人に君のことを紹介するの？」

4. 接続法：導入¹⁴⁹

remél 「祈る、期待する」、*hisz* 「信じる」、*gondol* 「思う」等の場合には従属節の *hogy* 節内動詞は直説法をとるが、*kér* 「お願いする」、*akar* 「欲する」、*szeret* (ne) 「～したいのです(が)」、*kíván* 「望む」、*óhajt* 「希求する」等の目的節を導くときには命令法を取らなければならないという規則がある¹⁵⁰。以下の対比例の違いを考えてみよう。

例： (Azt) remélem, hogy holnap szép idő lesz.
明日は良い天気になると期待しています。
(Azt) kívánom, hogy holnap szép idő legyen.
明日、良い天気になるように望んでいます。

日本語訳の下線のことばの違いが表すとおり、命令法を取るほう (*kíván* 「望む」を使用) は、「～するように」と将来起こりうるべき出来事を願うという態度である。それに対して、直説法の文 (*remél* 「期待する」) にはそこまでの出来事実現に向けての力は感じられない。あくまで客観的に事実を述べるまでである。

(Azt) kívánom nektek, hogy legyetek boldogok!

[× hogy boldogok vagytok/lesztek]

「君たちが幸せになるように、君たちに望みます！」

¹⁴⁹ 深谷志寿、深谷ベルタ 1982 『昭和 57 年度言語研修ハンガリー語テキスト 2 ハンガリー語 II』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所から引用。

¹⁵⁰ なお、*mond* 「言う」、*állít* 「述べる、主張する」などの *hogy* 節は全ての法 (*igemód*) を取りうる。

この例において、その従属節を直説法で *hogy boldogok vagytok/lesztek* 「(君たち)は幸せである／になる」と直説法で言うとする、幸せである／になるという事実があるのに対し¹⁵¹、それを *kíván* 「望む」のはいささか余剰に、そして可笑しく感じられるものとなる。以下の例ではそれがより感じられることであろう。

Kérem, (hogy) nyissa ki az ajtót!

[× *hogy* kinyitod az ajtót]

「ドアを開けるようお願いします！」

こちらを直説法で *hogy kinyitod az ajtót* 「君はそのドアを開けてしまう」と言えないことは誰が見ても明らかであろう（「開けてしまうことは確定事項であるのだから、それをお願いする必要はない」）。

練習問題

(1) 空欄に適切な命令形の活用語尾を入れなさい。

én: Mit _____? (eszik)

Hova _____ (tesz) a ruháimat?

Kinyit _____ az ajtót?

Beköt _____ a kezedet?

Segít _____ nektek?

Készít _____ reggelit?

te: Hallgat _____ meg minket!

Ne _____ (iszik) bort!

_____ (bevesz) a gyógyszert!

Tanít _____ meg teniszezni!

Süt _____ meg a húst!

Ért _____ meg őt!

ön: _____ (bevesz) a gyógyszert!

_____ (elvisz) a kutyáját!

Nyit _____ ki az ablakot!

Köt _____ be a sebet!

Ne felejt _____ el a címet!

Takarít _____ ki a kórtermet!

mi: _____ (megvesz) ezt a lemezt?

_____ (elhisz) ezt?

Látogat _____ meg a barátunkat!

Beszélget _____!

¹⁵¹ 直説法とは事実をありのままに語る法なので、未来においてもそういうニュアンスが保持される。

Hallgat_____ zenét?	Segít_____ nekik!
ti: _____ süteményt (eszik)!	_____ (megiszik) a sört!
Köt_____ meg a kutyát!	Mutat_____ meg a lakást!
Ne gyújt_____ rá!	Választ_____!
önök: _____ (elhisz) ezt!	Ne _____ (iszik) sokat!
_____ (vesz) pogácsát!	Fordít_____ le a mondatokat!
Ne nevet_____!	Fizet_____ ki a számlát!

(2) (グヤーシュの作り方) 動詞を命令形にしてください。

hozzávalók / 6 adag 「材料 / 6 人分」

60 dkg marhalábszár / 30 dkg vöröshagyma / 2 nagy db sárgarépa / 1 nagy db fehérrépa / 1 kis db zeller / 40 dkg burgonya (tisztított) / 1 ek fűszerpaprika (csapott, édesnemes) / 0.5 ek csípős fűszerpaprika / 1 ek só (csapott) / 1 teáskanál őrölt fűszerkömény / 2 db babérlevél / 1 teáskanál fekete bors (frissen őrölt) / 1 kis db paradicsom / 1 db tv paprika / 3 gerezd fokhagyma (magyar) / 2 ek sertészsír (mangalica) / 0.5 csokor petrezselyem / 5 db zellerlevél / 2.5 l víz

A csipetkéhez 「ニョッキ用」

1 db tojás / 80 g finomliszt / 1 teáskanál só

elkészítés 「作り方」

1. A hagymákat kis kockára vágjuk. A húst leöblítjük, szárazra töröljük, majd 2 cm-es kockára daraboljuk.

2. A zsírt felhevít____, megfonnyaszt____ benne a hagymát, majd félrehúz____, a fűszerpaprikákkal összekever____, felönt____ 1,5 dl vízzel, majd a vizet elfőzve, zsíjára pirít____.
3. Ekkor hozzáad____ a marhahúst, és kevergetve fehéredésig pirít____. Sóz____, borsoz____, köménnyel megszór____, hozzáad____ az áttört fokhagymát, a kis kockára vágott paradicsomot, a kicsumázott egész paprikát, babérlevelet.
4. Fedővel lefedve saját levében 90 percet főz____. Elkészít____ a csipetkét.
5. Ezután kerülnek bele a zöldségek: a karikára vágott sárga- és fehérrépa, a kockára vágott zeller, burgonya, az aprított petrezselyem és zellerzöld, felönt____ 21-2.5l vízzel.
6. Letakarva további 50 percet főz____ Beletesz____ a csipetkét, és 10 perc alatt készre főz____.

第 17 課 ハンガリーのクリスマス (Karácsony Magyarországon)

会話

- Szia, Szilvi! Képzeld, megvettem a karácsonyfát. Legalább két és fél méter, és gyönyörű.
- Jaj de jó! A fiam azt kérte, hogy az idén hatalmas karácsonyfát hozzon neki a Jézuska.
- Szerinted mi legyen az ünnepi vacsora?
- Az idén is ünnepi kocsonya... Azt előre el lehet készíteni, de kicsit unalmas nekem...
- Akkor süssünk pulykát, jó? Az melegen és hidegen is finom.
- Aha! Na jó, vállalom a pulykát. És a bejgli?
- Azt anyám süti. Nekem marad a töltött káposzta...
- Minden rendben van, fiam? Akkor bemegyünk a nappaliba! És meggyújtom a gyertyákat, és csengetek!
- Ó, de gyönyörű! Jaj de szép! És mennyi ajándék!
- Kellemes karácsonyt! Énekeljünk, fiam! „Mennyből az angyal, lejött hozzátok, pásztorok, pásztorok, hogy Betlehembe sietve menvén lássátok, lássátok.”

Mikulás és karácsony Magyarországon

Magyarországon a Mikulás december 6-án (hatodikán) jön, és a jó gyerekeknek hoz ajándékot. Az ajándék általában csokoládé, mogyoró és más apró édesség, amit piros

zacskóban hoz a Mikulás, ez a mikuláscsomag. A rossz gyerekek nem kapnak a Mikulástól csokoládét, csak virgácsot.

A karácsony az egyik legnagyobb családi ünnep, a szeretet ünnepe. Decemberben mindenki a karácsonyra készül: ajándékokat vásárol, és süteményeket süt.

Magyarországon már december 24-e (huszonnegyedik) is ünnep, ez a szenteste.

Délután a család feldíszíti a karácsonyfát: szép díszeket és finom szaloncukrokat tesznek a fára. Este együtt van a család, és finom vacsorát főznek: halászlévet, töltött káposztát, diós és mákos bejglit. Vacsora után ajándékokat adnak egymásnak, és karácsonyi dalokat énekelnek a karácsonyfa mellett, és utána elmennek a templomba, az éjféli misére. Karácsony első és második napján általában mindenki meglátogatja a családját és a rokonait.

単語リスト

ajándék	プレゼント
angyal	天使
anya	母
apró	小さい
bejgli	ロールケーキ (クリスマスに作る)
csenget	(ベルを) 鳴らす
csokoládé	チョコレート
csomag	荷物
dal	歌
december	12月
délután	午後
dió	くるみ
dísz	飾り
édesség	甘いもの, お菓子
egyik	~のうちの一つ
éjfél	夜半, 深夜

elkészít	準備する, 作り終える
előre	前もって
énekel	歌う
fél	半分 (の)
feldíszít	飾りあげる
gyertya	ろうそく
gyönyörű	素晴らしい
halászlé	漁師汁
hatalmas	巨大な
hideg	冷たい, 寒い
Jézuska	子イエス
káposzta	キャベツ
karácsony	クリスマス
karácsonyfá	クリスマスツリー
képzelt	想像する
készül	準備する
kicsit	ちょっと
kocsonya	(肉, 魚の)ゼリー寄せ
legalább	少なくとも (一番低くて)
lejön	降りて来る
mák	芥子の実
meggyújt	火をつける
meglátogat	訪問する
meleg	温かい, 熱い
menny	天国
Mikulás	サンタクロース
mindenki	みんな
mise	ミサ
nappali	居間
pásztor	羊飼
piros	赤い
pulyka	七面鳥
rossz	悪い
siet	急ぐ
sütemény	ケーキ, 焼菓子
szaloncukor	サロンツコル (クリスマス・フォンダン)
szenteste	聖夜
szeretet	愛

szertint	～によると
templom	教会
töltött	詰めた
unalmas	退屈な, 飽き飽きする
ünnep	祝日
vacsora	夕食
vállal	引き受ける
virgács	(ムチとして使う) 木の枝
zacskó	袋

第 18 課 ケーセグ城を見るために (Azért, hogy megnézzük a kőszegi várat)

会話

- Hallom, Gergely, te idegenvezető vagy. Tanácsot szeretnék kérni tőled.
- Parancsolj, kérlek! Miről van szó?
- Júliusban a barátnőm idejön hozzám, hogy egy kicsit megismerkedjen Magyarországgal. Kiveszek két hét szabadságot, és elmegyünk egy szép vidéki túrára. Mit ajánlasz, hova menjünk?
- Lássuk csak! Annyi szép hely van Magyarországon, hogy nehéz a választás. Szép az északi hegyvidék, az Alföld érdekes és különleges... Mégis azt tanácsolom, hogy a Dunántúlra menjetek, végig a Balaton északi partján, azután Zalába és az Őrségbe. Ott csodálatos a táj gyönyörű kis falvak, templomok, műemlékek vannak. És persze a jáki templomot sem hagyhatjátok ki... Kőszeg is nagyon jó. Biztos tetszik nektek, mert mindenki mondja, hogy Magyarországon a legszebb város.
- Hol fekszik Kőszeg?
- Az osztrák határ közelében, kb. 200 km-re Budapesttől.
- Milyen látnivalók vannak ott?
- Elsősorban a híres kőszegi vár és a belváros szép műemlék házai.
- Jó, azért megyünk oda, hogy megnézzük a kőszegi várat!

- Szállodai szobát szeretnék.
- Olcsót vagy drágát?
- Az ár nem számít.

- Akkor ajánlhatom a Hotel Írottköt. Három csillagos szálloda a Fő téren. Kitűnő az étterme, van éjszakai bár...

- És be szabad vinnem a kutyámat?

- Igen, asszonyom.

- Akkor azt hiszem, megfelel.

単語リスト

ajánl	お薦めする
Alföld	大平原
annyi	そのくらい (... ,hogy~)
ár	値段, 価格
asszony	婦人
bár	バー
belváros	旧市街
csillagos	星のある
csodálatos	すごい, 奇跡的な
Dunántúl	トランスダヌビア, 西ハンガリー
éjszakai	夜の
elsősorban	とりわけ
étterem	レストラン
falu	村 ([複] falvak)
fekszik	横たわる, 位置する
kihagy	省く, 取り除く
határ	国境, 境界
hegyvidék	高地
hét	週 (7日)
híres	有名な
hisz	信じる, 思う
idegenvezető	ガイド
idejön	ここへ来る
július	7月
kitűnő	優れた
kivesz	取り出す

különleges	特別な
látivaló	見るところ
megfelel	応える, 適する
mégis	それでも
megismerkedik	知ようになる
műemlék	記念物
odamegy	そこへ行く
oszták	オーストリアの, オーストリア人
part	岸边
szabadság	自由, 休み
számít	計算する, 考慮する
táj	地方, [時間] ~頃
tanács	助言
tanácsol	助言する
túra	ツアー旅行
választás	選ぶこと, 選挙
vár	城
vidéki	田舎の

文法解説

1. 不規則動詞の変化 (続)

1.1. megy 「行く」

命令形語幹: menj- (← 不定詞 men-ni より men-を取り出し, 命令形の-jをつける。
men+-j)

menjek	/	menj(él) /	menjen
menjünk	/	menjetek /	menjenek

1.2. jön 「来る」

命令形語幹: jöjj-

jöjjek	/	jöjj(él) gyere	/	jöjjön
jöjünk gyerünk (=menjünk)	/	jöjjetek gyertek	/	jöjjenek

2. Hadd+命令形 「~させたまえ」

hadd (=動詞 hagy 「~するのをほっておく, ~のままにする」の命令法 2 人称単数定活用) に命令形をあわせることで, 「(〇〇に) ~させてください」の意味を得ることができる。なお, 主語は「(〇〇に)」であり, それに動詞命令法が一致する。接頭辞付きの動詞の場合, 接頭辞は分離する。

Hadd mondjak valamit!

「ちょっと (私に) 言わせてください」

Hadd mutakozzam be!

「どうぞ (私に) 自己紹介させてください」

Ha menni akar, hadd menjen!

「彼 (女) が行きたいなら, (彼 (女) に) 行かせてやればよい」

3. 間接話法 (一部再掲) ¹⁵²

remél 「希望する」, hisz 「信じる」, gondol 「思う」等の場合には従属節の hogy 節内動詞は直説法をとるが, kér 「お願いする」, akar 「欲する」, szeret(ne) 「~したいのです (が)」, kíván 「望む」, óhajt 「希求する」等の目的節を導くときには命令法を取らなければならないという規則がある¹⁵³。

例: (Azt) remélem, hogy holnap szép idő lesz.
明日は良い天気になると希望します。
(Azt) kívánom, hogy holnap szép idő legyen.
明日, 良い天気になるように望んでいます。

以下の主文動詞である mond 「言う」は従属節内の動詞形式は直説法も, 命令法も, 使用可能である。

¹⁵² 深谷志寿, 深谷ベルタ 1982 『昭和 57 年度言語研修ハンガリー語テキスト 2ハンガリー語 II』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所から引用。

¹⁵³ なお, mond 「言う」, állít 「述べる, 主張する」などの hogy 節は全ての法 (igemód) を取りうる。

- a. A tanár azt mondja, hogy okosak vagyuk. 【直説法】
「先生は私たちが利口だと言う」
- b. A rendőr azt mondja a sofőrnek, hogy álljon meg. 【命令法】
「警察は運転手に止まるよう言う」

(b)とほぼおなじ意味となるのが、以下の、それぞれの例文である。警察は運転手に「止まるよう」、提案・依頼、命令を行っている。

- a. A rendőr azt kéri a sofőrtől,
警察は運転手に (hogy 以下を) お願いする
- b. A rendőr azt parancsolja a sofőrnek, **hogy álljon meg.** 【命令法】
警察は運転手に (hogy 以下を) 命じる (彼が) 止まるよう
- c. A rendőr felszólítja a sofőrt (arra),
警察は (arra → **hogy** 以下と) 運転手を命令する

以下も上とほぼ同じ意味である。

A rendőr azt akarja, hogy a sofőr álljon meg.
「警察は、運転手が止まるよう、欲する」

3.1. 実際の接続法：ナジ・イムレのラジオ放送より

Ma hajnalban a szovjet csapatok támadást indítottak fővárosunk ellen a nyilvánvaló szándékkal, hogy megdöntsék¹⁵⁴ a törvényes magyar demokratikus kormányt.

(1956 november 4., Nagy Imre felhívása a Magyar Rádióban)¹⁵⁵

「今日未明にソヴィエト軍は、法的に則ったハンガリーの民主政府を打倒するという明確な意図をもって我らの首都に対し攻撃を開始した。」

Azért támadást indítottak a szoviet csapatok, hogy megdöntsék a magyar kormányt.

「ソヴィエト軍は、ハンガリー政府を倒すために、攻撃を開始した」

⇒ 【azért…; hogy~ (命令法)】「~ために、…する」

3.2. 接続法の用法

以下では従属節，すなわち，**hogy** 節内の動詞が命令法になる，いわゆる“接続法 (subjunctive)”の例である。これまで上で見てきた間接話法における **hogy** 節内の動詞が接頭辞付き動詞の場合，接頭辞が分離していたことに反し，以下の接続法では接頭辞は動詞の前に付加したままであることに注意。

3.2.1. Cél (目的)

Azért jöttem Magyarországra, hogy megismerjem az unokatestvéreimet.

「私は甥姪と知り合うために、ハンガリーに来ました」

¹⁵⁴ *megdönt* 「倒す，転覆させる，反証する」 / *dönt* 「ひっくり返す，破る，決定する，判断を下す」

¹⁵⁵ 音源は以下「9. 1956 November 4. Nagy Imre rádióbeszéde」:

A Magyar Rádió zrt. hivatalos weblapja – Nagy Imre és miniszter társai beszédei a Magyar Rádióban
http://www.radio.hu/index.php?option=com_content&task=view&id=373&Itemid=131

Az a célom, **hogy jól megtanuljak magyarul.**
「ハンガリー語を良く学ぶため、それが私の目的です」
A közönség arra vár, **hogy elkezdődjön az előadás.**
「聴衆はコンサートが始まるのを待っています」

3.2.2. Szükség (必要性)

Szükséges (az), **hogy újságot olvassunk.**
「私たちは新聞を読む必要があります」
Szükségetek van arra, **hogy meghallgassátok a híreket.**
「君たちはそのニュースを聞く必要がある」
Fontos (az), **hogy ismerjük a közlekedési szabályokat.**
「交通規則を知ることは重要だ」
Az a feladatom, **hogy egy cikket írjak Budapestről.**
「それは、私がブダペストのについて一本レポートを書く課題です」

3.2.3. Lehetőség (可能性)

Lehetőségünk van arra, **hogy megnézzük a gyárat.**
「私たちはその工場を見てまわる (=見てしまう, 調べる) 可能性がある」
Gabinak megengedték a szülei, **hogy elmenjen kirándulni a barátaival.**
「両親はガビに友人たちとハイキングに出かけることを許した」
Az anya hagyja, **hogy a gyerekek játsszanak.**
「母は子どもたちが遊ぶままにさせた (遊ぶのを許した)」
Imre megtiltotta a fiának, **hogy dohányozzon.**
「イムレは息子に喫煙することを禁止した」

3.3. CÉL (目的) と OK (原因・理由) 構文

3.3.1. OK (原因・理由) 構文

主文の行為やできごとの理由を、接続詞 **mert** による従属文で表現する。主文には先行詞 **azért** が付く。

Azért nem vettem meg azt a kabátot, mert drága volt.
「高かったので、私はそのコートを買いませんでした」
Miért eszel? — Azért eszem, mert éhes vagyok.
「なぜ食べるの?」 — 「私は空腹だから、食べます」

3.3.2. CÉL (目的) 構文

以下, (22a)が CÉL (目的) 構文。 **hogy** 節内動詞 **folytat** 「~を続ける」が、命令法 1 人称単数定活用の **flytassam** になっていることに注意 (直説法 1 人称単数定活用は **folytatom**)。対比として, (b)は OK (原因・理由) 構文。

- a. **Azért megyek oda, hogy ott folytassam a tanulmányaimat.**
「私は研究を続けるために、そこへ行く」
b. **Azért megyek oda, mert ott akarom folytatni a tanulmányaimat.**
「私は研究を続けたいので、そこへ行く」

3.3.3. OK と CÉL 構文の使い分け

以下, まず OK (原因・理由) 構文の例。
Azért mentek el a főnökükhöz, mert meg akarták beszélni vele a problémát.

「彼らはその問題を話したかったので、上司のところへ行った」

もし、これを上で見た *cél* (目的) 構文にしたい場合は以下のようなになる。 *hogy* 節内の動詞の接頭辞が分離しない (× *beszéljék meg*) ことに注意 (=接続法)。

Azért mentek el a főnökhöz, hogy megbeszéljék vele a problémát.

「彼らはその問題を話すために、上司のところへいった」

上でも見たように、ほぼ同じ状況を描写していると言える両者の構文だが、違いはその見方、観点である。 *CÉL* 構文ではほぼ同じに見えるが、ここでみたとおりに、 *OK* 構文は過去時制を取るように、当該動作、イベントの出発点、起点 (*Source*) である。一方、 *CÉL* 構文は当該動作、イベントの到達点、目標 (*Target*) である。事実と同じでも、話者の観点の焦点がどちらにあるかにより使い分けが発生するということである。

練習問題

(1) 例のとおりにな文を書き換えなさい。

„Állítsátok fel a karácsonyfát!” Mit mondott nektek a nagypapa?

→ *Azt mondta nekiünk a nagypapa, hogy állítsuk fel a karácsonyfát.*

„Gyere velem moziba!” Mit mondott neked Gábor?

→

„Ezt a készüléket vegyék meg!” Mit ajánlott az eladó Bilikének?

→

„Gyűjtsd meg a gyertyákat!” Mit mondott Éva Péternek?

→

„Ne egyen túl sok húst!” Mit tanácsolt neked az orvos?

→

„Vegyetek egy magyar-angol szótárt!” Mit javasolt nekünk Bandi?

→

„Látogassatok meg karácsonykor!” Mit írt a nagymama az unokáinak?

→

(2) 空欄に適切な活用語尾を入れなさい。

Gábor azért utazott Pécsre, hogy riportot készít_____ egy színésznővel.

Toru felesége azért jön ide, hogy megismerked _____ az országgal.

Éva azért akar tengerparton nyaralni, hogy egész nap napozhat_____.

István azért akar itthon maradni, hogy pihenhet_____ és horgászhat_____.

A fiúk azért utaznak Szlovákiába, hogy síelhet_____.

Zsuzsa azért hívta ki a mentőket, hogy Katit kórházba _____ (visz).

A diákok azért fognak kempingbe menni, hogy olcsóbb _____ a nyaralás.

第 19 課 もしお金持ちなら... (Ha gazdag lennél...)

会話

- Már megint nem találtam semmi jó álláshirdetést az újságban.
- Hát persze, mert nem értesz semmihez. Ha gazdag lennél, akkor nem kellene dolgoznod.
- Igen, tehát nekem kell keresem a munkát. De csak napi öt-hat órás munkaidőben akarok dolgozni. Ha nyolc órás munkát vállalnék, akkor nem tudnék készülni az egyetemre. Jövőre pedig mindenképpen be akarok jutni.
- Akkor menj el takarítani! Takarítót sok helyen keresnek napi négy-hat órára.
- Takarítani? Fogalmam sincs, hogy kell takarítani. Azt sem tudnám, hogy fogjak hozzá.
- Na látod, hogy nem értesz semmihez?

- Jó napot kívánok! Az álláshirdetésre jöttem.
- Tessék parancsolni! Foglaljon helyet! Önéletrajzot hozott?
- Igen, itt van. Parancsoljon!
- Köszönöm... Lássuk csak! Szóval közgazdasági szakközépisikolát végzett. Nagyon jó! A német nyelvtudása milyen?
- Középfokú.
- Hát... Jobb volna, ha felsőfokú lenne. Sok fordítási munkája lesz, és tárgyalásokon is részt kell vennie...
- Én is jobban szeretném, ha felsőfokú lennék. De még elég fiatal vagyok, van időm fejleszteni a nyelvtudásomat.
- Wordhoz, Exelhez ért?

- Igen. Az előző munkahelyemen is sokat dolgoztam szövegszerkesztővel.

- Látom, lottózol. Mit csinálnál, ha nyernél néhány milliót?

- Hogy mit csinálnék? Talán vennék egy jó kocsit, és utaznék. Végigjárom Európát.

単語リスト

akar	欲する
álláshirdetés	求人広告
bejut	入る
előző	前の
fejleszt	伸ばす, 改善する, 発展させる
felsőfokú	上級の
fog	1. 掴む, 2. [未来表現] ~するつもりである
fogalom	考え, 見解
foglal	場所を占める
fordítási	翻訳の
gazdag	裕福な, お金持ちの
jövőre	来年
középfokú	中級の
közgazdasági	経済の
lenne	~なら (lesz の仮定形)
lottózik	くじ引きをする
megint	また
munka	仕事
munkahely	職場
napi	毎日の
nyelvtudás	語学能力
részt vesz	参加する
sincs	~もない (is+nincs)
szakközépiskola	専門学校
szóval	つまり, ところで, ええ

szövegszerkesztő	ワープロ
takarít	掃除する
tárgyalás	会議, 議論
újság	ニュース, 新聞
végez	終える, 卒業する
végigjár	(~を) くまなく歩く, 旅する

文法解説

1. 仮定法 (feltételes mód)について

直説法 (kijelentés mód)でも ha 「もし」や akkor 「その時は」(…, amikor) を用い、ある条件下での出来事を述べることができる。

- a. Akkor ébred-ek fel,
 ~のとき 鳴る3単定冠詞 目覚まし時計
 amikor cseng az ébresztőóra.
 そのとき 起きる-直現1単 上へ
 「目覚まし時計が鳴ると、私は起床します」
- b. Akkor ébred-ek fel,
 そのとき 起きる-直現1単 上へ
 ha cseng az ébresztőóra.
 もし 鳴る3単定冠詞 目覚まし時計
 「もし目覚まし時計が鳴ると、私は起床します」

以下は直説法と仮定法との違いである。仮定法では実際の実現可能性が直説法を使う場合よりも低い。

- a. Akkor vásárol-ok, amikor pénz-em van.
 そのとき 買い物する-直現1単 ~のときお金所1単 be
 「私はお金があるとき、(そのとき) 私は買い物する」【←時期的に現実的】
- b. Ha vol-na pénz-em, vásárol-né-k. 【←現実的ではない】
 もし be仮3単お金所1単 買い物する-仮定-1単
 「もし私はお金をもっているなら、買い物するだろうに」
 (→実際にはお金がないので、買い物をすることができない)

1.1. 仮定法現在 (feltételes mód, jelen idő)の活用¹⁵⁶

仮定法現在は限定接尾辞 -na/-ne/-ná/-né を動詞の語幹 (の派生辞群) の後につける。以下、その活用表。

母音系列		後舌母音系		前舌母音系			
活用		主体活用		対象活用			
-ik 別		非-ik 動詞	-ik 動詞	非-ik 動詞	-ik 動詞		
人称\例		mond 言う					
単 数	1	-a)nék	-a)hám	-e)nék	-e)ném		
	目的語が 二人称		-a)hálak		-e)nélek		
	2	-a)hál		-a)hád	-e)nél	-e)néd	
	3	-a)na	-a)nék	-a)há	-e)ne	-e)nék	-e)né
複 数	1	-a)hánk		-a)hók	-e)hénk		-e)nők
	2	-a)hátok			-e)hétok		

¹⁵⁶ 深谷志寿, 深谷ベルタ 1982 『昭和 57 年度言語研修ハンガリー語テキスト 2ハンガリー語 II』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所. から引用。

3	-(a)nának	-(a)nák	-(e)nének	-(e)nék
---	-----------	---------	-----------	---------

! 1 人称複数の対象活用 (=定活用) 形が -(a)nók/-(e)nők とあるが、現在ではこの区別はなくなりつつあり、主体活用 (=不定活用) の -(a)nánk/-(e)nénk が、定・不定活用あわせて使われている。

● 二重子音で終わる語幹に付くときには、語尾頭の (a)~(e) が実現する。

例, mond → mondanék

● -v 語幹の動詞は辞書形に語尾を付ける。

例, ló 「撃つ」 ~ löv- → lö-ne

ró 「漕ぐ」 ~ rov- → ró-na

hív 「呼ぶ」 → hív-na

〔古〕 hí ~ hív- → hí-na

● -sz ~ -v 語幹のものは最も短い語幹に -n- を二重にした -nna ~ -nne を付ける¹⁵⁷。

例, lesz 「なる」 ~ le- ~ lev- → le-nnék, le-nnél, le-nne, ... stb.

● -sz ~ -d ~ -v 語幹のものは -d 語幹に -na ~ -ne を付ける。

例, alszik 「眠る」: alusz- ~ alud- ~ alv- → alud-nék, alud-nál,

alud-na, stb...

● 語幹内の o ~ e ~ ö 母音が脱落するような語幹 (例, sodor- ~ sodr-, botl- ~ botl-) においてはふつう辞書形に -na ~ -ne を付ける。

例, sodor-na

一部においては母音が脱落した語幹に -ana ~ -ene を付ける。

例, botl-ana

一部には両方の形のあるものもある。

例, oml-ik ~ omol- : omol-na = oml-ana

1.2. van と lesz の仮定形 : volna と lenne¹⁵⁸

ほぼ同じ意味・用法で使用。lenne はどちらかというとも未来に、volna は現在について言及する。

a. Ha fél hét-re készen len-nél,

もし半 7時昇 準備が出来ている be-仮定-2 単

együtt indul-hat-ná-nk.

一緒に 出発する-可能-仮定-1 複

「もし 6時半までに準備が出来るといふなら、我々是一緒に出発できるだろう¹⁵⁹」

b. Ha Kati nem vol-na beteg

もし カティ 否定 be-仮定3 単 病気な

ő-t kér-né-nk

meg er-re.

彼 (女) -対格 お願いする-仮定-1 複定活用

[完了] これ昇

¹⁵⁷ SZ 動詞の例, 他。以下, 3 人称単数不定活用形を示す: tesz 「する」 → tenne, vesz 「取る, 買う」 → venne, hisz 「信じる」 → hinne, visz 「持って行く」 → vinne, eszik 「食べる」 → enne, iszik 「飲む」 → inna, megy 「行く」 → menne, jön 「来る」 → jönne

¹⁵⁸ 仮定法の活用は, van : volnék, volnál, volna, volnánk, volátok, volnának / lesz : lennék, lennél, lenne, lennénk, lennétek, lennének

¹⁵⁹ indulhatnánk 「我々はお出発できるだろう」 のとおり, 動詞語幹 indul に可能接辞 -hat/het を付け, その後に仮定法のマーカーと活用語尾が付く。これは他の接辞も同様。たとえば, 使役接辞の例では e-tet-nél (「食べる」-使役-仮定-2 単) 「君は食べさせる」となる。

「もしカティが病気でなければ、これを彼女にお願いするのに¹⁶⁰」

1.3. 助動詞的動詞 (lehet, kell, tud など) を使ったもの

lehet 「可能である」、kell 「必要である」、tud 「出来る」を仮定法にする (不定詞はそのまゝ)。¹⁶¹

- a. Nem lehet-ne csinál-ni valami-t?
否定 可能である-仮定3単 する-不定詞 なにか-対格
「何か出来ないのでしょうか？」
- b. Egy kis pénz kell-ene!
不定冠詞 小さい お金 必要である-仮定3単
「ちょっとお金が必要なんです！」¹⁶²
- c. Tud-ná-nk segít-eni, ha akar-ná-nk.
出来る-仮定1複 助ける-不定詞 もし 欲する-仮定1複
「もし我々が欲すれば、我々は助けることが出来よう」

1.4. 「AはBである」などの主格文

主格文「AはBである」、すなわち、名詞、形容詞が述部になる場合、直説法現在では3人称においてコピュラを置く必要が無かったが、仮定法では3人称の主格文においては (直説法過去や命令法と同じく)、van の仮定法3人称形が必要である。

Ha Péter tolmács vol-na, most ő fordít-ana.
もし ペーテル通訳 be-仮定3単 いま 彼 翻訳する-仮定3単
「もしペーテルが通訳なら、いま彼は翻訳するだろうに」

2. 用法

仮定法と命令法の限定接辞は共存できない。仮定法は「仮定」だけではなく、「期待」、「謙譲」などを表す。

Ha ez-t meg-lát-ná-d, akkor rosszul len-né-l. 【仮定】
もし これを [完了]見る-仮定2単定 その時は悪く なる-仮定2単
「君がこれを見たら、気持ち悪くなるだろう」
vö. : Ha ezt meglátod, akkor rosszul leszel.
「君がこれを見たら気持ち悪くなるさ」

Ha én folyó vol-né-k, bánat-ot se tud-né-k... 【願望】
もし わたしが川 ある-仮定1単 悲しみ-対格 否定 知る-仮定1単
「もし私が川ならば、憂えることもないだろうに…」

Én vol-né-k a tanár 【謙譲】
私が ある-仮定1単 定冠詞 先生
「私が先生なのですが」

2.1. 丁寧なお願い、許可など

a. Kér-né-k egy pohár viz-et!

¹⁶⁰ megkér vkit vmire で「…に～をお願いする」、ちなみに接頭辞無しでは、kér vmit vkitől になることに注意 (Pénzt kérem Katitól. 「私はカティにお金をお願いする」)。

¹⁶¹ なお、不定詞が接頭辞付き動詞の場合の語順は直説法の表現と同じく、接頭辞が分離して助動詞的動詞の前に置かれる。例、Ki lehetne nyitni az ajtót. 「そのドアを開けることが出来るだろう」

¹⁶² 例文にある kellene (kell の仮定法) は、口語ではよく kéne として使われる。

お願いする-仮定-1 単不定 1 杯, グラス 水-対格
「水を一杯ください」

b. Beszél-het-né-k Balogprofesszor úr-ral?
話す-可能-仮定-1 単 バログ 教授 様-具格
「バログ先生とお話できますでしょうか？」

c. Egy kérés-em vol-na.
1 お願い-所有-1 単 be-仮定-3 単
「ひとつお願いがあるのですが」

2.2. 確信のないことや質問

a. Tényleg beteg vol-na Judit?
本当に 病気な be-仮定-3 単 ユディット
「本当にユディットは病気なのだろうか？」

b. Ki tud-ná meg-mond-ani,
誰が 出来る-仮定-3 単定 [完了] -言う-不定詞
hogymikor élt Mátyás király?
that いつ 生きる-過去-3 単 マーチャーシュ王
「マーチャーシュ王がいつ生きていたかということ、誰が言うことが出来るでしょうか？」

2.3. 可能性など

Ha le-fordít-aná-m azt a regény-t,
もし [完了] 翻訳する-仮定-1 単定 あれ-対格 定冠詞 小説-対格
mennyi-t fizet-né-nek?
どのくらい-対格 支払う-仮定-3 複不定
「もしその小説を翻訳したら、どのくらいお支払いになるのでしょうか？」

2.4. mintha + 仮定法「あたかも～のように」

Mintha már fenn vol-ná-nak a gyerek-ek.
まるで もう 上に be-仮定-3 複 定冠詞 子ども-複
「まるでもう上に子どもたちがいるようだ」

3. 仮定法過去 (feltételes mód, múlt idő) ¹⁶³

仮定法過去は動詞の過去形の直後に volna (方言では lenne もある) を付けて表す。以下, lát「見る」の仮定法過去形の変化。

人称\例		主体活用	対象活用
単 数	1	láttam volna	
	目的語が 二人称		láttalak volna
	2	láttal volna	láttad volna

¹⁶³ 深谷志寿, 深谷ベルタ 1982 『昭和 57 年度言語研修ハンガリー語テキスト 2ハンガリー語 II』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所. から引用。

	3	látott volna	látta volna
複 数	1	láttunk volna	láttuk volna
	2	láttatok volna	láttátok volna
	3	láttak volna	látták volna
		古形	láttanak volna

3.1. 仮定法過去の用例と語順

実際の例は以下を参照。eszik「食べる」の過去形 evett の直後に仮定法過去を表す volna を置く。なおこの文では後段は仮定法現在が続いている。仮定法過去は実際に起こりえなかった事実を逆説的に述べるものである。実際には、「ハムをたくさん食べてしまった結果、いま胃袋が痛む」ということになる。

Ha nem ev-ett volna olyan sonká-t,
もし 否 食べる-過3単不 volna そんな ハム-対
most nem fáj-na a gyomr-a.
いま 否 痛む-仮3単 冠 胃(gyomor)-所3単
「もし彼(女)はそんなにハムを食べなかったら、いま胃袋が痛くない
だろうに」

3.2. 不規則動詞や助動詞的動詞の例

van (不定詞は lenni)の仮定法過去は, lett volna となる。すなわち, lesz (なる) の過去形 lett の直後に van の仮定形である volna を置く (van の過去形 volt をつかって, volt volna ではないことに注意)。

Ha nem lett-em volna beteg már rég
もし 否 be.過去-1単 volna 病気 すでに 昔
be-fejez-t-em volna ez-t a munká-t.
終える-過去-1単定 volna これ対 定冠 仕事対
「もし病気じゃなかったら、とうの昔にこの仕事を終えていたのだが」
Megint el-kés-t-él! Nem lehet-ett volna
また [完了] 遅れる-過2単 否 出来る-過3単 volna
korá-bb-an indul-ni?
早い-比副詞 出発する-不定詞
「君はまた遅れた！ もっと早くに出発することは出来なかったの？」
Mi-t kell-ett volna csinál-n-om, hogy
何-対 必要である-過3単 volna する-不定詞-1単 that
meg légy eléged-ve?
[完了] be.命令2単 満足する-副動
「君が満足してしまうためには、私は何をすることが必要だったの？」

3.3. 語順

仮定法過去の一般的な語順は上の例のとおり、「動詞過去形+volna」である (volna は動詞本体の直後に必ず置く)。以下は動詞接頭辞付き動詞の例。強調要素 (b) や否定 (c)がある場合、接頭辞 (ここでは el「離れて」) は動詞本体から離れ、volna の後ろに回ることに注意 (jöttél el volna にはならない)。

a. Ha el-jö-tt-él volna a bál-ba,
もし 離れて-来る-過2単 volna 冠 舞踏会-入格

jól érez-t-ed volna magad.

良く 感じる-過2単定 volna 君自身 (を)

「もし舞踏会へ来ていたなら、君は楽しただろうに」

b. Ha a bál-ba jö-tt-él volna el, jól érez-t-ed volna magad.

「もし“(他でもない) その舞踏会に”来ていたなら、君は楽しただろうに」

c. Ha nem jö-tt-él volna el a bál-ba,

もし 否 来る-過2単 volna 離れて 定冠 舞踏会-入格

sajnál-hat-t-ad volna.

残念に思う-可過2単定 volna

「もし舞踏会に来なかったとしたら、君は(それを)残念に思っただろうに」

練習問題

(1) カッコの中を仮定法にきなさい。

Ha lenne pénzem, (veszek egy autót) →

(beutazom a világot) →

(építek egy nagy házat) →

(megkínálom a szegény emberket ennivalóval)

→

(minden nap piros rózsát küldök a barátnőmnek)

→

Ha lenne időm, (elmegyek hozzád beszélgetni)

→

(kialszom magam) →

(elszaladok postára ezt a levelet feladni)

→

(végignézem ezt a filmet) →

(elutazom Magyarországra) →

(2) 例のとおりに仮定法過去の形にきなさい。

Nem vettem észre a táblát, így tilosban parkoltam.

→ *Ha észrevettem volna a táblát, nem parkoltam volna tilosban.*

Nem halltattuk meg az időjárás-jelentést, így nem vittünk esőkabátot.

→

A teherautó vezetője nem figyelt, ezért balesetet okozott.

→

Nincs jogosítványod, így nem vettek fel a vállalathoz.

→

Nem foglaltatok időben szobát, ezért nem találtatok jobb helyet.

→

Túl gyorsan hajtottál, így a rendőr megbüntetett.

→

第 20 課 髪を切って染めてほしい (Vágatni és festetni szeretnék)

会話

- Halló! Fodrászat.
- Eszti, maga az?
- Igen, tessék parancsolni!
- Bilikné vagyok, Éva. Szeretnék bejelentkezni, ha lehet, holnapra.
- Holnap sajnos már nem megy, végig foglalt vagyok. Holnapután 11 órakor megfelel?
- Nem lehet korábban? Mondjuk 9-kor.
- Rendszerben van, már be is írtam. Mit csinálunk?
- Vágatni és festetni szeretnék.
- Akkor várom holnapután 9-kor.

- Milyen frizurát csináljak?
- Ilyesmit, mint ez itt a fotón. Elöl hagyja meg hosszabbra, hátul vágja jó rövidre!
- Így jó lesz?
- Igen, nagyon jó a formája... És szőkén még jobban fog mutatni. Egészen világos szőkét szeretnék.

- Úristen! Mi történt veled?
- Mi az, talán nem tetszem? Egy vagyont fizettem a szépségemért.

- Ezt igazán megtakaríthatad volna... Nekem sokkal jobban tetszett az eredeti hajszíned...

単語リスト

beír	書きこむ, 記録する
bejelentkezik	予約する
egészen	完全に
elől	前は
eredeti	本来の, 元の
fest	塗る, 描く
fodrászat	理髪業, 理髪店
foglalt	占められた, 予約されてある
forma	形
fotó	写真 (=fénykép)
frizura	髪型
hajszín	髪の色
hátul	後ろは
holnap	明日
holnapután	明後日
hosszú	長い
ilyesmi	こんなもの
kora	早い
meghagy	~のままにしておく
megtakarít	お金を貯める, 貯蓄する
mutat	示す, 見せる, ~のように見える
rövid	短い
sokkal	とても
Úristen	神, ああ驚いた!
vág	切る
vagyon	富, 大金
világos	明るい
-né	~夫人

文法解説¹⁶⁴

1. 未来時制 (jövő idő)

ハンガリー語の時は時制 (igeidő) [絶対時 abszolút idő] と言うよりは相 (aspektus, akcióminőség) [相対時 relatív idő] である。形式的には未完了 (befejezetlen) [φ, -sz] と完了 (befejezett) [-t] の二相しか無いが、ここでは慣習に従って前者を現在、後者を過去と言っておく。

ハンガリーの未来時は日本語同様、動詞の現在形をもって表す。(例: Holnap tanulok. 明日勉強します。) 未来完了 (befejezett jövő) は日本語と同様に動詞の過去形をもって表す。(例: Ha holnap hazajöttem, ... 明日家に帰ったら…)

これとは別に、はっきりと「未来」を表したいときには動詞 fog (掴む) を助動詞 (segédige) 的に用い、動詞の名詞分詞 (főnévi igenév) [不定詞 infinitivus] といっしよに使う。

Holnap	tanul-ni	fog-ok.
明日	勉強する-不定詞	[未来] -I 単不定活用
「明日、勉強します。」		

昔は -and/-end という接尾辞をつけて未来を表したこともあった。(例: † Holnap tanulandok.) これは現在用いられない。

2. 比較級・最上級

形容詞の比較級には母音の後は -bb, それ以外は -abb/-ebb を付けることによって作る。また、これに、-an/-en を付けることによって副詞になる (-bban/-bben)。最上級は比較級の語頭に leg- をつけるが、特に強調したいときには最上級の頭にさらに leges を付ける。

gyors	速い	gyorsan	早く
gyorsabb	より速い	gyorsabban	より速く
leggyorsabb	最も速い	leggyorsabban	最も速く
legesleggyorsabb	一番速い	legesleggyorsabban	一番速く

ただし、いくつかの形容詞は一見不規則な変化をする。この場合でも比較級をもとにすれば他の形は派生することができる。

szép	→	*szépebb ではなく	szébb
jó	→	*jóbb ではなく	jobb
sok	→	*sokabb ではなく	több
kicsi	→	kicsibb ではなく	kisebb [ˈkif:ebb]

3. 使役動詞 (műveltető ige)

使役動詞は動詞の語幹に派生辞 -at/-et/-tat/-tet をつけて作る。-at/-et は専ら単音節の動詞 (adat, éget) と、複音節で語幹末が -g の動詞の一部 (csikorgat, forgat), 及び語幹末が -sz/-jt のもの (forrasztat, felejtet) につく。それ以外は -tat/-tet (kopogtat, koptat) である。一部の動詞は両方がついて意味が分化したものもある (例: folyik 「流れ

¹⁶⁴ 深谷志寿, 深谷ベルタ 1982 『昭和 57 年度言語研修ハンガリー語テキスト 2ハンガリー語 II』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所. から引用。

る」, folytat 「流す」, folytat 「続ける」)。使役動詞には次の種類がある。

3.1. 本来の使役動詞 (igazi műveltető ige)

a) 狭い意味の使役動詞 (kauzatív ige) :

A fia-m-mal ki-takarít-tat-om a szobá-t
 定冠 息子-所有 1 単-具格 [完了] 掃除する-使役-1 単定活用 定冠 部屋-対格
 「息子に部屋の掃除をさせる。」

b) 作為動詞 (faktitív ige) :

Ki-szök-tet-t-em Lengyelország-ba.
 接頭辞「外へ」-逃げる-使役-過去-1 単定活用 ポーランド-入格
 「ポーランドに(彼(女)を)逃がしてやった。」

c) 行為が及ぶことを表す :

fel-ke-lt 「起こす」, fürösz-t 「入浴させる」 (=fürdet ← fürd-ik + -et)

3.2. 不完全使役動詞 (tökéletlen műveltető ige)

a) 状態の変化を表す :

bíz-tat 「励ます」

b) 状態の変化を起こすことを表す :

oszl-at 「散らす」

3.3. 擬似使役動詞 (álműveltető ige)

a) 主語が動詞の本来の意味によって表される行為を我慢する, 許すもの :

szid-at 「叱らせておく」, kicsúz-tat 「滑らせる, 滑らせて離す」

b) 動詞の本来の意味を誰か, 何かについて述べるもの :

származ-tat vkit vhonnan 「(誰か) の出が〈どこ〉だと言う」

hibáz-tat vkit 「(誰か) が誤っていると言う」

4. 受け身の動詞 (szenvető ige)

使役動詞を -ik 活用させたものが受け身の動詞である。行為主 (ágens)は …által 「〜に (よって)」で表す。

Én meg-ver-et-t-em Gábor által.

私 接頭辞 [完了] 打つ受動-過去-1 単 ガーボル〜によって

「私はガーボルに殴られた。」

	使役動詞	受動動詞
	殴らせる	殴られる
1SG	megveretek	megveretem
2SG	megveretsz	megvereted
3SG	megveret	megveretik
1PL	megveretünk	megveretünk
2PL	megverettek	megverettek
3PL	megveretnek	megveretnek

なお, 受け身の動詞からも名詞を派生することがある。

例 :

üldöztetés 「迫害」 ← üldöz-tet-ik 「迫害される」

száműzetés 「追放」	←	száműz-et-ik 「追放される」
küldetés 「派遣」	←	küld-et-ik 「派遣される」
születés 「誕生」	←	szül-et-ik 「生まれる」

※しかし、受け身の動詞は、現代ハンガリー語では用いられない¹⁶⁵。例えば、上の「私はガーボルに殴られた」は能動文で「ガーボルは私を殴った (Megverett engem.)」と表す。以下も参照。

- a. A tets el-gázol-t-a Eriká-t.
 定冠 犯人 接頭辞 [完了] 轢く-過去3単定活用 エリカ-対格
 「犯人がエリカを轢いた。」
- b. *Erika el-gázol-tat-ott a tettes által.
 エリカ 接頭辞 [完了] 轢く-受動過去3単 定冠 犯人 ~によって
 「エリカは犯人によって轢かれた。」

そして、現代でも用いられる受け身動詞は以下の一例 (születik 「生まれる」) のみ。

1972-ben szül-et-t-em. (← szül 「(～を) 産む」)¹⁶⁶

1972年に 産む-受動過去-1単
 「私は1972年に生まれました。」

A „tatik/tetik” nem használ-tatik.
 定冠 “-tatik/-tetik (受動形態素)” 否定 使う-受動3単
 「(受動形態素の) “-tatik/-tetik” は使われない」
 (← “使われない (hasznal-tatik)” と使っている、という冗談)

5. 中動態 (mediális igék)

中動態は形式的には能動態だが、意味的には受動態、すなわち主語が動作主 (agens) ではありませんが、能動態のように行為の対象が主語になり、動作主が表示されていないものを言う。

- a. A munkás-ok föl-épít-ett-ék az épület-et.
 定冠 労働者-複 接頭辞「上へ」-建てる-過去3複定活用 定冠 建物-対格
 「労働者たちはその建物を建てた。」
- b. Az épület föl-épül-t.
 定冠 建物 接頭辞「上へ」-建つ過去3単
 「その建物は建った。」
- c. Az épület föl-épít-tet-ett a munkás-ok által.
 定冠 建物 接頭辞「上へ」-建てる-受動過去3単 定冠詞 労働者-複 ~によって
 「その建物は労働者たちによって建てられた。」

中動態は主に -ul/-ül ~ -ódik/-ődik などの派生辞によって作られる。

5.1. -ul/-ül ~ -ít

-ul/-ül は名詞・形容詞について自動詞を、-ít は他動詞を派生する。-ul/-ül は中動態になることが多いが、必ずしもそうあるわけではない。-ul/-ül ~ -ít は対をなすこ

¹⁶⁵

¹⁶⁶ よって、születtem 「(私は) 生まれた」は、szül-ett-em (szül+過去形) という分析にはならないことに注意。

とが多い。

例：

tan-ul 「学ぶ」	～	tan-ít 「教える」
szép-ül 「美しくなる」	～	szép-ít 「美しくする」
kész-ül 「できあがる」	～	kész-ít 「作る」

6. 従属形容分詞節：関係節との言い換え

文献に最初の関係代名詞 *aki* が出るのは 1372 年のことである。これは *az ki* から発達したもので、*az ki > a' ki > aki (>ki)* のような発達経路をたどったと思われる。それ以前は日本語のように動詞の連体形（形容分詞、または現在分詞）によってしか関係節は表せなかったわけだが、関係代名詞が形成されたことによって関係形容分詞節はすたれてしまい、現在は完全なものではない。

現代語では † *három ökör szántó föld* 「牛三頭が耕す土地」のような言い方は出来ない。つまり現在では関係形容分詞節の主語と主節の被修飾語が一致しなければならない。あるいは関係代名詞節の関係代名詞が主格のものだけ関係形容分詞節に変形することができると言える。

a. A	sok	könyv-et	olvas-ó	fiú			
定冠	たくさんの	本-対格	読む-現在分詞	少年			
「多くの本を読む少年」							
b. =	A	fiú, aki	sok	könyv-et	olvas		
	定冠	少年 関係代名詞	たくさんの	本-対格	読む-3 単不定活用		
a. A	zöld	fa	alatt	alv-ó	leány		
定冠	緑の	木	～の下に	寝る-現在分詞	少女		
「緑の木陰で眠る少女」							
b. =	A	leány, aki	a	zöld	fa	alatt	alsz-ik
	定冠	少女 関係代名詞	定冠詞	緑の	木	～の下に	寝る-3 単
a. *A	három	ökör	szánt-ó	föld			
定冠	3	牛	耕す-現在分詞	土地			
b. =	A	föld, ami-t	három	ökör	szánt		
	定冠	土地 関係代名詞-対格	3	牛	耕す-3 単		
「牛三頭が耕す土地」							

練習問題

(1) 例のように使役文に書き換えなさい。

A diákok gyakorolják az új leckét.

→ *A tanár gyakoroltatja az új leckét a diákokkal.*

A legnehezebb mondatot Péter olvassa fel.

→ *A tanár*

Éva és Péter eljátssza a párbeszédet.

→

Toru felírja a táblára az új kifejezéseket.

→

A többiek kikeresik az új szavakat a szótárból, azután magyarul megmagyarázzák.

→

Az óra végén elénekelik azt a dalt, amelyet a múlt héten tanultak.

→

(2) かつこの動詞を未来の表現にきなさい。

Szállodában fogok aludni. (alszik, én)

Magyarul _____ beszélget _____. (mi)

Meg _____ néz ____ a várost? (ti)

Sokat _____ nevet _____. (önök)

A lift nem _____. (működik)

Az utasok izgul _____.

_____ (esik) az eső.

A pályaudvaron _____ vár _____ téged.

※なお、本文会話および文法解説、練習問題の作成において、以下のものを適宜

参照・引用している：

Erdős József & Prileszky Csilla 1992 *Halló, itt Magyarország!* I & II kötet, Akadémiai kiadó, Budapest.

深谷志寿, 深谷ベルタ 1982 『昭和 57 年度言語研修ハンガリー語テキスト 2 ハンガリー語 II』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.

岩崎悦子, 浅津ケステューシュ・エルジェーベト 1997 『ハンガリー語 II』, 大学書林.

早稲田みか 1995 『ハンガリー語の文法』, 大学書林.

早稲田みか, 岡本真理, チェレシネーシ・ラースロー, チェレシネーシ・マールタ (編) 1997 『平成 9 年度言語研修ハンガリー語テキストハンガリー語』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.

参考文献

- Erdős József & Prileszky Csilla 1992 *Halló, itt Magyarország!* I & II kötet, Akadémiai kiadó, Budapest.
- 深谷志寿, 深谷ベルタ 1982 『昭和 57 年度言語研修ハンガリー語テキスト 2 ハンガリー語 II』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- 岩崎悦子, 浅津ケステューシュ・エルジェーベト 1987 『ハンガリー語 I』, 大学書林.
- 岩崎悦子, 浅津ケステューシュ・エルジェーベト 1997 『ハンガリー語 II』, 大学書林.
- Kesesei István, Robert M. Vago, Anna Fenyvesi 1998 *Hungarian (Descriptive Grammars)*, Routledge, London/New York.
- 岡本真理 2013 『世界の言語シリーズ 8 ハンガリー語』, 大阪大学出版会.
- 大島一 2008 『ハンガリー語のしくみ』, 白水社.
- Pontifex, Zsuzsa 2011 *Complete Hungarian with Two Audio CDs: A Teach Yourself Guide (Teach Yourself Language)*, McGraw-Hill, London, UK.
- Tompa József (szerk.) *A mai magyar nyelv rendszere - Leíró nyelvtan I. & II.*, Akadémiai kiadó, Budapest.
- 早稲田みか 1995 『ハンガリー語の文法』, 大学書林.
- 早稲田みか, 岡本真理, チェレシネーシ・ラースロー, チェレシネーシ・マールタ (編) 1997 『平成 9 年度言語研修ハンガリー語テキストハンガリー語』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.